

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年10月 1日

出願番号
Application Number: 特願2003-342911

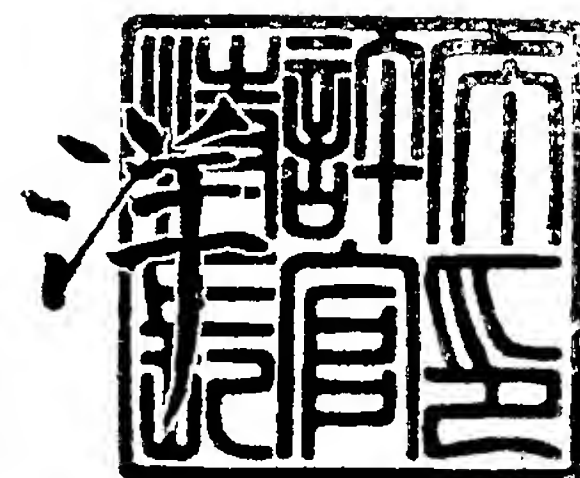
[ST. 10/C]: [JP 2003-342911]

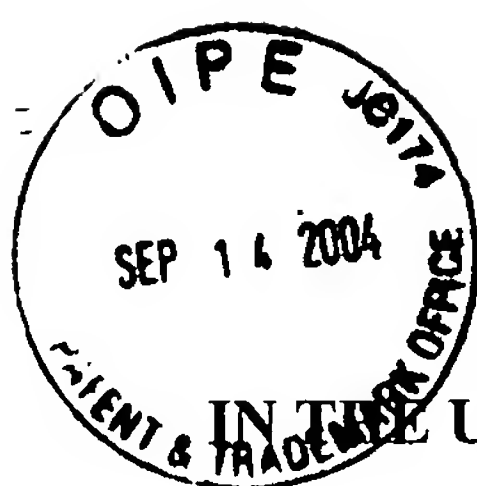
願人
Applicant(s): パイオニア株式会社

2004年 7月 2日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川





IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of: **TADA, Kenichiro**

Group Art Unit: **Not Yet Assigned**

Serial No.: **10/711,352**

Examiner: **Not Yet Assigned**

Filed: **September 13, 2004**

For. **DISPLAY CONTROLLER, DISPLAY CONTROL METHOD, AND RECORDING MEDIUM WITH PROGRAM FOR EXECUTING THE DISPLAY CONTROL METHOD RECORDED THEREIN**

CLAIM FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Date: September 14, 2004

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign application is hereby requested for the above-identified application, and the priority provided in 35 U.S.C. 119 is hereby claimed:

Japanese Appln. No. 2003-342911, filed October 1, 2003

In support of this claim, the requisite certified copy of said original foreign application is filed herewith.

It is requested that the file of this application be marked to indicate that the applicant has complied with the requirements of 35 U.S.C. 119 and that the Patent and Trademark Office kindly acknowledge receipt of said certified copy.

In the event that any fees are due in connection with this paper, please charge our Deposit Account No. 01-2340.

Respectfully submitted,

ARMSTRONG, KRATZ, QUINTOS,
HANSON & BROOKS, LLP

Mel R. Quintos
Attorney for Applicant
Reg. No. 31,898

MRQ/lrj
Atty. Docket No. **040433**
Suite 1000
1725 K Street, N.W.
Washington, D.C. 20006
(202) 659-2930



23850

PATENT TRADEMARK OFFICE

【書類名】 特許願
【整理番号】 58P0142
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 H04N 5/76
G06F 3/00
G06N 17/30
G11B 27/00
G11B 27/031

【発明者】
【住所又は居所】 埼玉県所沢市花園 4 丁目 2 6 1 0 番地 パイオニア株式会社 所
沢工場内
【氏名】 多田 謙一郎
【特許出願人】
【識別番号】 000005016
【氏名又は名称】 パイオニア株式会社
【代理人】
【識別番号】 100079083
【弁理士】
【氏名又は名称】 木下 實三
【電話番号】 03(3393)7800
【選任した代理人】
【識別番号】 100094075
【弁理士】
【氏名又は名称】 中山 寛二
【電話番号】 03(3393)7800
【選任した代理人】
【識別番号】 100106390
【弁理士】
【氏名又は名称】 石崎 剛
【電話番号】 03(3393)7800
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 021924
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 0201680

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像の表示を制御する表示制御装置であって、

前記コンテンツデータの再生日時記憶手段と、

前記コンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいて前記コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像の表示形態を変更させる表示形態変更手段と、

を備えたことを特徴とする表示制御装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の表示制御装置であって、

前記表示形態変更手段は、前記代表静止画像の表示要求日時と、前記コンテンツデータの再生日時との差分を演算することにより前記経過日数を求める

ことを特徴とする表示制御装置。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載の表示制御装置であって、

前記再生日時記憶手段は、前記コンテンツデータが再生されたコンテンツ再生時間が所定時間以上になった時、前記コンテンツデータ再生日時を記憶する

ことを特徴とする表示制御装置。

【請求項 4】

請求項 1 ないし請求項 3 のいずれか一項に記載の表示制御装置であって、

前記表示形態は、透明度、色調、表示有無、サイズ変化のうちの少なくともいずれか一つを含む

ことを特徴とする表示制御装置。

【請求項 5】

請求項 1 ないし請求項 4 のいずれか一項に記載の表示制御装置であって、

前記表示形態変更手段は、前記コンテンツデータから前記代表静止画像を生成し、この生成した前記代表静止画像の表示形態を変更させる

ことを特徴とする表示制御装置。

【請求項 6】

コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像を表示する表示制御方法であって、

前記コンテンツデータの再生日時記憶工程と、

前記コンテンツデータの再生日時から前記代表静止画像を表示した日時までの経過日数に基づいて前記コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像の表示形態を変更させる表示形態変更工程と、

を備えたことを特徴とする表示制御方法。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の表示制御方法を実施するプログラムが読み取り可能に記録された

ことを特徴とする記録媒体。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 表示制御装置、表示制御方法、および、表示制御方法を実施するプログラムを記録した記録媒体

【技術分野】

【0 0 0 1】

本発明は、コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像を表示手段に表示させる表示制御装置、表示制御方法、および、表示制御方法を実施するプログラムを記録した記録媒体に関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

従来、例えば映像データなどのコンテンツデータの再生日時に基づいて、このコンテンツデータに関連付けられた代表静止画像を並べ替えて表示部などにメニュー表示させる表示制御装置が知られている。なお、以下において、コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像をサムネイルまたはアイコンと適宜称して説明する。

【0 0 0 3】

さらに、例えばサムネイルやコンテンツデータが記憶装置などに記憶された記憶日時と現在日時との差分に基づいて、サムネイルの表示形態を変更して表示部などに表示させる表示制御装置が知られている（例えば、特許文献 1 および特許文献 2 参照）。

【0 0 0 4】

【特許文献 1】 特開平 1 0 - 2 0 7 7 5 2 号公報（第 3 頁左欄 - 第 4 頁右欄）

【特許文献 2】 特開 2 0 0 2 - 7 7 7 7 9 号公報（第 7 頁左欄 - 第 8 頁左欄）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 5】

特許文献 1 および特許文献 2 の表示制御装置のように、サムネイルやコンテンツデータが記憶装置などに記憶された記憶日時からの経過日数に基づいて、サムネイルの表示形態を変更して表示部などに表示させる構成では、サムネイルの表示形態からコンテンツデータが再生されてからの経過日数を認識できないという問題が一例として挙げられる。

【0 0 0 6】

また、コンテンツデータの再生日時に基づいてサムネイルを並べ替えて表示させただけでは、コンテンツデータの再生日時の順序は表現できても、再生されてからの経過日数の度合いを容易に認識できないという問題が一例として挙げられる。

【0 0 0 7】

本発明は、このような点に鑑みて、データが処理されてからの経過日数を容易に認識可能な表示制御装置、表示制御方法、および、表示制御方法を実施するプログラムを記録した記録媒体を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0 0 0 8】

請求項 1 に記載の発明は、コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像の表示を制御する表示制御装置であって、前記コンテンツデータの再生日時記憶手段と、前記コンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいて前記コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像の表示形態を変更させる表示形態変更手段と、を備えたことを特徴とする表示制御装置である。

【0 0 0 9】

請求項 6 に記載の発明は、コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像を表示する表示制御方法であって、前記コンテンツデータの再生日時記憶工程と、前記コンテンツデータの再生日時から前記代表静止画像を表示した日時までの経過日数に基づいて前記コンテンツデータに関連付けられた代表静止画像の表示形態を変更させる表示形態変更工程と、を備えたことを特徴とする表示制御方法である。

【0 0 1 0】

請求項 7 に記載の発明は、請求項 6 に記載の表示制御方法を実施するプログラムが読み取り可能に記録されたことを特徴とする記録媒体。

【発明を実施するための最良の形態】

【0 0 1 1】

[第 1 実施形態]

以下に、本発明に係る第 1 実施形態を図面に基づいて説明する。図 1 は、本実施形態におけるコンテンツ記録再生システムの概略構成を示すブロック図である。図 2 は、記録再生装置の HDD に記憶されたコンテンツ情報の概略構成を示す模式図である。図 3 は、コンテンツ情報に組み込まれたメイン TS パケットの概略構成を示す模式図である。図 4 は、記録再生装置の RAM の概略構成を示す模式図である。図 5 は、記録再生装置の CPU の概略構成を示すブロック図である。

【0 0 1 2】

[コンテンツ記録再生システムの構成]

図 1 において、1 0 0 は表示制御システムとしてのコンテンツ記録再生システム（以下、記録再生システムと称する）であり、記録再生装置に記録された、例えばテレビ番組などのコンテンツを再生するためのデータとしての映像データを有するコンテンツデータを、最後に再生してからの経過日数に基づいて、このコンテンツデータに関連付けられた代表静止画像としてのサムネイルの表示形態を変更して表示させるシステムである。そして、記録再生システム 1 0 0 は、表示制御装置としての記録再生装置 1 0 と、表示手段としての出力装置 3 0 と、を備えている。

【0 0 1 3】

記録再生装置 1 0 は、TS (Transport Stream) として配信され音声データ、映像データ、データ放送用データなどを有するコンテンツデータを記録する。また、記録したコンテンツデータを適宜出力して出力装置 3 0 で再生させる。さらに、コンテンツデータを最後に再生してからの経過日数に基づいた表示形態のサムネイルを生成して出力装置 3 0 に表示させる。そして、この記録再生装置 1 0 は、ネットワークインターフェースモジュール（以下、NIM と称する）1 1 と、デマルチプレクサ（以下、Demux と称する）1 2 と、オーディオデコーダ（以下、ADec と称する）1 3 と、ビデオデコーダ（以下、VDec と称する）1 4 と、データデコーダ（以下、DDec と称する）1 5 と、オンスクリーンディスプレイ（以下、OSD と称する）1 6 と、表示形態変更手段としてのグラフィックス（以下、GFX と称する）1 7 と、記録部 1 8 と、再生部 1 9 と、リモコン受光部 2 0 と、ハイスピードインターフェース（以下、HSI と称する）2 1 と、記憶手段としてのハードディスク（以下、HDD と称する）2 2 と、RAM (Random Access Memory) 2 3 と、ROM (Read Only Memory) 2 4 と、CPU (Central Processing Unit) 2 5 と、などを備えている。

【0 0 1 4】

NIM 1 1 には、例えばデジタル放送の放送波を受信するアンテナ 2 6 が接続されている。また、NIM 1 1 は、Demux 1 2 に接続されている。さらに、NIM 1 1 は、CPU 2 5 に接続されている。この NIM 1 1 は、CPU 2 5 の制御により、アンテナ 2 6 により受信されこのアンテナ 2 6 から出力される信号 San を取得する。そして、この取得した信号 San を所望されているチャンネルに対応するデジタル信号 Sni に適宜変換して Demux 1 2 へ出力する。

【0 0 1 5】

Demux 1 2 は、ADec 1 3 と、VDec 1 4 と、DDec 1 5 と、記録部 1 8 と、再生部 1 9 と、HSI 2 1 と、に接続されている。また、Demux 1 2 は、CPU 2 5 にも接続されている。この Demux 1 2 は、CPU 2 5 の制御により、NIM 1 1 から出力されるデジタル信号 Sni や HSI 2 1 から出力されるデジタル信号 Sht を取得する。この後、この取得したデジタル信号 Sni やデジタル信号 Sht に記載された TS から、予め選択しているチャンネルに対応する各種データが組み込まれた特定の TS パケットを取得する。そして、音声データが組み込まれた TS パケットを音声情報 Sdo に適宜変換して A

D e c 1 3 へ出力する。また、映像データが組み込まれた T S パケットを映像情報 Sde に適宜変換して V D e c 1 4 へ出力する。さらに、データ放送用データが組み込まれた T S パケットをデータ情報 Sdd に適宜変換して D D e c 1 5 へ出力する。なお、以下において、音声データが組み込まれた T S パケットを音声パケット、映像データが組み込まれた T S パケットを映像パケット、データ放送用データが組み込まれた T S パケットをデータパケットと適宜称して説明する。

【 0 0 1 6 】

また、D e m u x 1 2 は、C P U 2 5 の制御により、N I M 1 1 から出力されるデジタル信号 Sni や H S I 2 1 から出力されるデジタル信号 Sht を取得する。そして、この取得したデジタル信号 Sni やデジタル信号 Sht に記載された T S から、C P U 2 5 により指示されたパケット I D で識別される T S パケットを取得する。この後、この取得した T S パケットを記録信号 Sdk として記録部 1 8 へ出力する。

【 0 0 1 7 】

さらに、D e m u x 1 2 は、C P U 2 5 の制御により、再生部 1 9 から出力される再生信号 S p z を取得する。そして、この取得した再生信号 S p z に記載された後述するメイン T S パケット 4 3 A を取得する。この後、音声データが組み込まれたメイン T S パケット 4 3 A を音声情報 Sdo に適宜変換して A D e c 1 3 へ出力する。また、映像データが組み込まれたメイン T S パケット 4 3 A を映像情報 Sde に適宜変換して V D e c 1 4 へ出力する。さらに、データ放送用データが組み込まれたメイン T S パケット 4 3 A をデータ情報 Sdd に適宜変換して D D e c 1 5 へ出力する。なお、以下において、音声データが組み込まれたメイン T S パケット 4 3 A を音声メインパケット 4 3 A、映像データが組み込まれたメイン T S パケット 4 3 A を映像メインパケット 4 3 A、データ放送用データが組み込まれたメイン T S パケット 4 3 A をデータメインパケット 4 3 A と適宜称して説明する。

【 0 0 1 8 】

A D e c 1 3 は、出力装置 3 0 に接続されている。また、A D e c 1 3 は、C P U 2 5 にも接続されている。この A D e c 1 3 は、C P U 2 5 の制御により、D e m u x 1 2 から出力される音声情報 Sdo に記載された音声パケットや音声メインパケット 4 3 A を取得する。そして、これら取得した音声パケットや音声メインパケット 4 3 A に組み込まれた音声データを復調した音声信号 Sot として出力装置 3 0 へ出力する。

【 0 0 1 9 】

V D e c 1 4 は、G F X 1 7 に接続されている。また、V D e c 1 4 は、C P U 2 5 にも接続されている。この V D e c 1 4 は、C P U 2 5 の制御により、D e m u x 1 2 から出力される映像情報 Sde に記載された映像パケットや映像メインパケット 4 3 A を取得する。そして、これら取得した映像パケットや映像メインパケット 4 3 A に組み込まれた映像データを復調した音声信号 Sei として G F X 1 7 へ出力する。

【 0 0 2 0 】

D D e c 1 5 は、O S D 1 6 に接続されている。また、D D e c 1 5 は、C P U 2 5 にも接続されている。この D D e c 1 5 は、C P U 2 5 の制御により、D e m u x 1 2 から出力されるデータ情報 Sdd に記載されたデータパケットやデータメインパケット 4 3 A を取得する。そして、これら取得したデータパケットやデータメインパケット 4 3 A に組み込まれたデータ放送用データを復調したデータ信号 Shs として O S D 1 6 へ出力する。

【 0 0 2 1 】

O S D 1 6 は、G F X 1 7 に接続されている。また、O S D 1 6 は、C P U 2 5 にも接続されている。この O S D 1 6 は、C P U 2 5 の制御により、D D e c 1 5 から出力される復調したデータ信号 Shs に記載された字幕などの副映像情報を映像情報 Sos として G F X 1 7 に出力する。

【 0 0 2 2 】

また、O S D 1 6 は、C P U 2 5 の制御により、R A M 2 3 から出力される例えば J P E G (Joint Photographic Expert Group) 形式の画像データなどが記載された画像情報 Suk に記載された画像データを映像情報 Sos として G F X 1 7 へ出力する。

【 0 0 2 3 】

G F X 1 7 は、出力装置 3 0 に接続されている。また、G F X 1 7 は、C P U 2 5 にも接続されている。この G F X 1 7 は、C P U 2 5 の制御により、V D e c 1 4 から出力される復調した音声信号 S e i を取得する。また、C P U 2 5 の制御により、O S D 1 6 から出力される映像情報 S o s に記載された副映像情報や画像データなどを取得する。そして、これら取得した復調した音声信号 S e i 、副映像情報、画像データなどを適宜選択的に重畳させて重畳映像情報を生成する。この後、この重畳映像情報を出力情報 S g m として出力装置 3 0 へ出力する。

【 0 0 2 4 】

また、G F X 1 7 は、C P U 2 5 の制御により、O S D 1 6 から出力される画像データに処理を適宜施すことにより、透過度を示す情報であるアルファ値が設定された画像を生成する。なお、以下において、アルファ値が設定された画像データを仮想グラフィックスプレーンと適宜称して説明する。そして、G F X 1 7 は、複数の仮想グラフィックスプレーンを適宜重畳させて、この重畳させた仮想グラフィックスプレーンを出力情報 S g m として出力装置 3 0 へ出力する。

【 0 0 2 5 】

記録部 1 8 は、H D D 2 2 に接続されている。また、記録部 1 8 は、C P U 2 5 にも接続されている。そして、この記録部 1 8 は、バッファ 1 8 A と、記録処理部 1 8 B と、などを備えている。バッファ 1 8 A は、D e m u x 1 2 から出力される T S パケットを一時的に記憶する。記録処理部 1 8 B は、C P U 2 5 の制御により、D e m u x 1 2 から出力される記録信号 S d k に記載された T S パケットを取得し、バッファ 1 8 A に適宜読み出し可能に記憶させる。そして、バッファ 1 8 A に記憶させた T S パケットを適宜読み出し、所定の処理を施すことによりメイン T S パケット 4 3 A を生成する。そして、このメイン T S パケット 4 3 A を記録信号 S r e に適宜変換して H D D 2 2 へ出力する。なお、記録処理部 1 8 B にて、メイン T S パケット 4 3 A を生成する処理については後述する。

【 0 0 2 6 】

再生部 1 9 は、H D D 2 2 に接続されている。また、再生部 1 9 は、C P U 2 5 にも接続されている。そして、この再生部 1 9 は、バッファ 1 9 A と、再生処理部 1 9 B と、などを備えている。バッファ 1 9 A は、H D D 2 2 から出力されるメイン T S パケット 4 3 A を一時的に記憶する。再生処理部 1 9 B は、C P U 2 5 の制御により、H D D 2 2 から出力される再生信号 S p y に記載されたメイン T S パケット 4 3 A を取得し、バッファ 1 9 A に適宜読み出し可能に記憶させる。そして、バッファ 1 9 A に記憶させたメイン T S パケット 4 3 A を適宜読み出し、再生信号 S p z に適宜変換して D e m u x 1 2 や H S I 2 1 へ出力する。

【 0 0 2 7 】

リモコン受光部 2 0 は、図示しないリモートコントローラ（以下、リモコンと称する）より出力される例えば赤外線を受光する。そして、この赤外線が有する伝達信号を操作信号 S r m に適宜変換して C P U 2 5 へ出力する。

【 0 0 2 8 】

H S I 2 1 は、高速情報処理が可能な例えば I E E E (Institute of Electrical and Electronic Engineers) 1 3 9 4 規格のインターフェースである。この H S I 2 1 は、記録再生装置 1 0 の外部に設けられた図示しない外部装置から出力される処理信号 S c i に記載された例えば T S を取得する。そして、この取得した T S をデジタル信号 S h t に適宜変換して例えば D e m u x 1 2 へ出力する。また、H S I 2 1 は、例えば再生部 1 9 から出力される再生信号 S p z に記載された例えばメイン T S パケット 4 3 A を取得する。そして、この取得したメイン T S パケット 4 3 A を処理信号 S c i に適宜変換して、記録再生装置 1 0 の外部に設けられた図示しない外部装置へ出力する。

【 0 0 2 9 】

H D D 2 2 は、再生部 1 9 に接続されている。また、H D D 2 2 は、C P U 2 5 にも接続されている。この H D D 2 2 は、A T A (AT Attachment) インターフェースにより制

御される。なお、ここではHDD 2 2がATAインターフェースにより制御される構成について例示するが、IDE (Integrated Drive Electronics) インターフェースやSCSI (Small Computer System Interface) インターフェースなどで制御される構成としてもよい。また、ここでは記憶手段としてHDD 2 2を用いた構成について例示したがこれに限られない。このHDD 2 2は、複数の図2に示すような、データ情報としてのコンテンツ情報4 0などを適宜読み出し可能に記憶している。

【0 0 3 0】

コンテンツ情報4 0は、コンテンツデータを再生するための情報である。このコンテンツ情報4 0は、コンテンツ付加情報記憶部であるコンテンツ付加情報4 1と、メインTSに関連付けられた情報の記憶部であるプログラム情報4 2と、コンテンツデータ記憶部であるメインTS 4 3と、などにより構成されたテーブル構造である。

【0 0 3 1】

プログラム情報4 2は、メインTS 4 3に関連付けられた情報である。このプログラム情報4 2は、コンテンツデータが再生済みか未再生であるかを示すフラグ情報としての再生済みフラグ4 2 Aと、再生日付記録部としてのアクセスタイム4 2 Bと、代表静止画像記憶部としてのサムネイル4 2 Cと、などが1つのデータ構造として構成されたテーブル構造である。

【0 0 3 2】

再生済みフラグ4 2 Aは、例えば1バイトの情報である。この再生済みフラグ4 2 Aは、コンテンツ情報4 0に関連付けられたコンテンツデータが再生されたか否かを示すフラグ情報である。具体的には、再生済みフラグ4 2 Aが「0」であればコンテンツデータが1回も再生されていないことを示し、「1」であればコンテンツデータが少なくとも1回は再生されていることを示す。

【0 0 3 3】

アクセスタイム4 2 Bは、例えば5バイトの情報である。このアクセスタイム4 2 Bは、コンテンツデータが最後に再生された日時に関する情報である。具体的には、再生済みフラグ4 2 Aが「1」の場合、すなわちコンテンツデータが少なくとも1回は再生されている場合には、アクセスタイム4 2 Bには、コンテンツデータが最後に再生された日時情報が記載されている。一方で、再生済みフラグ4 2 Aが「0」の場合、すなわちコンテンツデータが1回も再生されていない場合には、アクセスタイム4 2 Bにはコンテンツが記録された日時が記録されている。

【0 0 3 4】

サムネイル4 2 Cは、例えばJ P E G形式の代表静止画像である。なお、ここではサムネイル4 2 CとしてJ P E G形式の代表静止画像を用いた構成について例示するが、これに限らず例えばG I F (Graphics Interchange Format) 形式やビットマップ形式などのいずれの形式を用いてもよい。

【0 0 3 5】

メインTS 4 3は、N I M 1 1にて取得するTSから特定のコンテンツに関するTSのみを選択的に取得して構成された、いわゆるパッチャルTSとして記録されたコンテンツを再生するためのデータである。このメインTS 4 3は、複数の図3に示すようなメインTS パケット4 3 Aにより構成されている。さらに、メインTS パケット4 3 Aは、コピー制御フラグ4 3 Bと、到着時刻4 3 Cと、TS パケット4 3 Dと、などにより構成されたテーブル構造である。

【0 0 3 6】

コピー制御フラグ4 3 Bは、例えば2ビットの情報である。このコピー制御フラグ4 3 Bは、TS パケット4 3 Dに組み込まれた各種データの複製を制御するフラグ情報である。このコピー制御フラグ4 3 Bにより、例えばTS パケット4 3 Dに組み込まれた各種データの複製を許可しない、制約条件なしに複製を許可するなどの情報が示される。

【0 0 3 7】

到着時刻4 3 Cは、例えば3 0ビットの情報である。この到着時刻4 3 Cは、メインT

S パケット 4 3 A が H D D 2 2 に記憶された時刻に関する情報である。

【 0 0 3 8 】

T S パケット 4 3 D は、例えば 1 8 8 バイトの情報である。この T S パケット 4 3 D は、音声データ、映像データ、データ放送用データ、P A T (Program Association Table)、P M T (Program Map Table)、S I T (Selection Information Table) などの情報が組み込まれたパケットである。

【 0 0 3 9 】

コンテンツ付加情報 4 1 は、プログラム情報 4 2 のファイル名、画像固有情報としてのサムネイル 4 2 C のファイル名、データ固有情報としてのメイン T S 4 3 のファイル名、などのコンテンツ情報 4 0 に関連する付加情報である。

【 0 0 4 0 】

R A M 2 3 は、N I M 1 1 から出力される T S から所望のコンテンツデータを取得して記録する際や、記録したコンテンツデータを再生する際に必要な各種データなどを適宜読み出し可能に記憶する。この R A M 2 3 は、図 4 に示すように、プログラム使用領域 2 3 A と、P A T 記憶領域 2 3 B と、P M T 記憶領域 2 3 C と、交換 P A T 記憶領域 2 3 D と、交換 P M T 記憶領域 2 3 E と、S I T 記憶領域 2 3 F と、画像記憶領域 2 3 G と、を備えている。なお、ここでは R A M 2 3 が上述した 7 つの記憶領域を備えた構成について例示したが、これに限らず例えば R A M 2 3 に上述した記憶領域を備えない構成や、8 つ以上の記憶領域を備えた構成などとしてもよい。また、R A M 2 3 としては、H D や光ディスクなどの記録媒体に読み出し可能に記憶するドライブやドライバなどを備えた構成などとしてもよい。

【 0 0 4 1 】

プログラム使用領域 2 3 A は、コンテンツ情報 4 0 の生成処理や更新処理、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する処理に必要な各種データを適宜読み出し可能に記憶する。

【 0 0 4 2 】

P A T 記憶領域 2 3 B は、コンテンツデータの記録処理の際に、T S パケットに組み込まれた P A T を適宜読み出し可能に記憶する。また、コンテンツデータの再生処理の際に、メイン T S パケット 4 3 A に組み込まれた P A T を適宜読み出し可能に記憶する。

【 0 0 4 3 】

P M T 記憶領域 2 3 C は、コンテンツデータの記録処理の際に、T S パケットに組み込まれた P M T を適宜読み出し可能に記憶する。また、コンテンツデータの再生処理の際に、メイン T S パケット 4 3 A に組み込まれた P M T を適宜読み出し可能に記憶する。

【 0 0 4 4 】

交換 P A T 記憶領域 2 3 D は、コンテンツデータの記録処理の際に、メイン T S パケット 4 3 A に組み込むための P A T を適宜読み出し可能に記憶する。

【 0 0 4 5 】

交換 P M T 記憶領域 2 3 E は、コンテンツデータの記録処理の際に、メイン T S パケット 4 3 A に組み込むための P M T を適宜読み出し可能に記憶する。

【 0 0 4 6 】

S I T 記憶領域 2 3 F は、コンテンツデータの記録処理の際に、メイン T S パケット 4 3 A に組み込むための S I T を適宜読み出し可能に記憶する。

【 0 0 4 7 】

画像記憶領域 2 3 G は、コンテンツデータの記録処理の際に、コンテンツ情報 4 0 のプログラム情報 4 2 にサムネイル 4 2 C として組み込むための画像データを適宜読み出し可能に記憶する。

【 0 0 4 8 】

R O M 2 4 は、記録再生装置 1 0 全体を動作制御する O S (Operating System) 上に展開される各種プログラムなどを適宜読み出し可能に記憶している。なお、R O M 2 4 の代わりに、H D D (Hard Disc) や光ディスクなどの記録媒体に読み出し可能に記憶するド

ライブやドライバなどを備えた構成などとしてもよい。

【0049】

CPU 25は、図5に示すように各種プログラムとしての記録制御手段25Aと、日付情報及び時間情報を取得するための再生日時記憶手段である日時取得手段としてのコンテンツ情報生成手段25Bと、表示形態変更手段としてのサムネイル加工手段25Cと、再生制御手段25Dと、計時手段25Eと、カウンタ25Fと、などを制御する。

【0050】

記録制御手段25Aは、NIM11、Demux12、記録部18などの動作を制御して、所望のコンテンツデータをHDD22に適宜読み出し可能に記憶させる。具体的には、リモコン受光部20から入力される操作信号Srmに基づいて、所望のコンテンツデータをHDD22に記録する旨を要求する情報を認識する。

【0051】

コンテンツ情報生成手段25Bは、コンテンツ情報40を生成して、このコンテンツ情報40をHDD22に適宜読み出し可能に記憶させる。また、コンテンツ情報生成手段25Bは、再生制御手段25Dにて再生されたコンテンツデータのコンテンツ情報40を適宜読み出す。そして、このコンテンツ情報40に組み込まれたプログラム情報42を適宜更新する。

【0052】

サムネイル加工手段25Cは、コンテンツデータが少なくとも1回は再生されているかを判断する。そして、コンテンツデータが1回も再生されていないと判断した場合には、コンテンツデータが1回も再生されていないことを示す表示形態のサムネイルを表示させるための仮想グラフィックスプレーンを生成させる。一方で、コンテンツデータが少なくとも1回は再生されていると判断した場合には、コンテンツデータが最後に再生された日と現在の日付との差分である経過日数を算出して認識する。そして、認識した経過日数に基づいた表示形態のサムネイルを表示させるための仮想グラフィックスプレーンを生成させる。

【0053】

再生制御手段25Dは、Demux12、ADec13、VDec14、DDec15、GFx17、再生部19などの動作を制御して、所望のコンテンツデータを出力装置30へ出力する。

【0054】

計時手段25Eは、例えば内部クロックなどの基準パルスに基づいて現在時刻を認識する。

【0055】

カウンタ25Fは、GFx17にて生成された仮想グラフィックスプレーンの数を計数する。

【0056】

出力装置30は、例えばパーソナルコンピュータ、テレビ、携帯電話、PDA(Personal Digital Assistant)などが例示できる。この出力装置30は、記録再生装置10から入力されるコンテンツデータを受信して出力する。そして、この出力装置30は、音声出力部31と表示部32と、などを備えている。

【0057】

音声出力部31は、例えば図示しないスピーカなどの発音手段を有している。この音声出力部31は、ADec13から入力される復調した音声信号Sotに記載された音声データを発音手段から音声により出力する。

【0058】

表示部32は、GFx17から入力される出力情報Sgmに記載された重畳映像ストリームの映像データや仮想グラフィックスプレーンなどを表示させる。この表示部32には、例えば液晶や有機EL(Electro Luminescence)パネル、PDP(Plasma Display Panel)、CRT(Cathode-Ray Tube)などが用いられる。

【0 0 5 9】

〔コンテンツ記録再生システムの動作〕

次に、記録再生システム 1 0 0 の動作について、図面を参照して説明する。図 6 は、コンテンツデータの記録処理を示すフローチャートである。図 7 および図 8 は、サムネイルの表示処理を示すフローチャートである。図 9 は、経過日数とアルファ値との関係を示すグラフである。図 1 0 は、コンテンツデータを再生した日付とサムネイルを出力装置に表示させる日付との関係を示す模式図で、(A) はコンテンツデータを 2 0 0 2 年 5 月 3 1 日に再生した後、同日にサムネイルを表示させた場合の模式図で、(B) は (A) からコンテンツデータを再生することなく 2 0 0 2 年 6 月 1 4 日にサムネイルを表示させた場合の模式図で、(C) は (B) からコンテンツデータを再生することなく 2 0 0 3 年 6 月 1 5 日にサムネイルを表示させた場合の模式図である。図 1 1 は、出力装置に表示されるサムネイルを示す模式図である。図 1 2 は、コンテンツデータの再生処理を示すフローチャートである。

【0 0 6 0】

(コンテンツデータの記録処理)

最初に、コンテンツデータの記録処理について、図 6 に基づいて説明する。まず、利用者は、図示しないリモコンの設定操作により所望のコンテンツを再生するためのコンテンツデータを記録再生装置 1 0 に記録させる、すなわち所望のコンテンツデータを有するメイン T S 4 3 を H D D 2 2 に記憶させる旨の記録要求情報を生成する。そして、この記録要求情報を赤外線を利用して記録再生装置 1 0 へ送信する。

【0 0 6 1】

記録再生装置 1 0 は、図 6 に示すように、リモコン受光部 2 0 を介して C P U 2 5 の記録制御手段 2 5 A にて記録要求情報を取得すると、この記録要求情報に基づいて、記録すべきコンテンツの周波数および T S I D (Transport Stream identity) を認識する。そして、この認識した周波数および T S I D により特定される T S を N I M 1 1 に取得させ、この取得した T S を D e m u x 1 2 へ出力させる (ステップ S 1 0 1)。

【0 0 6 2】

記録制御手段 2 5 A は、メイン T S 4 3 の記録中止を要求する旨の記録中止指示情報を受信したか否かを判断する (ステップ S 1 0 2)。この記録中止指示情報は、例えば利用者によるリモコンの設定操作により生成され、赤外線を利用してリモコン受光部 2 0 に入力される。

【0 0 6 3】

記録制御手段 2 5 A は、ステップ S 1 0 2 において、記録中止指示情報を受信していないと判断した場合には、計時手段 2 5 E から現在時刻を適宜取得する。

【0 0 6 4】

一方で、ステップ S 1 0 2 において、記録中止指示情報を受信したと判断した場合には、記録再生装置 1 0 は、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて、H D D 2 2 に記憶させたメイン T S 4 3 を読み出し、R A M 2 3 のプログラム使用領域 2 3 A に記憶させる。そして、このメイン T S 4 3 のファイル名を決定する (ステップ S 1 0 3)。

【0 0 6 5】

また、コンテンツ情報生成手段 2 5 B は、メイン T S 4 3 のコンテンツデータが 1 回も再生されていないことを示すフラグ情報を生成する。また、画像記憶領域 2 3 G に記憶された代表静止画像を取得して、この代表静止画像を例えば J P E G 形式に変換する。そして、生成したフラグ情報を再生済みフラグ 4 2 A として、変換した代表静止画像をサムネイル 4 2 C として組み込んだプログラム情報 4 2 を生成して、プログラム使用領域 2 3 A に記憶させる。なお、このとき生成されるプログラム情報 4 2 のアクセスタイム 4 2 B に記録中止指示情報を受信した時の日付を記録してもよい。この後、このプログラム情報 4 2 のファイル名を決定する (ステップ S 1 0 4)。

【0 0 6 6】

コンテンツ情報生成手段 2 5 B は、ステップ S 1 0 3 において決定したメイン T S 4 3

のファイル名と、ステップ S 1 0 4 において決定したプログラム情報 4 2 のファイル名と、などを組み込んだコンテンツ付加情報 4 1 を生成する（ステップ S 1 0 5）。そして、プログラム情報 4 2 およびメイン T S 4 3 をプログラム使用領域 2 3 A から読み出す。この後、コンテンツ付加情報 4 1 と、メイン T S 4 3 と、プログラム情報 4 2 と、を組み込んだコンテンツ情報 4 0 を生成して H D D 2 2 に記憶させ（ステップ S 1 0 6）、コンテンツデータの記録処理を終了する。

【0 0 6 7】

このコンテンツデータの記録処理を実施した後、V D e c 1 4 は、サムネイル生成要求情報を取得すると、このサムネイル生成要求情報に基づいて、D e m u x 1 2 から出力される映像パケットに組み込まれた映像データから 1 フレーム分の代表静止画像を取得する。そして、取得した代表静止画像を画像記憶領域 2 3 G に適宜読み出し可能に記憶させる。

【0 0 6 8】

（サムネイルの表示処理）

次に、サムネイルの表示処理について、図 7 ないし図 1 1 に基づいて説明する。まず、利用者は、リモコンの設定操作により、記録再生装置 1 0 に記録されたコンテンツデータのサムネイルを出力装置 3 0 に表示させる旨を要求する要求信号としてのサムネイル表示要求情報を生成する。そして、このサムネイル表示要求情報を赤外線を利用して記録再生装置 1 0 へ送信する。

【0 0 6 9】

記録再生装置 1 0 は、図 7 に示すように、リモコン受光部 2 0 を介してサムネイル加工手段 2 5 C にてサムネイル表示要求情報を取得すると、このサムネイル表示要求情報に基づいて、サムネイルを出力装置 3 0 に表示させる旨の要求を認識する（ステップ S 4 0 1）。次に、サムネイル加工手段 2 5 C は、計時手段 2 5 E から現在の日付を含む現在日時を取得し、この現在日時を表示要求日時としての操作日時 T としてプログラム使用領域 2 3 A に記憶させる（ステップ S 4 0 2）。この後、H D D 2 2 に記憶されたコンテンツ情報 4 0 の数を認識し、この認識したコンテンツ情報 4 0 の数を出力装置 3 0 に表示させるサムネイルの表示数 n として認識する（ステップ S 4 0 3）。なお、ここでは H D D 2 2 に記憶されたコンテンツ情報 4 0 の数を認識することにより表示数 n を認識する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、H D D 2 2 に、この H D D 2 2 に記憶されたコンテンツ情報 4 0 の数に関連付けられたコンテンツ数情報を適宜読み出し可能に記憶させる。そして、このコンテンツ数情報を参照することにより、表示数 n を認識する構成などとしてもよい。

【0 0 7 0】

この後、サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ S 4 0 3 において認識した表示数 n に基づいて、出力装置 3 0 に表示させるサムネイルである仮想グラフィックスプレーンの出力サイズ、出力位置などを適宜決定する。そして、G F X 1 7 を制御して、例えば「コンテンツ選択画面」「コンテンツを選択してください」などの文字が記載されたベースグラフィックスを 1 番目の仮想グラフィックスプレーンに展開する（ステップ S 4 0 4）。この後、カウンタ 2 5 F のカウンタ値 i を 1 に設定する（ステップ S 4 0 5）。

【0 0 7 1】

次に、サムネイル加工手段 2 5 C は、図 8 に示すように、カウンタ値 i から 1 を引いた値、すなわち $(i - 1)$ がサムネイルの表示数 n に達しているか否かを判断する（ステップ S 4 0 6）。そして、表示数 n に達していると判断した場合には、表示中止指示情報を受信しているか否かを判断する（ステップ S 4 0 7）。この表示中止指示情報は、例えば利用者によるリモコンの設定操作により生成され、赤外線を利用してリモコン受光部 2 0 に入力される。

【0 0 7 2】

サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ S 4 0 7 において、表示中止指示情報を受信していると判断した場合には、サムネイルの表示処理を終了する。

【0 0 7 3】

一方で、ステップ S 4 0 7 において、表示中止指示情報を受信していないと判断した場合には、コンテンツデータの再生を要求する旨の再生要求情報を受信しているか否かを判断する（ステップ S 4 0 8）。

【0 0 7 4】

記録再生装置 1 0 は、ステップ S 4 0 8 において、サムネイル加工手段 2 5 C にて再生要求情報を受信していると判断した場合には、再生制御手段 2 5 D にて後述する図 1 2 に示すようなコンテンツデータの再生処理を開始する（ステップ S 4 0 9）。そして、サムネイルの表示処理を終了する。

【0 0 7 5】

一方で、ステップ S 4 0 8 において、再生要求情報を受信していないと判断した場合には、計時手段 2 5 E から現在日時を取得するとともに、プログラム使用領域 2 3 A から操作日時 T を取得する。そして、取得した現在日時および操作日時 T から、サムネイルの表示処理を開始してから所定時間の例えば 3 0 分が経過したか否かを判断する（ステップ S 4 1 0）。なお、ここでは所定時間を 3 0 分とした構成について例示したが、これに限らず例えば 5 分や 1 時間などとしてもよい。

【0 0 7 6】

サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ S 4 1 0 において、所定時間が経過したと判断した場合には、サムネイルの表示処理を終了する。

【0 0 7 7】

一方で、ステップ S 4 1 0 において、所定時間が経過していないと判断した場合には、ステップ S 4 0 7 に戻る。

【0 0 7 8】

サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ S 4 0 6 において、カウンタ値 i がサムネイルの表示数 n に達していないと判断した場合には、例えば以下の処理を実施する。サムネイル加工手段 2 5 C は、出力装置 3 0 に i 番目に表示させるサムネイル 4 2 C を検索する。このサムネイル 4 2 C を検索する方法としては、例えば HDD 2 2 にサムネイル 4 2 C が記憶された順番に基づいて検索する方法などが例示できる。そして、サムネイル加工手段 2 5 C は、OSD 1 6 に前記検索したサムネイル 4 2 C を HDD 2 2 から取得させる。OSD 1 6 は、サムネイル 4 2 C を取得すると、このサムネイル 4 2 C にデコード処理を施し GFX 1 7 へ出力する。そして、GFX 1 7 は、OSD 1 6 からデコード処理が施されたサムネイル 4 2 C を取得すると、サムネイル加工手段 2 5 C の制御により、このサムネイル 4 2 C を $(i + 1)$ 番目の仮想グラフィックスプレーンに展開する（ステップ S 4 1 1）。

【0 0 7 9】

サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ S 4 1 1 において仮想グラフィックスプレーンに展開されたサムネイル 4 2 C が組み込まれたコンテンツ情報 4 0 を認識する。そして、このコンテンツ情報 4 0 の再生済みフラグ 4 2 A を参照して、再生済みフラグ 4 2 A が「0」、すなわちメイン TS 4 3 のコンテンツデータが 1 回も再生されていないことを認識した場合には、例えば以下の処理を実施する。サムネイル加工手段 2 5 C は、 $(i + 1)$ 番目の仮想グラフィックスプレーンのアルファ値以外すなわち透明度以外の設定を変更する。この設定の変更としては、例えば色調をモノトーン調やセピア調などへ変更する構成などが例示できるがこれに限られない。

【0 0 8 0】

一方で、サムネイル加工手段 2 5 C は、再生済みフラグ 4 2 A を参照して、再生済みフラグ 4 2 A が「1」、すなわちコンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されていることを認識した場合には、このコンテンツ情報 4 0 のアクセスタイム 4 2 B を認識する（ステップ S 4 1 2）。この後、プログラム使用領域 2 3 A に記憶させた操作日時 T を読み出し、この操作日時 T とアクセスタイム 4 2 B との時間差分、すなわちコンテンツデータが最後に再生されてから経過した日数を求める。そして、サムネイル加工手段 2 5 C は、例え

ば図 9 に示すようなグラフに基づいて、求めた経過日数から $(i + 1)$ 番目の仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する（ステップ S 4 1 3）。

【0 0 8 1】

すなわち、サムネイル加工手段 2 5 C は、経過した日数が 0 日の場合には、アルファ値を 2 5 5 に決定する。また、経過した日数が 1 ヶ月以上かつ 1 年未満の場合には、アルファ値を経過日数が一ヶ月である場合と同じ表示にするために 0 の近傍の α に決定する。さらに、経過した日数が 1 年以上の場合には、アルファ値を 0 に決定する。そして、経過日数が 1 日以上かつ 1 ヶ月未満の場合には、アルファ値を経過日数に比例させて小さくした値に決定する。なお、ここではアルファ値を図 9 のグラフに基づいて決定する構成について例示したがこれに限られない。

【0 0 8 2】

次に、サムネイル加工手段 2 5 C は、G F X 1 7 を制御して、 $(i + 1)$ 番目の仮想グラフィックスプレーンのアルファ値をステップ S 4 1 3 において決定したアルファ値に設定させる（ステップ S 4 1 4）とともに、仮想グラフィックスプレーンを予め決定されている出力サイズに変換する。この後、 $(i + 1)$ 番目の仮想グラフィックスプレーンを、1 番目の仮想グラフィックスプレーン、すなわちベースグラフィックスの予め決定されている位置に重畳させて出力装置 3 0 に表示させる（ステップ S 4 1 5）。

【0 0 8 3】

そして、 $(i + 1)$ 番目の仮想グラフィックスプレーンのアルファ値が図 9 のグラフに基づいて設定されることにより、出力装置 3 0 の表示部 3 2 における任意の表示領域には、例えば図 1 0 (A) ないし (C) に示されるような画像 5 0 i (i は自然数) が表示される。なお、以下において、仮想グラフィックスプレーンにより出力装置 3 0 に表示される画像 5 0 i を、サムネイル画像 5 0 i と適宜称して説明する。

【0 0 8 4】

例えば、コンテンツデータを 2 0 0 2 年 5 月 3 1 日に再生した後、同日にサムネイルを表示させる場合には、経過した日数は 0 日となりアルファ値は 2 5 5 に設定される。このため、出力装置 3 0 に表示されるサムネイル画像 5 0 i は、図 1 0 (A) に示すように不透明な画像となる。

【0 0 8 5】

この後、コンテンツデータを再生することなく 2 0 0 2 年 6 月 1 4 日にサムネイルを表示させる場合には、経過した日数が 1 4 日なのでアルファ値は 2 5 5 よりも低い値に設定される。このため、サムネイル画像 5 0 i は、図 1 0 (B) に示すように半透明な画像となる。

【0 0 8 6】

そして、コンテンツデータを再生することなく 2 0 0 3 年 6 月 1 5 日にサムネイルを表示させる場合には、経過した日数は 1 年以上なのでアルファ値は 0 に設定される。このため、サムネイル画像 5 0 i は、図 1 0 (C) に示すように透明な画像となり肉眼で認識できなくなる。

【0 0 8 7】

なお、例えば 2 0 0 3 年 6 月 1 4 日に、図 1 0 (C) に示すようなサムネイル画像 5 0 i を選択することによりコンテンツデータを再生した後、同日にサムネイルを表示させる場合には、経過した日数は 0 日なのでアルファ値は 2 5 5 に設定される。このため、サムネイル画像 5 0 i は、図 1 0 (A) に示されるサムネイル画像 5 0 i と同一の不透明な画像となる。

【0 0 8 8】

また、上述したコンテンツデータが例えば 2 0 0 2 年 5 月 1 4 日に記録されており、このコンテンツデータを再生することなく 2 0 0 2 年 5 月 2 8 日にサムネイルを表示させる場合には、コンテンツデータが 1 回も再生されていない。このような場合には、サムネイル画像 5 0 i は、ここでは図示しないが、例えば経過日数により変更する表示形態とは異

なる表示形態で表示され、経過日数に対応してその表示形態は変更されないようにしてもよい。また、再生済みコンテンツデータのサムネイル画像と同様に、記録した日付からの経過日数に対応して表示形態を変更させるようにしてもよい。コンテンツデータが再生されたか、未再生であるかは再生済みフラグ 4 2 A によって認識することができる。

【0 0 8 9】

サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ S 4 1 5 の処理を実施した後に、カウンタ 2 5 F のカウンタ値 i を 1 だけ増やし（ステップ S 4 1 6）、ステップ S 5 0 6 の処理を実施する。

【0 0 9 0】

そして、サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ 4 0 6、ステップ S 4 1 1 ないしステップ S 4 1 6 の処理を適宜実施することにより、出力装置 3 0 に、図 1 1 に示すように、6 個のサムネイル画像 5 0 i を表示させる。例えば 2 番目の仮想グラフィックスプレーンにより 1 番目に表示させるコンテンツ A のサムネイル画像 5 0 1 を画面上の左上側に、4 番目の仮想グラフィックスプレーンにより 3 番目に表示させるコンテンツ C のサムネイル画像 5 0 3 を画面上の右上側に、6 番目の仮想グラフィックスプレーンにより 5 番目に表示させるコンテンツ E のサムネイル画像 5 0 5 を画面上の下側中央に表示させる。なお、ここでは出力装置 3 0 に 6 個のサムネイル画像 5 0 i を表示させる構成について例示したが、これに限られない。また、画面上の左上側から順番にサムネイル画像 5 0 i を表示させる構成について例示したが、これに限られない。

【0 0 9 1】

なお、図 1 1 において、サムネイル画像 5 0 1 に関連付けられたコンテンツ A、および、サムネイル画像 5 0 6 に関連付けられたコンテンツ F の経過日数は例えば 0 日である。このため、サムネイル画像 5 0 1 およびサムネイル画像 5 0 6 は不透明な画像として表示される。また、サムネイル画像 5 0 2 に関連付けられたコンテンツ B の経過日数は例えば 1 0 日である。このため、サムネイル画像 5 0 2 は半透明な画像として表示される。さらに、サムネイル画像 5 0 3 に関連付けられたコンテンツ C、および、サムネイル画像 5 0 5 に関連付けられたコンテンツ E の経過日数は、コンテンツ B の経過日数よりも長い例えば 2 0 日である。このため、サムネイル画像 5 0 3 およびサムネイル画像 5 0 5 はサムネイル画像 5 0 3 よりも透明度が高い半透明な画像として表示される。また、サムネイル画像 5 0 4 に関連付けられたコンテンツ D の経過日数は 1 年以上である。このため、サムネイル画像 5 0 4 は透明な画像となり肉眼では認識できなくなる。

【0 0 9 2】

（コンテンツデータの再生処理）

次に、コンテンツデータの再生処理について、図 1 2 に基づいて説明する。まず、利用者は、リモコンの設定操作により所望のコンテンツデータを再生する旨を要求する再生要求情報を記録再生装置 1 0 へ送信する。この再生要求情報は、例えば以下のように生成される。まず、利用者は、図 1 1 に示すように、出力装置 3 0 に複数のサムネイル画像 5 0 i が表示されると、これら表示されたサムネイル画像 5 0 i のうち 1 つのサムネイル画像 5 0 i の周囲に表示されたカーソル 5 1 を、リモコンの設定操作により所望のコンテンツデータのサムネイル画像 5 0 i の周囲に移動させる。そして、リモコンの例えば決定ボタンを押圧することにより、赤外線を利用して再生要求情報を記録再生装置 1 0 へ送信する。

【0 0 9 3】

記録再生装置 1 0 は、図 1 2 に示すように、リモコン受光部 2 0 を介して再生制御手段 2 5 D にて再生要求情報を取得する。そして、この再生要求情報に基づいて、コンテンツデータの再生開始が要求された旨を認識する（ステップ S 5 0 1）。次に、記録再生装置 1 0 は、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて、計時手段 2 5 E から現在の日付を含む現在日時を取得し、この現在日時を再生開始時刻 T_p としてプログラム使用領域 2 3 A に記憶させる（ステップ S 5 0 2）。

【0 0 9 4】

記録再生装置 1 0 は、再生制御手段 2 5 D にて、再生要求情報に基づいて再生すべきコンテンツデータを有するメイン T S 4 3 を認識して、この認識したメイン T S 4 3 を再生する旨を要求するメイン T S 再生要求情報を生成する。そして、このメイン T S 再生要求情報を再生部 1 9 へ出力し（ステップ S 5 0 3）コンテンツデータの再生処理を行う。なお、再生すべきメイン T S 4 3 を認識する方法としては、例えば以下のような方法が例示できる。すなわち、再生制御手段 2 5 D は、H D D 2 2 からカーソル 5 1 に囲まれたサムネイル画像 5 0 i に対応するサムネイル 4 2 C を検索する。そして、この検索したサムネイル 4 2 C が組み込まれたコンテンツ情報 4 0 を認識する。この後、この認識したコンテンツ情報 4 0 のコンテンツ付加情報 4 1 を参照してメイン T S 4 3 のファイル名を認識することにより、メイン T S 4 3 を認識する方法が例示できる。

【0 0 9 5】

記録再生装置 1 0 は、所望のコンテンツデータを出力装置 3 0 へ出力した後、コンテンツデータの再生中止を要求する旨の再生中止指示情報を受信したか否かを判断する（ステップ S 5 0 4）。この再生中止指示情報は、例えば利用者によるリモコンの設定操作により生成され、赤外線を利用してリモコン受光部 2 0 に入力される。

【0 0 9 6】

再生制御手段 2 5 D は、ステップ S 5 0 4 において、再生中止指示情報を受信していないと判断した場合には、計時手段 2 5 E から現在時刻を適宜取得して、再びステップ S 5 0 4 の処理を実施する。

【0 0 9 7】

一方で、ステップ S 5 0 4 において、再生中止指示情報を受信したと判断した場合には、再生制御手段 2 5 D にて、再生制御手段 2 5 D にてコンテンツデータの再生を中止する。そして、記録再生装置 1 0 は、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて、計時手段 2 5 E から現在日時を取得する。そして、この取得した現在日時を再生終了時刻 T e としてプログラム使用領域 2 3 A に記憶させる（ステップ S 5 0 5）。

【0 0 9 8】

コンテンツ情報生成手段 2 5 B は、プログラム使用領域 2 3 A に記憶された再生開始時刻 T p および再生終了時刻 T e を読み出す。そして、再生開始時刻 T p と再生終了時刻 T e との時間差分、すなわちコンテンツデータのデータ処理期間としての再生時間が予め定められた所定時間の例えば 1 分よりも大きいか否かを判断する（ステップ S 5 0 6）。なお、ここでは所定時間を 1 分とした構成について例示したが、これに限らず例えば 3 0 秒や 3 分などとしてもよい。

【0 0 9 9】

記録再生装置 1 0 は、ステップ S 5 0 6 において、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて、再生時間が 1 分よりも短いと判断した場合には、コンテンツの再生処理を終了する。

【0 1 0 0】

一方で、ステップ S 5 0 6 において、再生時間が 1 分よりも長いと判断した場合には、例えば以下のような処理を実施する。まず、コンテンツ情報生成手段 2 5 B は、出力したコンテンツデータを有するメイン T S 4 3 が組み込まれたコンテンツ情報 4 0 を H D D 2 2 から検索して読み出す。次に、この読み出したコンテンツ情報 4 0 の再生済みフラグ 4 2 A を認識する。そして、再生済みフラグ 4 2 A が「0」の場合には、メイン T S 4 3 のコンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されたことを示すフラグ情報「1」を生成する。この後、読み出したコンテンツ情報 4 0 の再生済みフラグ 4 2 A を生成したフラグ情報「1」に変更する。そして、このコンテンツ情報 4 0 のアクセスタイム 4 2 B に再生終了日付を記載する（ステップ S 5 0 7）。一方で、読み出したコンテンツ情報 4 0 の再生済みフラグ 4 2 A が「1」の場合には、アクセスタイム 4 2 B を再生終了日付に変更する（ステップ S 5 0 7）。そして、このコンテンツ情報 4 0 を H D D 2 2 に記憶させ、コンテンツデータの再生処理を終了する。

【0 1 0 1】

〔第 1 実施形態の作用効果〕

上述したような第 1 実施形態では、記録再生システム 1 0 0 の記録再生装置 1 0 は、再生制御手段 2 5 D にてコンテンツデータの再生中止が要求された旨を認識すると、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて再生終了日付をコンテンツデータのアクセスタイム 4 2 B として取得する。この後、記録再生装置 1 0 は、サムネイル加工手段 2 5 C にて、コンテンツデータのサムネイルを出力装置 3 0 に表示させる旨の要求を認識すると、このコンテンツデータのアクセスタイム 4 2 B を認識する。次に、サムネイル加工手段 2 5 C は、アクセスタイム 4 2 B からの経過日数に基づいて、サムネイル 4 2 C が展開された仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する。そして、G F X 1 7 を制御して、アルファ値が前記決定された値に設定された仮想グラフィックスプレーンを生成する。この後、この仮想グラフィックスプレーンを出力装置 3 0 へ出力することにより、出力装置 3 0 にサムネイルをアクセスタイム 4 2 B に対応した表示形態で表示させる。

【0 1 0 2】

このように、記録再生装置 1 0 は、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値をアクセスタイム 4 2 B からの経過日数に基づいて設定することにより、出力装置 3 0 に例えば図 1 1 に示すように、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数によって表示形態が異なるサムネイル画像 5 0 i を表示させる。このため、利用者は、サムネイル画像 5 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識できる。したがって、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数により示される、各コンテンツに対する嗜好性を容易に認識できる。

【0 1 0 3】

サムネイル加工手段 2 5 C は、サムネイルを表示させる旨の要求を認識すると操作日時 T を取得する。そして、操作日時 T とアクセスタイム 4 2 B との時間差分を経過日数と認識し、この経過日数に基づいてアルファ値を決定する。このように、サムネイルを表示させる旨の要求を認識した際の操作日時 T を基準にした経過日数に基づいてアルファ値を決定することにより、サムネイル画像 5 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数をより容易に認識できる。このため、各コンテンツに対する嗜好性をより容易に認識できる。

【0 1 0 4】

記録再生装置 1 0 は、再生制御手段 2 5 D にてコンテンツデータの再生開始が要求された旨を認識すると、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて再生開始時刻 T_p を取得する。また、再生制御手段 2 5 D にてコンテンツデータの再生中止が要求された旨を認識すると、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて再生終了時刻 T_e を取得する。この後、コンテンツ情報生成手段 2 5 B は、再生開始時刻 T_p および再生終了時刻 T_e から求められるコンテンツデータの再生時間が所定時間以上であるか否かを判断する。そして、再生時間が所定時間以上であると判断した場合には、再生終了日時をアクセスタイム 4 2 B として H D D 2 2 に記憶させることによりアクセスタイム 4 2 B を更新する。一方で、再生時間が所定時間以上でないと判断した場合には、アクセスタイム 4 2 B を更新しない。このような構成により、利用者が、例えば操作を誤って再生させるつもりがないコンテンツデータを再生させた場合でも、その再生時間が所定以下であればアクセスタイム 4 2 B が更新されることがない。このため、アクセスタイム 4 2 B は、利用者が再生させたいコンテンツデータが再生された場合のみに更新される。したがって、このアクセスタイム 4 2 B からの経過日数に基づいて表示形態が変更されたサムネイル画像 5 0 i により、各コンテンツに対する嗜好性をより確実に認識できる。

【0 1 0 5】

サムネイル加工手段 2 5 C は、アクセスタイム 4 2 B からの経過日数に基づいて仮想グラフィックスプレーンのアルファ値すなわち透明度を変更する。このように、仮想グラフィックスプレーンの透明度を変更することにより、サムネイル画像 5 0 i の視覚的な認識のし易さを変更できる。このため、各コンテンツに対する嗜好性をより容易にかつ確実に認識できる。また、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を変更するだけの簡単な構成で、サムネイル画像 5 0 i の表示形態を変更できる。したがって、サムネイル画像 5 0

i の表示形態を変更する処理をより容易にできる。

【0 1 0 6】

サムネイル加工手段 2 5 C は、サムネイル 4 2 C を仮想グラフィックスプレーンに展開した後に、メイン T S 4 3 のコンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを判断する。この後、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されていると判断した場合には、アクセスタイム 4 2 B からの経過日数に基づいて、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する。一方で、コンテンツデータが 1 回も再生されていないと判断した場合には、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値以外の設定を変更、例えば色調をモノトーン調へ変更する。このような構成により、少なくとも 1 回は再生されたコンテンツデータのサムネイルは、再生されてからの経過日数に基づき透明度が変更されたサムネイル画像 5 0 i として表示される。一方で、1 回も再生されていないコンテンツデータのサムネイルは、例えばモノトーン調のサムネイル画像 5 0 i として表示される。このため、サムネイル画像 5 0 i の表示形態から 1 回も再生されていないコンテンツデータを容易に認識できる。また、例えば嗜好性が高いコンテンツデータを 1 回も再生せずに長時間が経過したとしても、サムネイル画像 5 0 i は経過日数によらずモノトーン調で表示されるので、再生し忘れていたことを容易に認識できる。したがって、各コンテンツに対する嗜好性をより確実に認識できる。

【0 1 0 7】

H D D 2 2 に、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを示す再生済みフラグ 4 2 A を、サムネイル 4 2 C と関連付けて記憶させている。このため、サムネイル加工手段 2 5 C は、アルファ値を決定する前に、再生済みフラグ 4 2 A を参照するだけの簡単な処理により、サムネイル 4 2 C に関連付けられたコンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを認識できる。したがって、サムネイル画像 5 0 i の表示形態を変更する処理をより容易にかつ迅速にできる。

【0 1 0 8】

H D D 2 2 に、アクセスタイム 4 2 B とサムネイル 4 2 C となどが組み込まれたコンテンツ情報 4 0 を記憶させている。このため、サムネイル加工手段 2 5 C は、アルファ値を決定する際に、サムネイル 4 2 C を検索することによりコンテンツ情報 4 0 を特定し、この特定したコンテンツ情報 4 0 からアクセスタイム 4 2 B を認識できる。したがって、アクセスタイム 4 2 B を、簡単なデータ構造でかつサムネイル 4 2 C を検索するだけの簡単な方法で、容易にかつ迅速に認識でき、アルファ値を決定する処理時間を短縮できる。

【0 1 0 9】

記録再生装置 1 0 に、計時手段 2 5 E を設けている。このような構成により、例えばコンテンツ情報生成手段 2 5 B におけるアクセスタイム 4 2 B の更新処理に必要な、再生開始時刻 T_p や再生終了時刻 T_e などを適宜迅速に取得できる。このため、例えばアクセスタイム 4 2 B の更新処理などの処理時間をより短縮できる。

【0 1 1 0】

記録再生システム 1 0 0 を、記録再生装置 1 0 と、この記録再生装置 1 0 に接続された出力装置 3 0 とを備えた構成としている。出力装置 3 0 は、記録再生装置 1 0 の G F X 1 7 により生成された仮想グラフィックスプレーンを取得し、この仮想グラフィックスプレーンを表示部 3 2 に表示させる。これにより、表示部 3 2 には、サムネイル画像 5 0 i が表示される。このように、記録再生システム 1 0 0 を、記録再生装置 1 0 と、出力装置 3 0 とを備えた構成とすることにより、記録再生装置 1 0 にサムネイルを表示させるための表示部を設ける必要がない。このため、記録再生装置 1 0 の構成を簡略化できる。また、記録再生装置 1 0 の小型軽量化が容易に図れる。

【0 1 1 1】

H D D 2 2 に、サムネイル 4 2 C を記憶させている。そして、サムネイル加工手段 2 5 C は、H D D 2 2 に記憶されたサムネイル 4 2 C を仮想グラフィックスプレーンに展開し、この仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を適宜決定することにより、サムネイル画像 5 0 i の表示形態を変更させている。このように、予めサムネイル 4 2 C を H D D 2 2

に記憶させておくことにより、サムネイル加工手段 2 5 C にてサムネイル 4 2 C を取得する時間を短縮できる。このため、サムネイル画像 5 0 i の表示形態を変更する処理時間を短縮できる。

【0 1 1 2】

本発明のコンテンツデータを、複数の異なる画像データを有する一連のデータ列構造である映像データとしている。そして、記録制御手段 2 5 A は、映像データが格納されたメイン T S 4 3 を H D D 2 2 に記憶させる際に、V D e c 1 4 を制御して、この V D e c 1 4 に入力される映像データから画像データを取得させ画像記憶領域 2 3 G に記憶させる。この後、画像記憶領域 2 3 G に記憶させた画像データを、サムネイル 4 2 C として H D D 2 2 に記憶させる。このように、V D e c 1 4 に入力される映像データからサムネイル 4 2 C を生成する構成としたので、コンテンツデータのサムネイルを表示させるための画像データを特別に準備する必要がない。このため、映像データを提供するだけでサムネイルを表示させることが可能な汎用性が高い記録再生システム 1 0 0 を提供できる。

【0 1 1 3】

サムネイル 4 2 C やメイン T S 4 3 など、H D D 2 2 に記憶させている。このように、サムネイルやコンテンツデータをランダムアクセスが可能な H D D 2 2 に記憶させることにより、前記各処理の時間を短縮できる。

【0 1 1 4】

記録再生装置 1 0 にリモコン受光部 2 0 を設けている。そして、記録再生装置 1 0 は、このリモコン受光部 2 0 にて、図示しないリモコンの設定操作により生成された各情報を受信し、この受信した各情報に基づいて各処理を実施する。このような構成により、記録再生装置 1 0 の遠隔操作が可能になるので、記録再生装置 1 0 の設置場所に制限を設ける必要がない。このため、汎用性が高い記録再生システム 1 0 0 を提供できる。

【0 1 1 5】

[第 2 実施形態]

次に、本発明に係る第 2 実施形態を図面に基づいて説明する。図 1 3 は、本実施形態における H P (Homepage) 表示システムの概略構成を示すブロック図であり、表示制御装置である端末装置と、情報蓄積装置であるサーバ装置から構成される。図 1 4 は、サーバ装置の記憶手段の概略構成を示す模式図である。図 1 5 は、サーバ装置の記憶手段に記憶された H P 表示情報の概略構成を示す模式図である。図 1 6 は、サーバ装置の処理部の概略構成を示すブロック図である。図 1 7 は、端末装置のメモリに記憶された端末 H P 情報の概略構成を示す模式図である。図 1 8 は、端末装置の C P U の概略構成を示すブロック図である。なお、第 1 実施形態と略同一の機能を有する構成要件については、同一名称を付して説明を省略または簡略化する。

【0 1 1 6】

[H P 表示システムの構成]

図 1 3 において、2 0 0 は、表示制御システムとしての H P 表示システムである。この H P 表示システム 2 0 0 は、端末装置にて、サーバ装置に記憶された例えば映画などのコンテンツを再生するためのデータとしてのコンテンツデータを、最後に再生してからの経過日数に基づいて、このコンテンツに関連付けられた代表静止画像としてのアイコンの表示形態を変更する。そして、この表示形態が変更されたアイコンを端末装置に表示させるシステムである。この H P 表示システム 2 0 0 は、ネットワーク 2 1 0 と、サーバ装置 2 2 0 と、表示制御装置としての端末装置 2 3 0 と、を備えている。

【0 1 1 7】

ネットワーク 2 1 0 には、サーバ装置 2 2 0 および端末装置 2 3 0 が接続されている。そして、ネットワーク 2 1 0 は、サーバ装置 2 2 0 および端末装置 2 3 0 を情報の送受信が可能な状態に接続する。例えば、T C P / I P などの汎用のプロトコルに基づくインターネット、イントラネット、イーサネット（登録商標）などの L A N (Local Area Network)、無線媒体により情報が送受信可能な複数の基地局がネットワークを構成する通信回線網や放送網などのネットワーク、さらには、サーバ装置 2 2 0 および端末装置 2 3 0 間で

情報を直接送受信するための媒体となる無線媒体自体などが例示できる。ここで、無線媒体としては、電波、光、音波、電磁波などのいずれの媒体をも適用できる。

【0 1 1 8】

サーバ装置 2 2 0 は、ネットワーク 2 1 0 を介して入力される要求情報に基づいて、HP を表示させるための各種データを端末装置 2 3 0 へ送信する。そして、サーバ装置 2 2 0 は、図 1 3 に示すように、インターフェース 2 2 1 と、サーバ記憶手段としての記憶手段 2 2 2 と、処理部 2 2 3 と、などを備えている。

【0 1 1 9】

インターフェース 2 2 1 は、ネットワーク 2 1 0 を介して端末装置 2 3 0 に接続されるとともに、処理部 2 2 3 に接続されている。そして、インターフェース 2 2 1 は、ネットワーク 2 1 0 を介して端末装置 2 3 0 から情報パケット Sba を受信可能で、この情報パケット Sba の取得により予め設定されている入力インターフェース処理を実施し、情報信号 Sbb を処理部 2 2 3 へ出力する。また、インターフェース 2 2 1 は、処理部 2 2 3 からの情報信号 Sbb が入力可能で、この入力される情報信号 Sbb の取得により予め設定されている出力インターフェース処理を実施し、情報パケット Sba としてネットワーク 2 1 0 を介して端末装置 2 3 0 へ送信する。

【0 1 2 0】

記憶手段 2 2 2 は、図 1 4 に示すように、HP 情報記憶領域 2 2 2 A と、コンテンツ記憶領域 2 2 2 B と、アイコン記憶領域 2 2 2 C と、を備えている。なお、ここでは記憶手段 2 2 2 が上述した 3 つの記憶領域を備えた構成について例示したが、これに限らず例えば記憶手段 2 2 2 に上述した記憶領域を備えない構成や、4 つ以上の記憶領域を備えた構成などとしてもよい。なお、記憶手段 2 2 2 としては、HD や光ディスクなどの記録媒体に読み出し可能に記憶するドライブやドライバなどを備えた構成としてもよい。

【0 1 2 1】

HP 情報記憶領域 2 2 2 A は、複数の図 1 5 に示すような HP 表示情報 2 4 0 を適宜読み出し可能に記憶する。この HP 表示情報 2 4 0 は、HP を表示させるための情報である。そして、HP 表示情報 2 4 0 は、HP アドレス 2 4 1 と、登録アイコン付加情報 2 4 2 と、などが 1 つのデータとして構成されたテーブル構造である。

【0 1 2 2】

HP アドレス 2 4 1 は、HP 表示情報 2 4 0 により表示される HP のアドレスである。

【0 1 2 3】

登録アイコン付加情報 2 4 2 は、複数のアイコン付加情報 2 4 2 Ne (Ne は自然数) が、1 つのデータとして構成されたテーブル構造である。このアイコン付加情報 2 4 2 Ne は、HP アドレス 2 4 1 により特定される HP に表示されるアイコンに関連付けられた情報である。具体的には、アイコンのファイル名、表示サイズ、表示位置、アイコンに関連付けられたコンテンツデータのファイル名などの情報である。

【0 1 2 4】

コンテンツ記憶領域 2 2 2 B は、例えば映像データや音声データなどのコンテンツデータを、このコンテンツデータのファイル名とともに適宜読み出し可能に記憶する。

【0 1 2 5】

アイコン記憶領域 2 2 2 C は、コンテンツ記憶領域 2 2 2 B に記憶されたコンテンツデータのアイコンを、このアイコンのファイル名とともに適宜読み出し可能に記憶する。

【0 1 2 6】

処理部 2 2 3 は、記憶手段 2 2 2 に接続されている。そして、処理部 2 2 3 は、図 1 6 に示すように、各種プログラムとして、送信制御手段 2 2 3 A など構成する。

【0 1 2 7】

送信制御手段 2 2 3 A は、端末装置 2 3 0 からの要求に基づいて HP 表示情報 2 4 0、コンテンツデータ、アイコンなどを端末装置 2 3 0 へ送信する。なお、以下において、HP 表示情報 2 4 0、コンテンツデータ、アイコンのうちの少なくとも 2 つを同時に表現する際には、これらを HP データと適宜称して説明する。

【0 1 2 8】

端末装置 2 3 0 は、例えばパーソナルコンピュータ、テレビ、携帯電話、P D A などが例示できる。この端末装置 2 3 0 は、ネットワーク 2 1 0 を介してサーバ装置 2 2 0 に記憶された H P データなどを取得する。そして、この取得した H P データに基づいて、H P を表示したりコンテンツデータを再生したりする。また、端末装置 2 3 0 は、コンテンツデータに関連付けられたアイコンに所定の処理を適宜施すことにより、アイコンの表示形態を適宜変更して表示する。この端末装置 2 3 0 は、送受信器 2 3 1 と、操作部 2 3 2 と、表示手段としての表示部 2 3 3 と、音声出力部 2 3 4 と、記憶手段としてのメモリ 2 3 5 と、C P U 2 3 6 と、などを備えている。

【0 1 2 9】

送受信器 2 3 1 は、ネットワーク 2 1 0 を介してサーバ装置 2 2 0 に接続されるとともに、C P U 2 3 6 に接続されている。そして、送受信器 2 3 1 は、ネットワーク 2 1 0 を介してサーバ装置 2 2 0 から情報パケット S t a を受信可能である。また、送受信器 2 3 1 は、C P U 2 3 6 からの制御により予め設定されている出力インターフェース処理を実施し、情報パケット S t a をネットワーク 2 1 0 を介してサーバ装置 2 2 0 へ送信する。

【0 1 3 0】

操作部 2 3 2 は、例えばキーボードやマウスなどで、入力操作される図示しない各種操作ボタンなどを有している。この操作ボタンの入力操作としては、H P を表示させたり、コンテンツデータを再生させる旨の実行命令、再生させたいコンテンツデータに関連付けられたアイコンの選択操作、コンテンツデータの再生、中止、早送り、スキップ操作などが例示できる。そして、操作部 2 3 2 は、設定事項の入力操作により、操作信号 S i n を C P U 2 3 6 へ適宜出力して設定させる。なお、この操作部 2 3 2 としては、操作ボタンなどの操作に限らず、例えば表示部 2 3 3 に設けられたタッチパネルによる入力操作や、音声による入力操作などにより、各種設定事項を設定入力する構成としてもできる。

【0 1 3 1】

表示部 2 3 3 は、C P U 2 3 6 にて制御され、サーバ装置 2 2 0 から送信される H P データ、映像データ、アイコン、仮想グラフィックスプレーンなどの映像信号 S d p を表示させる。なお、表示部 2 3 3 に表示させるデータとしては、前記各データの他、図示しない T V 受信機で受信した T V 映像データ、外部装置など光ディスクや磁気ディスクなどの記録媒体に記録されドライブにて読み取った映像データ、メモリからの映像データなどが例示できる。この表示部 2 3 3 は、具体的に、例えば液晶や有機 E L パネル、P D P、C R T などが用いられる。

【0 1 3 2】

音声出力部 2 3 4 は、例えば図示しないスピーカなどの発音手段を有する。この音声出力部 2 3 4 は、C P U 2 3 6 にて制御され、サーバ装置 2 2 0 から送信される音声データなどの音声信号 S a d を発音手段から音声により出力する。なお、発音手段は、例えば T V 受信機で受信した T V 音声データや光ディスクや磁気ディスクなどに記録された音声データなどをも適宜出力可能である。

【0 1 3 3】

メモリ 2 3 5 は、サーバ装置 2 2 0 から取得した H P データ、図 1 7 に示すような端末 H P 情報 2 5 0、操作部 2 3 2 で入力操作される設定事項などを適宜読み出し可能に記憶する。また、メモリ 2 3 5 は、端末装置 2 3 0 全体を動作制御する O S 上に展開される各種プログラムなどを記憶している。なお、メモリ 2 3 5 としては、H D や光磁気ディスクなどの記録媒体に読み取り可能に記憶するドライブやドライバなどを備えた構成としてもよい。

【0 1 3 4】

端末 H P 情報 2 5 0 は、後述する表示制御手段 2 3 6 A にて生成され、端末装置 2 3 0 において過去に表示させた H P に関する情報である。この端末 H P 情報 2 5 0 は、H P アドレス 2 5 1、アイコン付加情報 2 5 2、フラグ情報としての再生済みフラグ 2 5 3、コンテンツ再生日付としてのアクセスタイム 2 5 4 などを 1 つのデータ情報としてのレコー

ドとして組み込んだテーブル構造のデータベースとして構成される。また、この端末 H P 情報 2 5 0 の 1 つのレコードには、1 つのアイコンに関連付けられた各種情報が組み込まれている。

【0 1 3 5】

H P アドレス 2 5 1 は、レコードに組み込まれた各種情報に関連付けられた H P のアドレスである。

【0 1 3 6】

アイコン付加情報 2 5 2 は、H P アドレス 2 5 1 により特定される H P に表示させるアイコンに関連付けられた情報である。具体的には、アイコン付加情報 2 5 2 は、画像固有情報としてのアイコンのファイル名、表示サイズ、表示位置、アイコンに関連付けられたデータ固有情報としてのコンテンツデータのファイル名などの情報である。

【0 1 3 7】

再生済みフラグ 2 5 3 は、第 1 実施形態の再生済みフラグ 4 2 A と略等しいフラグ情報である。

【0 1 3 8】

アクセスタイム 2 5 4 は、コンテンツデータが最後に再生された際の終了日付に関する情報である。

【0 1 3 9】

C P U 2 3 6 は、図示しない各種入出力ポート、例えば送受信器 2 3 1 が接続される通信ポート、操作部 2 3 2 が接続されるキー入力ポート、表示部 2 3 3 が接続される表示部制御ポート、音声出力部 2 3 4 が接続される音声制御ポート、メモリ 2 3 5 が接続される記憶ポート、などを有する。そして、C P U 2 3 6 は、各種プログラムとして、図 1 8 に示すように、表示制御手段 2 3 6 A と、表示形態変更手段としてのアイコン加工手段 2 3 6 B と、日付情報及び時間情報を取得するための再生日時記憶手段である日時取得手段としてのアクセスタイム更新手段 2 3 6 C と、計時手段としての端末計時手段 2 3 6 D と、カウンタ 2 3 6 E と、などを構成する。

【0 1 4 0】

表示制御手段 2 3 6 A は、サーバ装置 2 2 0 に記憶された H P データなどを取得する。そして、表示部 2 3 3 に H P を表示させたり、表示部 2 3 3 や音声出力部 2 3 4 にコンテンツデータを再生させる。

【0 1 4 1】

アイコン加工手段 2 3 6 B は、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを判断する。そして、コンテンツデータが 1 回も再生されていないと判断した場合には、コンテンツデータが 1 回も再生されていないことを示す表示形態のアイコンを表示部 2 3 3 に表示させるための仮想グラフィックスプレーンを生成する。一方で、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されていると判断した場合には、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を認識する。そして、この経過日数に基づいた表示形態のアイコンを表示部 2 3 3 に表示させるための仮想グラフィックスプレーンを生成する。なお、アイコン加工手段 2 3 6 B にて、仮想グラフィックスプレーンを生成する処理の詳細については後述する。

【0 1 4 2】

アクセスタイム更新手段 2 3 6 C は、端末 H P 情報 2 5 0 の再生済みフラグ 2 5 3 およびアクセスタイム 2 5 4 を適宜更新する。なお、再生済みフラグ 2 5 3 およびアクセスタイム 2 5 4 を更新する処理の詳細については後述する。

【0 1 4 3】

端末計時手段 2 3 6 D は、例えば内部クロックなどの基準パルスに基づいて現在時刻を認識する。そして、認識した現在時刻に関する時刻情報を適宜出力する。

【0 1 4 4】

カウンタ 2 3 6 E は、アイコン加工手段 2 3 6 B にて生成された仮想グラフィックスプレーンの数を計数する。

【0145】

〔HP表示システムの動作〕

次に、HP表示システム200の動作について図面に基づいて説明する。なお、ここでは表示部233に表示させるHPに関連付けられた端末HP情報250が、端末装置230のメモリ235に記憶されている場合の動作について説明する。図19は、アイコンの加工処理を示すフローチャートである。図20は、アクセスタイムの更新処理を示すフローチャートである。

【0146】

(アイコンの加工処理)

最初に、アイコンの加工処理について、図19に基づいて説明する。まず、利用者は、例えば操作部232の入力操作により所望のHPを表示部233に表示させる旨を設定入力する。

【0147】

端末装置230は、CPU236の表示制御手段236Aにて、HPを表示部233に表示させる旨の設定入力を認識すると、データ送信要求情報を生成する。そして、このデータ送信要求情報をネットワーク210を介してサーバ装置220へ送信する。

【0148】

サーバ装置220は、端末装置230からデータ送信要求情報を受信すると、送信制御手段223Aにて、このデータ送信要求情報に基づいて、HPアドレスと、HPデータの送信を要求する旨の情報とを認識する。そして、送信制御手段223Aは、前記HPデータを記憶手段222から検索して取得し、ネットワーク210を介して端末装置230へ送信する。

【0149】

端末装置230は、表示制御手段236Aにて、サーバ装置220からHPデータを受信すると、この受信したHPデータをメモリ235に適宜読み出し可能に記憶させる。そして、メモリ235からHP表示情報240を読み出し、この読み出したHP表示情報240に基づいてHPを表示部233に表示させる。この後、端末装置230は、アイコン加工手段236Bにて、図19に示すようなアイコンの加工処理を開始する。

【0150】

アイコン加工手段236Bは、例えば表示部233にHPが表示されたことを認識すると、アイコンの表示を開始する旨を認識する(ステップS801)。そして、端末計時手段236Dから現在時刻を取得して、この現在時刻を表示要求日時としての操作日時Tとしてメモリ235に適宜読み出し可能に記憶させる(ステップS802)。

【0151】

この後、アイコン加工手段236Bは、表示部233に表示させているHPのHP表示情報240に組み込まれたHPアドレス241と同一のHPアドレス251が組み込まれたレコードを、メモリ235に記憶された端末HP情報250から検索して読み出す。そして、この読み出したレコードの数をHPに表示させるアイコンの表示数nとして認識する(ステップS803)。この後、カウンタ236Eのカウント値iを1に設定する(ステップS804)。

【0152】

次に、アイコン加工手段236Bは、カウンタ値iから1を引いた値、すなわち(i-1)がアイコンの表示数nに達しているか否かを判断する(ステップS805)。そして、表示数nに達していると判断した場合には、アイコンの加工処理を終了する。一方で、ステップS805において、表示数nに達していないと判断した場合には、読み出したレコードのアイコン付加情報252を参照してi番目に表示するアイコンのファイル名を検索する。このファイル名を検索する方法としては、例えばメモリ235にレコードが記憶された順番に基づいて検索する方法などが例示できる。そして、アイコン加工手段236Bは、この検索したファイル名のアイコンをメモリ235から読み出す。この後、この読み出したアイコンをi番目の仮想グラフィックスプレーンに展開する(ステップS806)。

）。

【0153】

次に、アイコン加工手段236Bは、ステップS806において検索したファイル名が記載されたレコードの再生済みフラグ253を参照する。そして、再生済みフラグ253が「0」、すなわちコンテンツデータが1回も再生されていないことを認識した場合には、例えば以下の処理を実施する。アイコン加工手段236Bは、 $(i+1)$ 番目の仮想グラフィックスプレーンのアルファ値以外すなわち透明度以外の設定を変更する。この設定の変更としては、例えば色調をモノトーン調やセピア調などへ変更する構成などが例示できるがこれに限られない。

【0154】

一方で、アイコン加工手段236Bは、再生済みフラグ253を参照して、再生済みフラグ253が「1」、すなわちコンテンツデータが少なくとも1回は再生されていることを認識した場合には、このレコードのアクセスタイム254を認識する（ステップS807）。この後、メモリ235に記憶させた操作日時Tを読み出し、この操作日時Tとアクセスタイム254との時間差分、すなわちコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を求める。そして、例えば図9のグラフに基づいて、求めた経過日数から仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する（ステップS808）。

【0155】

この後、アイコン加工手段236Bは、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値をステップS808において決定したアルファ値に設定する（ステップS809）。そして、端末装置230は、表示制御手段236Aにて、ステップS806において参照したレコードのアイコン付加情報252に基づいて、仮想グラフィックスプレーンをHPの所定位置に配置して表示させる。これにより、表示部233の任意の表示領域には、例えば図11に示されるように、経過日数に対応して表示形態が異なる画像60iが表示される。なお、以下において、仮想グラフィックスプレーンにより表示部233に表示される画像60iを、アイコン画像60iと適宜称して説明する。また、このとき1回も再生されていないコンテンツデータのアイコン画像60iは、ここでは図示しないが、例えばモノトーン調など、経過日数により変更する表示形態とは異なる表示形態で表示され、経過日数に対応してその表示形態は変更されない。

【0156】

この後、アイコン加工手段236Bは、カウンタ236Eのカウンタ値iを1だけ増やした（ステップS810）後に、ステップS805の処理を実施する。そして、アイコン加工手段236Bは、表示部233にn個のアイコン画像60iを表示させた後にアイコンの加工処理を終了する。

【0157】

（アクセスタイムの更新処理）

次に、アクセスタイムの更新処理について、図20に基づいて説明する。まず、利用者は、HP表示システム200に上述したアイコンの加工処理を実施させることにより、端末装置230の表示部233にアイコン画像60iを表示させる。そして、例えば操作部232の入力操作にて、表示部233に表示され所望のコンテンツデータに関連付けられたアイコン画像60iを選択することにより、コンテンツデータの再生を開始する旨を設定入力する。

【0158】

端末装置230は、表示制御手段236Aにて、コンテンツデータの再生を開始する旨の設定入力を認識する（ステップS901）と、このコンテンツデータをメモリ235から検索して読み出す。そして、この読み出したコンテンツデータを表示部233や音声出力部234へ出力して再生を開始する。この後、端末装置230は、アクセスタイム更新手段236Cにて、端末計時手段236Dから現在時刻を取得して、この現在時刻を再生開始時刻Tpとしてメモリ235に適宜読み出し可能に記憶させる（ステップS902）。

。

【0 1 5 9】

そして、端末装置 2 3 0 は、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C にて、コンテンツの再生を中止する旨を要求する再生中止要求情報を受信したか否かを判断する（ステップ S 9 0 3）。この再生中止要求情報は、例えば利用者による操作部 2 3 2 の入力操作にて設定入力される。

【0 1 6 0】

アクセスタイム更新手段 2 3 6 C は、ステップ S 9 0 3 において、再生中止要求情報を受信していないと判断した場合には、再びステップ S 9 0 3 の処理を実施する。

【0 1 6 1】

一方で、端末装置 2 3 0 は、ステップ S 9 0 3 において、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C にて、再生中止要求情報を受信していると判断した場合には、表示制御手段 2 3 6 A にて、コンテンツデータの再生を中止する。そして、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C にて、端末計時手段 2 3 6 D から現在時刻を取得して、この現在時刻を再生終了時刻 T_e としてメモリ 2 3 5 に適宜読み出し可能に記憶させる（ステップ S 9 0 4）。この後、再生開始時刻 T_p および再生終了時刻 T_e をメモリ 2 3 5 から読み出して、これらの時間差分、すなわちコンテンツデータのデータ処理期間としての再生時間が予め定められた所定時間の例えば 1 分よりも長いかな否かを判断する（ステップ S 9 0 5）。なお、ここでは所定時間を 1 分とした構成について例示したが、これに限らず例えば 3 0 秒や 3 分などとしてもよい。

【0 1 6 2】

アクセスタイム更新手段 2 3 6 C は、ステップ S 9 0 5 において、再生時間が 1 分よりも短いと判断した場合には、アクセスタイムの更新処理を終了する。

【0 1 6 3】

一方で、ステップ S 9 0 5 において、再生時間が 1 分よりも長いと判断した場合には、例えば以下の処理を実施する。まず、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C は、メモリ 2 3 5 に記憶された端末 H P 情報 2 5 0 から、再生されていたコンテンツデータに関連付けられたアイコン付加情報 2 5 2 が組み込まれたレコードを検索して読み出す。次に、この読み出したレコードの再生済みフラグ 2 5 3 を読み出す。そして、再生済みフラグ 2 5 3 が「0」の場合には、コンテンツが少なくとも 1 回は再生されたことを示すフラグ情報「1」を生成する。この後、読み出したレコードの再生済みフラグ 2 5 3 を生成したフラグ情報「1」に変更する。そして、アクセスタイム 2 5 4 に再生終了日時を記載する。一方で、読み出したレコードの再生済みフラグ 2 5 3 が「1」の場合には、アクセスタイム 2 5 4 を再生終了日時に変更する（ステップ S 9 0 6）。そして、このレコードをメモリ 2 3 5 に記憶された端末 H P 情報 2 5 0 に組み込みアクセスタイムの更新処理を終了する。

【0 1 6 4】

〔第 2 実施形態の作用効果〕

上述したような第 2 実施形態では、H P 表示システム 2 0 0 の端末装置 2 3 0 は、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C にてコンテンツデータの再生中止が要求された旨を認識すると再生終了時刻 T_e をコンテンツデータのアクセスタイム 2 5 4 として取得する。この後、端末装置 2 3 0 は、アイコン加工手段 2 3 6 B にて、コンテンツデータのアイコンを表示部 2 3 3 に表示させる旨の要求を認識すると、このコンテンツデータのアクセスタイム 2 5 4 を認識する。次に、アイコン加工手段 2 3 6 B は、アクセスタイム 2 5 4 からの経過日数に基づいて、アイコンが展開された仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する。そして、アルファ値が前記決定された値に設定された仮想グラフィックスプレーンを生成する。この後、この仮想グラフィックスプレーンを表示部 2 3 3 へ出力することにより、表示部 2 3 3 にアイコンをアクセスタイム 2 5 4 に対応した表示形態で表示する。

【0 1 6 5】

このように、端末装置 2 3 0 は、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値をアクセスタイム 2 5 4 からの経過日数に基づいて設定することにより、表示部 2 3 3 には例えば図

1 1 に示すように、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数によって表示形態が異なるアイコン画像 6 0 i を表示する。このため、利用者は、アイコン画像 6 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識できる。したがって、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数により示される、各コンテンツに対する嗜好性を容易に認識できる。

【0 1 6 6】

アイコン加工手段 2 3 6 B は、アイコンを表示させる旨の要求を認識すると操作日時 T を取得する。そして、操作日時 T とアクセスタイム 2 5 4 との時間差分を経過日数と認識し、この経過日数に基づいてアルファ値を決定する。このように、アイコンを表示させる旨の要求を認識した際の操作日時 T を基準にした経過日数に基づいてアルファ値を決定することにより、アイコン画像 6 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数をより容易に認識できる。このため、各コンテンツに対する嗜好性をより容易に認識できる。

【0 1 6 7】

端末装置 2 3 0 は、表示制御手段 2 3 6 A にてコンテンツデータの再生を開始する旨の設定入力を認識すると、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C にて再生開始時刻 T_p を取得する。また、端末装置 2 3 0 は、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C にてコンテンツデータの再生中止が要求された旨を認識すると、再生終了時刻 T_e を取得する。この後、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C は、再生開始時刻 T_p および再生終了時刻 T_e から求められるコンテンツデータの再生時間が所定時間以上であるか否かを判断する。そして、再生時間が所定時間以上であると判断し場合には、再生終了日付をアクセスタイム 2 5 4 としてメモリ 2 3 5 に記憶させることによりアクセスタイム 2 5 4 を更新する。一方で、再生時間が所定時間以上でないと判断した場合には、アクセスタイム 2 5 4 を更新しない。このような構成により、利用者が、例えば操作を誤って再生させるつもりがないコンテンツデータを再生させた場合でも、その再生時間が所定以下であればアクセスタイム 2 5 4 が更新されることがない。このため、アクセスタイム 2 5 4 は、利用者が再生させたいコンテンツデータが再生された場合のみに更新される。したがって、このアクセスタイム 2 5 4 からの経過日数に基づいて表示形態が変更されたアイコン画像 6 0 i により、各コンテンツに対する嗜好性をより確実に認識できる。

【0 1 6 8】

アイコン加工手段 2 3 6 B は、アクセスタイム 2 5 4 からの経過日数に基づいて仮想グラフィックスプレーンのアルファ値すなわち透明度を変更する。このように、仮想グラフィックスプレーンの透明度を変更することにより、アイコン画像 6 0 i の視覚的な認識のし易さを変更できる。このため、各コンテンツに対する嗜好性をより容易にかつ確実に認識できる。また、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を変更するだけの簡単な構成で、アイコン画像 6 0 i の表示形態を変更できる。したがって、アイコン画像 6 0 i の表示形態を変更する処理をより容易にかつ迅速にできる。

【0 1 6 9】

アイコン加工手段 2 3 6 B は、アイコンを仮想グラフィックスプレーンに展開した後に、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを判断する。この後、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されていると判断した場合には、アクセスタイム 2 5 4 からの経過日数に基づいて、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する。一方で、コンテンツデータが 1 回も再生されていないと判断した場合には、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値以外の設定を変更、例えば色調をモノトーン調へ変更する。このような構成により、少なくとも 1 回は再生されたコンテンツデータのアイコンは、再生されてからの経過日数に基づき透明度が変更されたアイコン画像 6 0 i として表示される。一方で、1 回も再生されていないコンテンツデータのアイコンは、例えばモノトーン調のアイコン画像 6 0 i として表示される。このため、アイコン画像 6 0 i の表示形態から 1 回も再生されていないコンテンツデータを容易に認識できる。また、例えば嗜好性が高いコンテンツデータを 1 回も再生せずに長時間が経過したとしても、アイコン画像 6 0

i はモノトーン調で表示されるので、再生し忘れていたことを容易に認識できる。したがって、各コンテンツに対する嗜好性をより確実に認識できる。

【0 1 7 0】

メモリ 2 3 5 に、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを示す再生済みフラグ 2 5 3 を記憶させている。このため、アイコン加工手段 2 3 6 B は、アルファ値を決定する前に、再生済みフラグ 2 5 3 を参照するだけの簡単な処理により、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを認識できる。したがって、アイコン画像 6 0 i の表示形態を変更する処理をより容易にかつ迅速に実施できる。

【0 1 7 1】

メモリ 2 3 5 に、アイコンのファイル名が記載されたアイコン付加情報 2 5 2 とコンテンツのアクセスタイム 2 5 4 となどが 1 つのレコードとして組み込まれた端末 H P 情報 2 5 0 を記憶させている。このため、アイコン加工手段 2 3 6 B は、アルファ値を決定する際に、アイコンのファイル名を検索することによりレコードを特定し、この特定したレコードからアクセスタイム 2 5 4 を認識できる。したがって、アクセスタイム 2 5 4 を、簡単なデータ構造でかつアイコンのファイル名を検索するだけの簡単な方法で、容易にかつ迅速に認識でき、アルファ値を決定する処理時間を短縮できる。

【0 1 7 2】

端末装置 2 3 0 に、端末計時手段 2 3 6 D を設けている。このような構成により、例えばアクセスタイム更新手段 2 3 6 C におけるアクセスタイム 2 5 4 の更新処理に必要な、再生開始時刻 T_p や再生終了時刻 T_e などを適宜迅速に取得できる。このため、例えばアクセスタイム 2 5 4 の更新処理などの処理時間を短縮できる。

【0 1 7 3】

H P 表示システム 2 0 0 を、サーバ装置 2 2 0 と、このサーバ装置 2 2 0 にネットワーク 2 1 0 を介して接続された端末装置 2 3 0 とを備えた構成としている。サーバ装置 2 2 0 に、コンテンツデータを記憶する記憶手段 2 2 2 と、この記憶手段 2 2 2 に記憶されたコンテンツデータを端末装置 2 3 0 へ適宜送信する送信制御手段 2 2 3 A とを設けている。また、端末装置 2 3 0 に、コンテンツデータをサーバ装置 2 2 0 から適宜取得して、このコンテンツデータを表示部 2 3 3 に再生させる表示制御手段 2 3 6 A を設けている。このように、コンテンツデータをサーバ装置 2 2 0 から適宜取得させる構成とすることにより、メモリ 2 3 5 にコンテンツデータを常時記憶させる必要がなくなる。このため、メモリ 2 3 5 の容量を小さくできる。また、サーバ装置 2 2 0 の記憶手段 2 2 2 にコンテンツデータを記憶させたので、複数の端末装置 2 3 0 に同一のコンテンツデータを適宜送信できる。このため、コンテンツデータの共有化が可能な汎用性が高い H P 表示システム 2 0 0 を提供できる。

【0 1 7 4】

サーバ装置 2 2 0 に、アイコンを記憶する記憶手段 2 2 2 と、この記憶手段 2 2 2 に記憶されたアイコンを端末装置 2 3 0 へ適宜送信する送信制御手段 2 2 3 A とを設けている。また、端末装置 2 3 0 に、サーバ装置 2 2 0 からアイコンを取得する表示制御手段 2 3 6 A と、この表示制御手段 2 3 6 A にて取得したアイコンの表示形態を変更させるアイコン加工手段 2 3 6 B とを設けている。このように、このように、アイコンをサーバ装置 2 2 0 から適宜取得する構成とすることにより、メモリ 2 3 5 にアイコンを常時記憶させる必要がなくなる。このため、メモリ 2 3 5 の容量を小さくできる。また、サーバ装置 2 2 0 の記憶手段 2 2 2 にアイコンを記憶させたので、複数の端末装置 2 3 0 に同一のアイコンを適宜送信できる。このため、アイコンの共有化が可能な汎用性が高い H P 表示システム 2 0 0 を提供できる。

【0 1 7 5】

端末装置 2 3 0 に、アイコン加工手段 2 3 6 B やアクセスタイム更新手段 2 3 6 C など を設け、アイコンの加工処理やアクセスタイムの更新処理などを端末装置 2 3 0 において実施する構成としている。このため、サーバ装置 2 2 0 の構成を簡略化できる。また、サーバ装置 2 2 0 の処理負荷などを低減でき、H P データの送受信をより迅速にできる H P

表示システム 200 を提供できる。

【0176】

[第3実施形態]

次に、本発明に係る第3実施形態を図面に基づいて説明する。図21は、本実施形態における情報蓄積装置であるサーバ装置の記憶手段に記憶されたHP表示情報の概略構成を示す模式図である。図22は、サーバ装置の処理部の概略構成を示すブロック図である。図23は、表示制御装置である端末装置のCPUの概略構成を示すブロック図である。なお、第2実施形態と同一の構成要件については、同一符号を付して説明を省略する。また、第2実施形態と略同一の機能を有する構成要件については、同一名称を付して説明を省略または簡略化する。

【0177】

[HP表示システムの構成]

図13において、300は、表示制御システムとしてのHP表示システムである。このHP表示システム300は、サーバ装置にて、このサーバ装置に記憶されたデータとしてのコンテンツデータを最後に再生してからの経過日数に基づいて、このコンテンツデータに関連付けられた代表静止画像としてのアイコンの表示形態を変更する。そして、この表示形態が変更されたアイコンを端末装置に送信して、端末装置に表示させるシステムである。このHP表示システム300は、ネットワーク210と、表示制御装置としてのサーバ装置320と、端末装置330と、を備えている。

【0178】

サーバ装置320は、ネットワーク210を介して入力される要求情報に基づいて、HPを表示させるためのHPデータを端末装置330へ送信する。そして、サーバ装置320は、インターフェース221と、制御装置記憶手段としての記憶手段222と、処理部323と、などを備えている。

【0179】

インターフェース221は、ネットワーク210を介して端末装置330に接続されるとともに、処理部323に接続されている。

【0180】

記憶手段222は、HP情報記憶領域222Aと、コンテンツ記憶領域222Bと、アイコン記憶領域222Cと、図示しないプログラム使用領域と、を備えている。

【0181】

記憶手段222のHP情報記憶領域222Aは、複数の図21に示すようなデータ情報としてのHP表示情報340を適宜読み出し可能に記憶する。このHP表示情報340は、HPを表示させるための情報である。そして、HP表示情報340は、HPアドレス341と、登録アイコン情報342と、などが1つのデータとして構成されたテーブル構造である。

【0182】

登録アイコン情報342は、複数のアイコン情報342Nd (Ndは自然数) が、1つのデータとして構成されたテーブル構造である。このアイコン情報342Ndは、HPアドレス341により特定されるHPに表示されるアイコンに関連付けられた情報である。さらに、アイコン情報342Ndは、アイコン付加情報343、フラグ情報としての再生済みフラグ344、コンテンツデータ再生日時としてのアクセスタイム345などが1つのデータとして構成されたテーブル構造である。

【0183】

アイコン付加情報343は、アイコン情報342Ndにより特定されるアイコンに関連付けられた情報である。具体的には、アイコン付加情報343は、画像固有情報としてのアイコンのファイル名、表示サイズ、表示位置、アイコンに関連付けられたデータ固有情報としてのコンテンツデータのファイル名などの情報である。

【0184】

再生済みフラグ344は、第2実施形態の再生済みフラグ253と略等しいフラグ情報

である。

【0185】

アクセスタイム345は、第2実施形態のアクセスタイム254と略等しい情報である。

【0186】

プログラム使用領域は、アイコンの加工処理やアクセスタイムの更新処理などに必要な各種データを適宜読み出し可能に記憶する。

【0187】

処理部323は、図22に示すように、各種プログラムとして、表示形態変更手段としてのアイコン加工手段323Aと、再生日時記憶手段である日時取得手段としてのアクセスタイム更新手段323Bと、表示形態変更手段としても機能する送信制御手段323Cと、計時手段としてのサーバ計時手段323Dと、カウンタ323Eと、など構成する。

【0188】

アイコン加工手段323Aは、コンテンツデータが端末装置330にて少なくとも1回は再生されているか否かを判断する。そして、コンテンツデータが1回も再生されていないと判断した場合には、コンテンツデータが1回も再生されていないことを示す表示形態のアイコンを表示部233に表示させるための仮想グラフィックスプレーンを生成する。一方で、コンテンツデータが少なくとも1回は再生されていると判断した場合には、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を認識する。そして、この経過日数に基づいた表示形態のアイコンを端末装置330の表示部233に表示させるための仮想グラフィックスプレーンを生成する。なお、アイコン加工手段323Aにて、仮想グラフィックスプレーンを生成する処理の詳細については後述する。

【0189】

アクセスタイム更新手段323Bは、HP表示情報340の再生済みフラグ344およびアクセスタイム345を適宜更新する。なお、再生済みフラグ344およびアクセスタイム345を更新する処理の詳細については後述する。

【0190】

送信制御手段323Cは、端末装置330からの要求に基づいてHP表示情報340、コンテンツデータ、仮想グラフィックスプレーンなどのHPデータを端末装置330へ送信する。具体的には、インターフェース221から入力される情報信号Sbbに基づいて、この情報信号Sbbに記載された要求情報としても機能するデータ送信要求情報を認識する。そして、このデータ送信要求情報に基づいて、HPアドレスと、HPデータの送信を要求する旨の情報とを認識する。この後、この認識したHPアドレスと同一のHPアドレス341が組み込まれたHP表示情報340、このHP表示情報340に関連付けられたコンテンツデータ、アイコン加工手段323Aにて生成された仮想グラフィックスプレーンを取得する。そして、これら取得したHPデータを情報信号Sbbに適宜変換してインターフェース221へ出力する。

【0191】

サーバ計時手段323Dは、例えば内部クロックなどの基準パルスに基づいて現在時刻を認識する。そして、認識した現在時刻に関する時刻情報を適宜出力する。

【0192】

カウンタ323Eは、アイコン加工手段323Aにて生成された仮想グラフィックスプレーンの数を計数する。

【0193】

端末装置330は、ネットワーク210を介してサーバ装置320に記憶されたHPデータなどを取得する。そして、この取得したHPデータに基づいて、HPやアイコンを表示したりコンテンツデータを再生したりする。この端末装置330は、送受信器231と、操作部232と、表示手段としての表示部233と、音声出力部234と、メモリ335と、CPU336と、などを備えている。

【0194】

メモリ 3 3 5 は、サーバ装置 3 2 0 から取得した H P データ、操作部 2 3 2 で入力操作される設定事項などを適宜読み出し可能に記憶する。また、メモリ 3 3 5 は、端末装置 3 3 0 全体を動作制御する O S 上に展開される各種プログラムなどを記憶している。

【0 1 9 5】

C P U 3 3 6 は、各種プログラムとして、図 2 3 に示すように、通知情報生成手段としても機能する画像表示制御手段としての表示制御手段 3 3 6 A などを構成する。

【0 1 9 6】

表示制御手段 3 3 6 A は、サーバ装置 3 2 0 に記憶された H P データなどを取得する。そして、表示部 2 3 3 に H P を表示させたり、表示部 2 3 3 や音声出力部 2 3 4 にコンテンツデータを再生させる。具体的には、例えば操作部 2 3 2 から入力される操作信号 S_{in}に基づいて、この操作信号 S_{in}に記載された表示部 2 3 3 に H P を表示させる旨を要求する情報を認識する。そして、データ送信要求情報を生成し、このデータ送信要求情報を情報信号 S_{tt}に変換して送受信器 2 3 1 へ出力する。そして、送受信器 2 3 1 から入力される情報信号 S_{tt}に基づいて、この情報信号 S_{tt}に記載された H P データなどを取得する。この後、この取得した H P データをメモリ信号 S_{me}に適宜変換して、メモリ 3 3 5 に適宜読み出し可能に記憶させる。そして、メモリ 3 3 5 に記憶させた H P 表示情報 3 4 0 および仮想グラフィックスプレーンをメモリ信号 S_{me}として適宜読み出し、これら H P 表示情報 3 4 0 および仮想グラフィックスプレーンを処理信号 S_{dp}に適宜変換して表示部 2 3 3 へ出力する。

【0 1 9 7】

この後、表示制御手段 3 3 6 A は、操作部 2 3 2 から適宜入力される操作信号 S_{in}に基づいて、この操作信号 S_{in}に記載されたコンテンツデータを再生する旨を認識した場合には、例えば以下の処理を実施する。まず、メモリ 3 3 5 に記憶された H P 表示情報 3 4 0 から、コンテンツデータに関連付けられたアイコン情報 3 4 2 Ndを検索する。次に、この検索したアイコン情報 3 4 2 Ndのアイコン付加情報 3 4 3 を参照してコンテンツデータのファイル名を認識する。そして、この認識したファイル名のコンテンツデータをメモリ 3 3 5 から検索してメモリ信号 S_{me}として読み出す。この後、このコンテンツデータを映像信号 S_{dp}や音声信号 S_{ad}に適宜変換して、表示部 2 3 3 や音声出力部 2 3 4 へ出力する。そして、コンテンツデータの再生が開始された旨を通知する再生開始通知情報を生成する。この後、この生成した再生開始通知情報を情報信号 S_{tt}に適宜変換して送受信器 2 3 1 へ出力する。

【0 1 9 8】

また、表示制御手段 3 3 6 A は、操作部 2 3 2 から適宜入力される操作信号 S_{in}に基づいて、この操作信号 S_{in}に記載されたコンテンツデータの再生を中止する旨を認識した場合には、例えば以下の処理を実施する。まず、コンテンツデータが記載された映像信号 S_{dp}や音声信号 S_{ad}の表示部 2 3 3 や音声出力部 2 3 4 への出力を中止する。そして、再生が中止されたコンテンツデータを認識し、この認識したコンテンツデータに関連付けられたアイコン情報 3 4 2 Ndをメモリ 3 3 5 から検索して読み出す。この後、この読み出したアイコン情報 3 4 2 Ndとともに、コンテンツデータの再生が中止された旨を通知する処理通知情報としての再生中止通知情報を生成する。そして、この再生中止通知情報を情報信号 S_{tt}に適宜変換して送受信器 2 3 1 へ出力する。

【0 1 9 9】

〔H P 表示システムの動作〕

次に、H P 表示システム 3 0 0 の動作について図 1 9 および図 2 0 に基づいて説明する。

【0 2 0 0】

(アイコンの加工処理)

最初に、アイコンの加工処理について、図 1 9 に基づいて説明する。まず、利用者は、例えば操作部 2 3 2 の入力操作により所望の H P を表示部 2 3 3 に表示させる旨を設定入力する。

【0201】

端末装置330は、CPU336の表示制御手段336Aにて、HPを表示部233に表示させる旨の設定入力を認識すると、データ送信要求情報を生成する。そして、このデータ送信要求情報をネットワーク210を介してサーバ装置320へ送信する。

【0202】

サーバ装置320は、端末装置330からデータ送信要求情報を受信すると、送信制御手段323Cにて、このデータ送信要求情報に基づいて、HPアドレスと、HPデータの送信を要求する旨の情報とを認識する。また、サーバ装置320は、アイコン加工手段323Aにて、端末装置330がアイコンの表示を開始する旨を認識する（ステップS801）。次に、サーバ装置320は、アイコン加工手段323Aにて、サーバ計時手段323Dから現在時刻を取得して、この現在時刻を操作日時Tとして記憶手段222のプログラム使用領域に適宜読み出し可能に記憶させる（ステップS802）。

【0203】

この後、アイコン加工手段323Aは、前記認識したHPアドレスと同一のHPアドレス341が組み込まれたHP表示情報340をHP情報記憶領域222Aから検索して読み出す。そして、この読み出したHP表示情報340をプログラム使用領域に適宜読み出し可能に記憶させる。この後、プログラム使用領域に記憶させたHP表示情報340に組み込まれたアイコン情報342Ndの数をHPに表示させるアイコンの表示数nとして認識する（ステップS803）。この後、カウンタ323Eのカウンタ値iを1に設定する（ステップS804）。

【0204】

次に、アイコン加工手段323Aは、カウンタ値iから1を引いた値、すなわち（i-1）がアイコンの表示数nに達しているか否かを判断する（ステップS805）。そして、表示数nに達していると判断した場合には、アイコンの加工処理を終了する。一方で、ステップS805において、表示数nに達していないと判断した場合には、プログラム使用領域に記憶されたHP表示情報340のアイコン情報342Ndに組み込まれたアイコン付加情報343を参照して、i番目に表示するアイコンのファイル名を検索する。このファイル名を検索する方法としては、例えば記憶手段222にアイコン情報342Ndが記憶された順番に基づいて検索する方法などが例示できる。そして、アイコン加工手段323Aは、この検索したファイル名のアイコンをアイコン記憶領域222Cから読み出す。この後、この読み出したアイコンをi番目の仮想グラフィックスプレーンに展開する（ステップS806）。

【0205】

次に、アイコン加工手段323Aは、ステップS806において検索したアイコンのファイル名が記載されたアイコン情報342Ndの再生済みフラグ344を参照する。そして、再生済みフラグ344が「0」、すなわちコンテンツデータが1回も再生されていないことを認識した場合には、例えば以下の処理を実施する。アイコン加工手段323Aは、（i+1）番目の仮想グラフィックスプレーンのアルファ値以外すなわち透明度以外の設定を変更する。この設定の変更としては、例えば色調をモノトーン調やセピア調などへ変更する構成などが例示できるがこれに限られない。

【0206】

一方で、アイコン加工手段323Aは、再生済みフラグ344を参照して、再生済みフラグ344が「1」、すなわちコンテンツデータが少なくとも1回は再生されていることを認識した場合には、このアイコン情報342Ndのアクセスタイム345を認識する（ステップS807）。この後、プログラム使用領域に記憶させた操作日時Tを読み出し、この操作日時Tとアクセスタイム345との時間差分、すなわちコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を求める。そして、例えば図9のグラフに基づいて、求めた経過日数から仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する（ステップS808）。

【0207】

この後、アイコン加工手段 3 2 3 A は、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値をステップ S 8 0 8 において決定したアルファ値に設定する（ステップ S 8 0 9）。そして、カウンタ 3 2 3 E のカウンタ値 i を 1 だけ増やした（ステップ S 8 1 0）後に、ステップ S 8 0 5 の処理を実施する。そして、アイコン加工手段 3 2 3 A は、 n 個の仮想グラフィックスプレーンを生成した後にアイコンの加工処理を終了する。

【0 2 0 8】

そして、サーバ装置 3 2 0 は、送信制御手段 3 2 3 C にて、プログラム使用領域に記憶された H P 表示情報 3 4 0 のアイコン付加情報 3 4 3 を参照して、コンテンツデータのファイル名を認識する。この後、送信制御手段 3 2 3 C は、認識したファイル名のコンテンツデータをコンテンツ記憶領域 2 2 2 B から検索して取得する。そして、このコンテンツデータを、プログラム使用領域に記憶された H P 表示情報 3 4 0、および、アイコン加工手段 3 2 3 A において生成された仮想グラフィックスプレーンとともに、端末装置 3 3 0 へ送信する。

【0 2 0 9】

端末装置 3 3 0 は、表示制御手段 3 3 6 A にて、サーバ装置 3 2 0 から H P データを受信すると、この受信した H P データをメモリ 3 3 5 に適宜読み出し可能に記憶させる。次に、メモリ 3 3 5 から H P 表示情報 3 4 0 および仮想グラフィックスプレーンを読み出す。そして、読み出した H P 表示情報 3 4 0 に基づいて H P を表示部 2 3 3 に表示させる。また、H P 表示情報 3 4 0 のアイコン付加情報 3 4 3 に基づいて、仮想グラフィックスプレーンを H P の所定位置に配置して表示させる。これにより、表示部 2 3 3 には、例えば図 1 1 に示されるように、経過日数に対応して表示形態が異なるアイコン画像 6 0 i が表示される。なお、このとき 1 回も再生されていないコンテンツデータのアイコン画像 6 0 i は、ここでは図示しないが、例えばモノトーン調など、経過日数により変更する表示形態とは異なる表示形態で表示され、経過日数に対応してその表示形態は変更されない。

【0 2 1 0】

（アクセスタイムの更新処理）

次に、アクセスタイムの更新処理について、図 2 0 に基づいて説明する。まず、利用者は、H P 表示システム 3 0 0 に上述したアイコンの加工処理を実施させることにより、端末装置 3 3 0 の表示部 2 3 3 にアイコン画像 6 0 i を表示させる。そして、例えば操作部 2 3 2 の入力操作にて、表示部 2 3 3 に表示され所望のコンテンツデータに関連付けられたアイコン画像 6 0 i を選択することにより、コンテンツデータの再生を開始する旨を設定入力する。

【0 2 1 1】

端末装置 3 3 0 は、表示制御手段 3 3 6 A にて、コンテンツデータの再生を開始する旨の設定入力を認識すると、例えば以下の処理を実施する。まず、表示制御手段 3 3 6 A は、コンテンツデータをメモリ 3 3 5 から検索して読み出す。そして、この読み出したコンテンツデータを表示部 2 3 3 や音声出力部 2 3 4 へ出力して再生を開始する。この後、表示制御手段 3 3 6 A は、再生開始通知情報を生成し、この再生開始通知情報をネットワーク 2 1 0 を介してサーバ装置 3 2 0 へ送信する。

【0 2 1 2】

一方で、サーバ装置 3 2 0 は、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B にて、再生開始通知情報を受信すると、この再生開始通知情報に基づいて端末装置 3 3 0 がコンテンツデータの再生を開始した旨を認識する（ステップ S 9 0 1）。そして、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B は、サーバ計時手段 3 2 3 D から現在時刻を取得して、この現在時刻を再生開始時刻 T_p としてプログラム使用領域に適宜読み出し可能に記憶させる（ステップ S 9 0 2）。

【0 2 1 3】

この後、利用者による例えば操作部 2 3 2 の入力操作にて、コンテンツデータの再生を中止する旨の設定入力されると、端末装置 3 3 0 は、表示制御手段 2 3 6 A にてコンテンツデータの再生を中止する旨の設定入力を認識する。そして、表示制御手段 2 3 6 A はコ

ンテンツデータの再生を中止する。この後、表示制御手段 2 3 6 A は、再生中止通知情報を生成し、この再生中止通知情報をネットワーク 2 1 0 を介してサーバ装置 3 2 0 へ送信する。

【0 2 1 4】

サーバ装置 3 2 0 は、ステップ S 9 0 2 の処理を実施した後、所定時間の例えば 1 分後に、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B にて、端末装置 3 3 0 から再生中止通知情報を受信したか否を判断する（ステップ S 9 0 3）。なお、ここでは所定時間を 1 分とした構成について例示したが、これに限らず例えば 3 0 秒や 3 分などとしてもよい。

【0 2 1 5】

アクセスタイム更新手段 3 2 3 B は、ステップ S 9 0 3 において、再生中止通知情報を受信していないと判断した場合には、再びステップ S 9 0 3 の処理を実施する。

【0 2 1 6】

一方で、ステップ S 9 0 3 において、再生中止通知情報を受信していると判断した場合には、サーバ計時手段 3 2 3 D から現在時刻を取得して、この現在時刻を再生終了時刻 T_eとしてプログラム使用領域に適宜読み出し可能に記憶させる（ステップ S 9 0 4）。この後、再生開始時刻 T_pおよび再生終了時刻 T_eをメモリ 2 3 5 から読み出して、これらの時間差分、すなわちコンテンツデータのデータ処理期間としての再生時間が予め定められた所定時間の例えば 1 分よりも長いかなんかを判断する（ステップ S 9 0 5）。なお、ここでは所定時間を 1 分とした構成について例示したが、これに限らず例えば 3 0 秒や 3 分などとしてもよい。

【0 2 1 7】

アクセスタイム更新手段 3 2 3 B は、ステップ S 9 0 5 において、再生時間が 1 分よりも短いと判断した場合には、アクセスタイムの更新処理を終了する。

【0 2 1 8】

一方で、ステップ S 9 0 5 において、再生時間が 1 分よりも長いと判断した場合には、例えば以下の処理を実施する。まず、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B は、再生中止通知情報に記載されたアイコン情報 3 4 2 N_dを認識する。そして、この認識したアイコン情報 3 4 2 N_dと同一のアイコン情報 3 4 2 N_dが組み込まれた H P 表示情報 3 4 0 を H P 情報記憶領域 2 2 2 A から検索して読み出す。この後、この読み出した H P 表示情報 3 4 0 をプログラム使用領域に適宜読み出し可能に記憶させる。そして、プログラム使用領域に記憶させた H P 表示情報 3 4 0 から前記アイコン情報 3 4 2 N_dの再生済みフラグ 3 4 4 を読み出す。そして、読み出した再生済みフラグ 3 4 4 が「0」の場合には、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されたことを示すフラグ情報「1」を生成する。この後、H P 表示情報 3 4 0 をプログラム使用領域から読み出し、この H P 表示情報 3 4 0 の再生済みフラグ 3 4 4 を生成したフラグ情報「1」に変更する。そして、アクセスタイム 3 4 5 に再生終了日付を記載する。一方で、読み出した再生済みフラグ 3 4 4 が「1」の場合には、H P 表示情報 3 4 0 のアクセスタイム 3 4 5 を再生終了日付に変更する（ステップ S 9 0 6）。そして、H P 表示情報 3 4 0 を記憶手段 2 2 2 に記憶させてアクセスタイムの更新処理を終了する。

【0 2 1 9】

〔第 3 実施形態の作用効果〕

上述したような第 3 実施形態では、H P 表示システム 3 0 0 のサーバ装置 3 2 0 は、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B にて再生中止通知情報を取得することによりコンテンツデータの再生が中止された旨を認識する。そして、再生終了時刻 T_eをコンテンツデータのアクセスタイム 3 4 5 として取得する。この後、サーバ装置 3 2 0 は、アイコン加工手段 3 2 3 A にて、コンテンツデータのアイコンを端末装置 3 3 0 の表示部 2 3 3 に表示させる旨の要求を認識すると、このコンテンツデータのアクセスタイム 3 4 5 を認識する。次に、アイコン加工手段 3 2 3 A は、アクセスタイム 3 4 5 からの経過日数に基づいて、アイコンが展開された仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する。そして、アルファ値が前記決定された値に設定された仮想グラフィックスプレーンを生成する。この後

、この仮想グラフィックスプレーンを端末装置 3 3 0 へ送信することにより、端末装置 3 3 0 の表示部 2 3 3 にアイコンをアクセスタイム 3 4 5 に対応した表示形態で表示させる。

【0 2 2 0】

このように、サーバ装置 3 2 0 は、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値をアクセスタイム 3 4 5 からの経過日数に基づいて設定することにより、端末装置 3 3 0 の表示部 2 3 3 に例えば図 1 1 に示すように、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数によって表示形態が異なるアイコン画像 6 0 i を表示させる。このため、利用者は、アイコン画像 6 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識できる。したがって、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数により示される、各コンテンツに対する嗜好性を容易に認識できる。

【0 2 2 1】

アイコン加工手段 3 2 3 A は、アイコンを表示させる旨の要求を認識すると操作日時 T を取得する。そして、操作日時 T とアクセスタイム 3 4 5 との時間差分を経過日数と認識し、この経過日数に基づいてアルファ値を決定する。このように、アイコンを表示させる旨の要求を認識した際の操作日時 T を基準にした経過日数に基づいてアルファ値を決定することにより、アイコン画像 6 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数をより容易に認識できる。このため、各コンテンツに対する嗜好性をより容易に認識できる。

【0 2 2 2】

サーバ装置 3 2 0 は、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B にてコンテンツデータの再生が開始された旨を認識すると、再生開始時刻 T_p を取得する。また、サーバ装置 3 2 0 は、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B にてコンテンツデータの再生が中止された旨を認識すると、再生終了時刻 T_e を取得する。この後、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B は、再生開始時刻 T_p および再生終了時刻 T_e から求められるコンテンツデータの再生時間が所定時間以上であるか否かを判断する。そして、再生時間が所定時間以上であると判断し場合には、再生終了日付をアクセスタイム 3 4 5 として記憶手段 2 2 2 に記憶させることによりアクセスタイム 3 4 5 を更新する。一方で、再生時間が所定時間以上でないと判断した場合には、アクセスタイム 3 4 5 を更新しない。このような構成により、例えば利用者が、例えば操作を誤って再生させるつもりがないコンテンツデータを再生させた場合でも、その再生時間が所定以下であればアクセスタイム 3 4 5 が更新されることがない。このため、アクセスタイム 3 4 5 は、利用者が再生させたいコンテンツデータが再生された場合のみに更新される。したがって、このアクセスタイム 3 4 5 からの経過日数に基づいて表示形態が変更されたアイコン画像 6 0 i により、各コンテンツに対する嗜好性をより確実に認識できる。

【0 2 2 3】

アイコン加工手段 3 2 3 A は、アクセスタイム 3 4 5 からの経過日数に基づいて仮想グラフィックスプレーンのアルファ値すなわち透明度を変更する。このように、仮想グラフィックスプレーンの透明度を変更することにより、アイコン画像 6 0 i の視覚的な認識のし易さを変更できる。このため、各コンテンツに対する嗜好性をより容易にかつ確実に認識できる。また、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を変更するだけの簡単な構成で、アイコン画像 6 0 i の表示形態を変更できる。したがって、アイコン画像 6 0 i の表示形態を変更する処理をより容易にかつ迅速に実施できる。

【0 2 2 4】

アイコン加工手段 3 2 3 A は、アイコンを仮想グラフィックスプレーンに展開した後に、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを判断する。この後、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されていると判断した場合には、アクセスタイム 3 4 5 からの経過日数に基づいて、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を決定する。一方で、コンテンツデータが 1 回も再生されていないと判断した場合には、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値以外の設定を変更、例えば色調をモノトーン調へ変更する。

このような構成により、少なくとも 1 回は再生されたコンテンツデータのアイコンは、再生されてからの経過日数に基づき透明度が変更されたアイコン画像 6 0 i として表示される。一方で、1 回も再生されていないコンテンツデータのアイコンは、例えばモノトーン調のアイコン画像 6 0 i として表示される。このため、アイコン画像 6 0 i の表示形態から 1 回も再生されていないコンテンツデータを容易に認識できる。また、例えば嗜好性が高いコンテンツデータを 1 回も再生せずに長時間が経過したとしても、アイコン画像 6 0 i はモノトーン調で表示されるので、再生し忘れていたことを容易に認識できる。したがって、各コンテンツに対する嗜好性をより確実に認識できる。

【0 2 2 5】

記憶手段 2 2 2 に、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを示す再生済みフラグ 3 4 4 を記憶させている。このため、アイコン加工手段 3 2 3 A は、アルファ値を決定する前に、再生済みフラグ 3 4 4 を参照するだけの簡単な処理により、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを認識できる。したがって、アイコン画像 6 0 i の表示形態を変更する処理をより容易にかつ迅速に実施できる。

【0 2 2 6】

記憶手段 2 2 2 に、アイコンのファイル名が記載されたアイコン付加情報 3 4 3、および、コンテンツデータのアクセスタイム 3 4 5 などが 1 つのデータとして組み込まれたアイコン情報 3 4 2 Nd を記憶させている。このため、アイコン加工手段 3 2 3 A は、アルファ値を決定する際に、アイコンのファイル名を検索することによりアイコン情報 3 4 2 Nd を特定し、この特定したアイコン情報 3 4 2 Nd からアクセスタイム 3 4 5 を認識できる。したがって、アクセスタイム 3 4 5 を、簡単なデータ構造でかつアイコンのファイル名を検索するだけの簡単な方法で、容易にかつ迅速に認識でき、アルファ値を決定する処理時間を短縮できる。

【0 2 2 7】

サーバ装置 3 2 0 に、サーバ計時手段 3 2 3 D を設けている。このような構成により、例えばアクセスタイム更新手段 3 2 3 B におけるアクセスタイム 3 4 5 の更新処理に必要な、再生開始時刻 Tp や再生終了時刻 Te を適宜迅速に取得できる。このため、例えばアクセスタイム 3 4 5 の更新処理などの処理時間を短縮できる。また、端末装置 3 3 0 は、サーバ計時手段 3 2 3 D が計時する基準日時に基づいて処理が実施された H P データを取得できる。このため、端末装置 3 3 0 の表示部 2 3 3 に表示されるアイコン画像 6 0 i の時間的な信頼性を高めることができる。したがって、各コンテンツに対する嗜好性をより正確に認識できる。

【0 2 2 8】

H P 表示システム 3 0 0 を、サーバ装置 3 2 0 と、このサーバ装置 3 2 0 にネットワーク 2 1 0 を介して接続された端末装置 3 3 0 とを備えた構成としている。サーバ装置 3 2 0 に、コンテンツデータを記憶する記憶手段 2 2 2 と、この記憶手段 2 2 2 に記憶されたコンテンツデータを端末装置 3 3 0 へ適宜送信する送信制御手段 3 2 3 C とを設けている。また、端末装置 3 3 0 に、コンテンツデータをサーバ装置 3 2 0 から適宜取得して、このコンテンツデータを表示部 2 3 3 に再生させる表示制御手段 3 3 6 A を設けている。このように、コンテンツデータをサーバ装置 3 2 0 から適宜取得させる構成とすることにより、メモリ 2 3 5 にコンテンツデータを常時記憶させる必要がなくなる。このため、メモリ 2 3 5 の容量を小さくできる。また、サーバ装置 3 2 0 の記憶手段 2 2 2 にコンテンツデータを記憶させたので、複数の端末装置 3 3 0 に同一のコンテンツデータを適宜送信できる。このため、コンテンツデータの共有化が可能な汎用性が高い H P 表示システム 3 0 0 を提供できる。

【0 2 2 9】

サーバ装置 3 2 0 の記憶手段 2 2 2 に、アイコンを記憶させている。そして、アイコン加工手段 3 2 3 A は、記憶手段 2 2 2 に記憶されたアイコンを仮想グラフィックスプレーンに展開し、この仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を適宜設定する。この後、サーバ装置 3 2 0 は、送信制御手段 3 2 3 C にて、このアルファ値が設定された仮想グラフ

ィックスプレーンを端末装置 330 へ送信する。端末装置 330 は、表示制御手段 336 A にて、仮想グラフィックスプレーンを受信すると、この仮想グラフィックスプレーンによりアイコン画像 60 i を表示部 233 に表示させる。このように、サーバ装置 320 の記憶手段 222 にアイコンを予め記憶させておくことにより、アイコン加工手段 323 A にてアイコンを取得する時間を短縮できる。したがって、アイコンを加工する処理時間を短縮できる。また、サーバ装置 320 の記憶手段 222 にアイコンを記憶させたので、複数の端末装置 330 に同一のアイコンを適宜送信できる。このため、アイコンの共有化が可能な汎用性が高い H P 表示システム 300 を提供できる。さらに、端末装置 330 の表示制御手段 336 A にて、仮想グラフィックスプレーンをサーバ装置 320 から適宜取得する構成とした。このため、端末装置 330 のメモリ 235 にアイコンを常時記憶させる必要がなくなる。したがって、メモリ 235 の容量を小さくできる。

【0230】

サーバ装置 320 に、アイコン加工手段 323 A やアクセスタイム更新手段 323 B など設け、アイコンの加工処理やアクセスタイムの更新処理などをサーバ装置 320 において実施する構成としている。このため、端末装置 330 の構成を簡略にできる。また、複数の端末装置 330 に対して、アイコン加工手段 323 A やアクセスタイム更新手段 323 B により同様の処理が実施された H P データの提供できる。このため、複数の端末装置 330 の表示部 233 に信頼性が高いアイコン画像 60 i を表示可能な汎用性が高い H P 表示システム 300 を提供できる。

【0231】

[他の実施形態]

なお、本発明は、上述した実施形態に限定されるものではなく、本発明の目的を達成できる範囲で以下に示される変形をも含むものである。

【0232】

すなわち、各実施形態において、再生終了日付をアクセスタイム 42 B, 254, 345 として適宜設定する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、再生開始日付やコンテンツデータが再生されている間の任意の日時などを、アクセスタイム 42 B, 254, 345 として適宜設定する構成などとしてもよい。このような構成にしても、各実施形態と同様の作用効果を奏することができる。

【0233】

各実施形態において、再生開始時刻 T_p および再生終了時刻 T_e から求められるコンテンツデータの再生時間に基づいて、アクセスタイム 42 B, 254, 345 の更新を実施するか否かを判断する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、コンテンツデータが再生された際に、アクセスタイム 42 B, 254, 345 を必ず更新する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、例えば再生終了時刻 T_e をアクセスタイム 42 B, 254, 345 として適宜設定する構成の場合には、再生開始時刻 T_p を取得する処理、すなわち第 1 実施形態におけるステップ S502、第 2, 3 実施形態におけるステップ S902 の処理を省略できる。また、例えば再生開始時刻 T_p をアクセスタイム 42 B, 254, 345 として適宜設定する構成の場合には、再生終了時刻 T_e を取得する処理、すなわち第 1 実施形態におけるステップ S505、第 2, 3 実施形態におけるステップ S904 の処理を省略できる。このため、アクセスタイム 42 B, 254, 345 を更新する処理時間を短縮できる。

【0234】

各実施形態において、再生済みフラグ 42 A, 253, 344 を参照することにより、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを判断する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、アクセスタイム 42 B, 254, 345 に情報が記載されているか否かにより、コンテンツデータが少なくとも 1 回は再生されているか否かを判断する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、HDD 22、メモリ 235, 335 に再生済みフラグ 42 A, 253, 344

4 を記憶させる必要がなくなるので、HDD 2 2、メモリ 2 3 5、3 3 5 の容量を小さくできる。

【0 2 3 5】

各実施形態において、アクセスタイム 4 2 B、2 5 4、3 4 5 からの経過日数に基づいて、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値、すなわちサムネイル画像 5 0 i やアイコン画像 6 0 i の透明度を変更する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、アクセスタイム 4 2 B、2 5 4、3 4 5 に基づいて、色調をセピア調やモノトーン調などに変更する構成、表示サイズや輝度などを変更する構成、グラデーションなどをかける構成、点滅させる構成などとしてもよい。このような構成にすれば、利用者は、サムネイル画像 5 0 i やアイコン画像 6 0 i の表示形態からコンテンツが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識でき、各コンテンツに対する嗜好性を容易に認識できる。

【0 2 3 6】

各実施形態において、仮想グラフィックスプレーンのアルファ値を、図 9 に示したようなグラフに基づいて設定する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。

【0 2 3 7】

すなわち、経過日数が長くなるほどアルファ値を高く設定する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、経過日数が長いコンテンツデータの例えばサムネイル画像 5 0 i が不透明な画像となり。経過日数が短いコンテンツデータの例えばサムネイル画像 5 0 i が半透明な画像となる。このため、サムネイル画像 5 0 i の表示形態から長期間にわたって再生していないコンテンツデータを容易に認識できる。

【0 2 3 8】

また、経過日数に伴いアルファ値を段階的に変更する構成、すなわち例えば経過日数が 1 ヶ月未満の場合にはアルファ値を 2 5 5、1 ヶ月以上でありかつ 2 ヶ月未満の場合にはアルファ値を 2 0 0、2 ヶ月以上でありかつ 3 ヶ月未満の場合にはアルファ値を 1 5 0 などとしてもよい。このような構成にすれば、アルファ値を決定する際の閾値の数を減らすことができ、より容易にアルファ値を決定できる。

【0 2 3 9】

さらに、経過日数によってアルファ値の変化量を変更する構成、すなわち例えば経過日数が 1 ヶ月未満の場合には変化量を小さく設定し、1 ヶ月以上の場合には変化量を大きく設定する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、経過日数が 1 ヶ月未満の場合と 1 ヶ月以上の場合とで、1 日あたりの例えばサムネイル画像 5 0 i の表示形態の変化量が異なる。このため、1 日あたりのサムネイル画像 5 0 i の表示形態から経過日数が所定日数以上経過したか否かを容易に認識できる。

【0 2 4 0】

そして、経過日数が所定日数の例えば 1 ヶ月未満の場合には経過日数が長くなるほどアルファ値を例えば低く設定し、経過日数が 1 ヶ月以上の場合には経過日数が長くなるほどアルファ値を例えば高く設定する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、経過日数が 1 ヶ月未満の場合には例えばサムネイル画像 5 0 i は徐々に透明な画像に近づき、経過日数が 1 ヶ月以上の場合にはサムネイル画像 5 0 i は徐々に不透明な画像に近づく。このため、サムネイル画像 5 0 i の表示形態の変化から経過日数が所定時間以上経過したか否かを容易に認識できる。

【0 2 4 1】

第 1 実施形態において、アルファ値を決定する際に、サムネイル 4 2 C を検索することによりアクセスタイム 4 2 B を認識する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、プログラム情報 4 2 のファイル名、サムネイル 4 2 C のファイル名、メイン T S 4 3 のファイル名などを検索することによりアクセスタイム 4 2 B を認識する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、アクセスタイム 4 2 B を、簡単なデータ構造で、かつ、プログラム情報 4 2 のファイル名、サムネ

ル 4 2 C のファイル名、メイン T S 4 3 のファイル名などを検索するだけの簡単な方法で、容易にかつ迅速に認識でき、アルファ値を決定する処理を簡略化できる。

【 0 2 4 2 】

第 2, 3 実施形態において、アルファ値を決定する際に、アイコンのファイル名を検索することによりアクセスタイム 2 5 4, 3 4 5 を認識する構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、コンテンツデータのファイル名などを検索することによりアクセスタイム 2 5 4, 3 4 5 を認識する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、アクセスタイム 2 5 4, 3 4 5 を、簡単なデータ構造で、かつ、コンテンツデータのファイル名を検索するだけの簡単な方法で、容易にかつ迅速に認識でき、アルファ値を決定する処理を簡略化できる。

【 0 2 4 3 】

第 1 実施形態において、コンテンツ情報 4 0 のコンテンツ付加情報 4 1 に、コンテンツデータに関連付けられたキーワードなどを記載する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、記録再生装置 1 0 は、利用者の設定操作により入力されたキーワードなどを検索することにより、例えば複数のコンテンツ情報 4 0 を特定する。そして、特定されたコンテンツ情報 4 0 により再生されるコンテンツデータのサムネイル画像 5 0 i のみを出力装置 3 0 に表示させることができる。このため、嗜好性が高いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i のみを出力装置 3 0 に表示させることが可能な汎用性が高い記録再生システム 1 0 0 を提供できる。

【 0 2 4 4 】

各実施形態において、HDD 2 2 に記憶されたサムネイル 4 2 C や、記憶手段 2 2 2 に記憶されたアイコンに加工処理を施すことにより、表示形態が異なるサムネイル画像 5 0 i やアイコン画像 6 0 i を表示させる構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、例えば第 1 実施形態において、サムネイル加工手段 2 5 C は、ステップ S 4 0 6 において (i - 1) がサムネイルの表示数 n に達していないと判断した場合に、メイン T S 4 3 に組み込まれた映像データの一部を画像データ代表静止画像として取得する。そして、この取得した画像データ代表静止画像に加工処理を施す構成などとしてもよい。また、第 2, 3 実施形態において、アイコン加工手段 2 3 6 B, 3 2 3 A は、ステップ S 8 0 5 において (i - 1) がアイコンの表示数 n に達していないと判断した場合に、記憶手段 2 2 2 に記憶されたコンテンツデータの一部を画像データ代表静止画像として取得する。そして、この取得した画像データ代表静止画像に加工処理を施す構成などとしてもよい。このような構成にすれば、サムネイル 4 2 C を HDD 2 2 に、アイコンを記憶手段 2 2 2 に常時記憶させる必要がなくなり、HDD 2 2 や記憶手段 2 2 2 の容量を小さくできる。

【 0 2 4 5 】

第 1 実施形態において、HDD 2 2 に記憶されたメイン T S 4 3 に組み込まれた映像データの一部を画像データとして取得し、この取得した画像データをサムネイル 4 2 C として HDD 2 2 に記憶させる構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、記録再生システム 1 0 0 の H S I 2 1 に、例えば第 2 実施形態のネットワーク 2 1 0 と同様のネットワークやファイバチャネルを介して、例えば H D や D V D (Digital Versatile Disc) などの記録媒体に記録された、例えば映画などのコンテンツの映像データなどを出力可能なサーバ装置としても機能する図示しない再生装置を接続する。そして、この再生装置から出力される映像データの一部を画像データとして取得し、この取得した画像データをサムネイル 4 2 C として HDD 2 2 に記憶させる構成などとしてもよい。このような構成にすれば、コンテンツを再生するためのメイン T S 4 3 などの映像データを HDD 2 2 に常時記憶させる必要がなくなるので、HDD 2 2 の容量を小さくできる。また、DVD を適宜交換することにより所望のコンテンツのサムネイル画像 5 0 i を表示可能な汎用性が高い記録再生システム 1 0 0 を提供できる。

【 0 2 4 6 】

また、上述したような再生装置を備えた構成において、DVD にサムネイル用の画像デ

ータが予め記録されている場合には、例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、サムネイル加工手段 2 5 C は、サムネイル画像 5 0 i を表示させる際に、再生装置から出力されるサムネイル用の画像データを取得して、この取得した画像データに加工処理を施す構成などとしてもよい。このような構成にすれば、サムネイル 4 2 C を H D D 2 2 に常時記憶させる必要がなくなるので、H D D 2 2 の容量を小さくできる。また、D V D を適宜交換することにより所望のコンテンツのサムネイル画像 5 0 i を表示可能な汎用性が高い記録再生システム 1 0 0 を提供できる。

【0 2 4 7】

さらに、以下のような構成としてもよい。すなわち、第 1 実施形態において、記録再生装置 1 0 の H S I 2 1 に、例えば第 2 実施形態のネットワーク 2 1 0 と同様のネットワークやファイバチャネルを介して、日時取得手段および表示形態変更手段などを備えた表示制御装置としても機能する図示しないサムネイル加工装置を接続する構成などとしてもよい。このような構成により、記録再生装置 1 0 は、H D D 2 2 に記憶されたサムネイル 4 2 C をサムネイル加工装置に適宜出力する。そして、サムネイル加工装置は、日時取得手段や表示形態変更手段などにて、サムネイル 4 2 C を仮想グラフィックスプレーンに展開し、この仮想グラフィックスプレーンの例えばアルファ値を設定する。この後、この仮想グラフィックスプレーンを記録再生装置 1 0 へ出力する。そして、記録再生装置 1 0 は、仮想グラフィックスプレーンを出力装置 3 0 へ出力し、出力装置 3 0 の表示部 3 2 にサムネイル画像 5 0 i を表示させる。このため、記録再生装置 1 0 を本発明の端末装置としても利用でき、記録再生装置 1 0 の汎用性を高めることができる。

【0 2 4 8】

第 2 実施形態において、アイコンの加工処理の際に、表示制御手段 2 3 6 A にてサーバ装置 2 2 0 から取得したアイコンに、アイコン加工手段 2 3 6 B にて加工処理を施す構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、サーバ装置 2 2 0 から取得したアイコンを端末装置 2 3 0 のメモリ 2 3 5 に記憶させる。そして、例えばアイコンを取得した日と別の日にアイコンの加工処理を実施する際に、メモリ 2 3 5 に記憶されたアイコンを取得して加工処理を施す構成などとしてもよい。このような構成にすれば、アイコンの加工処理を実施する毎にアイコンをサーバ装置 2 2 0 から取得する必要がなくなる。このため、アイコン加工手段 2 3 6 B にてアイコンを取得するまでの時間を短縮でき、アイコンを加工する処理時間を短縮できる。

【0 2 4 9】

第 2 実施形態において、端末装置 2 3 0 に端末計時手段 2 3 6 D を備えた構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、サーバ装置 2 2 0 に計時手段を設ける。そして、例えばアクセスタイム更新手段 2 3 6 C にてアクセスタイムの更新処理を実施する際に、再生開始時刻 T_p や再生終了時刻 T_e をサーバ装置 2 2 0 の計時手段から取得する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、端末装置 2 3 0 に端末計時手段 2 3 6 D を設ける必要がなくなる。このため、端末装置 2 3 0 の構成を簡略化できる。また、端末装置 2 3 0 は、サーバ装置 2 2 0 の計時手段が計時する基準日時に基づいて、アクセスタイムの更新処理やアイコンの加工処理を実施できる。このため、表示部 2 3 3 に表示されるアイコン画像 6 0 i の時間的な信頼性を高めることができる。

【0 2 5 0】

第 3 実施形態において、サーバ装置 3 2 0 にサーバ計時手段 3 2 3 D を備えた構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、端末装置 3 3 0 に計時手段を設ける。そして、例えばサーバ装置 3 2 0 のアクセスタイム更新手段 3 2 3 B にてアクセスタイムの更新処理を実施する際に、再生開始時刻 T_p や再生終了時刻 T_e を端末装置 3 3 0 の計時手段から取得する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、サーバ装置 3 2 0 にサーバ計時手段 3 2 3 D を設ける必要がなくなる。このため、サーバ装置 3 2 0 の構成を簡略化できる。また、サーバ装置 3 2 0 の処理負荷などを低減でき、H P データの送受信をより迅速にできる H P 表示システム 3 0 0 を提供

できる。

【0 2 5 1】

第 1 実施形態において、ステップ S 4 1 0 の処理を設け、サムネイル画像 5 0 i を表示させた後、所定日数が経過した場合にサムネイルの表示処理を終了させる構成について例示したが、これに限らず例えば以下のような構成などとしてもよい。すなわち、ステップ S 4 0 8 において、再生要求情報を受信していないと判断した場合にステップ S 4 0 2 に戻る。そして、ステップ S 4 0 8 において再生要求情報を受信するまで、ステップ S 4 0 2 ないしステップ S 4 0 8、ステップ S 4 1 1 ないしステップ S 4 1 6 の処理を繰り返す構成などとしてもよい。

【0 2 5 2】

このような構成にすれば、ステップ S 4 0 7 において表示中止指示情報を、または、ステップ S 4 0 8 において再生要求情報を受信するまで、サムネイル画像 5 0 i の表示形態を徐々に変化させることができる。そして、例えば経過日数が長いほどアルファ値を高く設定し、経過日数が所定時間以上の場合にはアルファ値を一定値に設定する構成にすれば、経過日数が短い嗜好性が高いサムネイル画像 5 0 i は半透明や透明な画像として表示され、経過日数が長い嗜好性が低いサムネイル画像 5 0 i は不透明な画像として表示される。この後、各サムネイル画像 5 0 i を長時間表示させると、嗜好性が高いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i は徐々に不透明な画像に近づき、嗜好性が低いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i は不透明なままになる。このように、各サムネイル画像 5 0 i を長時間表示させた場合に、嗜好性が高いサムネイル画像 5 0 i の表示形態のみを徐々に変更させる構成とすることにより、嗜好性が高いコンテンツをより容易に認識できる。

【0 2 5 3】

また、例えば 1 回目のステップ S 4 0 2 の処理を実施した後は、図 9 のグラフに基づいてアルファ値を設定するとともに、アルファ値が一定値以下すなわち嗜好性が低いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i を認識する。そして、2 回目以降のステップ S 4 0 2 に処理を実施した後は、アルファ値が一定値以下だったサムネイル画像 5 0 i のアルファ値を、例えば上述したように経過日数が長いほど高く設定する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、最初にサムネイル画像 5 0 i を表示させた際には、図 1 1 に示すように、嗜好性が高いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i は不透明な画像として表示され、嗜好性が低いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i は半透明や透明な画像として表示される。この後、各サムネイル画像 5 0 i を長期間表示させると、嗜好性が高いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i は不透明なままであるが、嗜好性が低いコンテンツのサムネイル画像 5 0 i は徐々に不透明な画像に近づく。このように、各サムネイル画像 5 0 i を長期間表示させた場合に、嗜好性が低いサムネイル画像 5 0 i の表示形態のみを変更させる構成とすることにより、嗜好性が低いコンテンツをより容易に認識できる。

【0 2 5 4】

第 1 実施形態の記録再生装置 1 0 に、コンテンツデータの再生予約機能を設ける。そして、再生予約が設定されたコンテンツデータのサムネイル画像 5 0 i の表示形態を、再生予約が設定された旨を示す表示形態に変更する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、再生予約が設定され嗜好性がより高いコンテンツをより容易に認識できる。

【0 2 5 5】

各実施形態において、本発明のデータを、テレビ番組や映画などの映像データとしたが、これに限らず例えば代表静止画像、音楽の音声データ、所定の処理を実施するプログラムデータ、アプリケーションウェア、各機器からの信号データなどとしてもよい。このような構成にしても、各実施形態と同様の作用効果を奏することができる。

【0 2 5 6】

第 1 実施形態において、リモコンの設定操作により各情報を生成する構成について例示したが、これに限らず例えば記録再生装置 1 0 に図示しない入力手段を設け、この入力手段の設定操作により各情報を生成する構成などとしてもよい。このような構成にすれば、例えばリモコンを紛失した場合でも入力手段の操作により各情報を生成できる。

【0 2 5 7】

各実施形態において、HDD 2 2、記憶手段 2 2 2、メモリ 2 3 5、3 3 5 に記憶された各情報のデータ構造を上述したような構成としたが、これに限られず適宜他のデータ構造としてもよい。

【0 2 5 8】

表示制御システムとして、出力装置 3 0 に記録再生装置 1 0 が接続された記録再生システム 1 0 0、サーバ装置 2 2 0、3 2 0 および端末装置 2 3 0、3 3 0 がネットワーク 2 1 0 を介して接続された H P 表示システム 2 0 0、3 0 0 の構成について説明したが、この構成に限らず、例えば演算手段としてのコンピュータを用いたり、コンピュータに上記処理を実施させるためのプログラム、そして、さらにはこのプログラムを記録した記録媒体をも本発明の対象とすることができる。さらに、表示制御装置としての記録再生装置 1 0、端末装置 2 3 0、サーバ装置 3 2 0 についても同様である。また、演算手段としてのコンピュータとしては、パーソナルコンピュータに限らず、複数のコンピュータがネットワーク状に接続された構成、マイクロコンピュータなどの素子、あるいは複数の電子部品が搭載された回路基板などをも含む。

【0 2 5 9】

その他、本発明の実施の際に具体的な構造および手順は、本発明の目的を達成できる範囲での他の構造などに適宜変更できる。

【0 2 6 0】

[実施形態の作用効果]

上述したような実施形態では、記録再生システム 1 0 0 の記録再生装置 1 0 は、コンテンツデータの再生日時を取得するコンテンツ情報生成手段 2 5 B と、コンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいてコンテンツデータに関連付けられたサムネイル画像 5 0 i の表示形態を変更させる G F X 1 7 およびサムネイル加工手段 2 5 C と、を備えている。このような構成により、記録再生装置 1 0 は、G F X 1 7 およびサムネイル加工手段 2 5 C にて、コンテンツ情報生成手段 2 5 B にて取得したコンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいて、サムネイル画像 5 0 i の表示形態を変更させる。このため、利用者は、サムネイル画像 5 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識できる。したがって、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数により示される、各コンテンツに対する嗜好性を容易に認識できる。

【0 2 6 1】

また、別の実施形態では、H P 表示システム 2 0 0 の端末装置 2 3 0 は、コンテンツデータの再生日時を取得するアクセスタイム更新手段 2 3 6 C と、コンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいてコンテンツデータに関連付けられたアイコン画像 6 0 i の表示形態を変更させるアイコン加工手段 2 3 6 B と、を備えている。このような構成により、端末装置 2 3 0 は、アイコン加工手段 2 3 6 B にて、アクセスタイム更新手段 2 3 6 C にて取得したコンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいて、アイコン画像 6 0 i の表示形態を変更させる。このため、利用者は、アイコン画像 6 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識できる。したがって、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数により示される、各コンテンツに対する嗜好性を容易に認識できる。

【0 2 6 2】

また、さらに別の実施形態では、H P 表示システム 3 0 0 のサーバ装置 3 2 0 は、コンテンツデータの再生日時を取得するアクセスタイム更新手段 3 2 3 B と、コンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいてコンテンツデータに関連付けられたアイコン画像 6 0 i の表示形態を変更させるアイコン加工手段 3 2 3 A と、を備えている。このような構成により、サーバ装置 3 2 0 は、アイコン加工手段 3 2 3 A にて、アクセスタイム更新手段 3 2 3 B にて取得したコンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいて、端末装置 3 3 0 の表示部 2 3 3 に表示させるアイコン画像 6 0 i の表示形態を変更させるための仮想グラフィックスプレーンを生成して端末装置 3 3 0 に送信する。端末装置 3 3 0 は

、サーバ装置 3 2 0 からの仮想グラフィックスプレーンに基づいて表示部 2 3 3 にアイコン画像 6 0 i を表示させる。このため、利用者は、アイコン画像 6 0 i の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識できる。したがって、コンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数により示される、各コンテンツに対する嗜好性を容易に認識できる。

【図面の簡単な説明】

【0 2 6 3】

【図 1】第 1 実施形態に係るコンテンツ記録再生システムの概略構成を示すブロック図である。

【図 2】前記第 1 実施形態における記録再生装置の H D D に記憶されたコンテンツ情報の概略構成を示す模式図である。

【図 3】前記第 1 実施形態におけるコンテンツ情報に組み込まれたメイン T S パケットの概略構成を示す模式図である。

【図 4】前記第 1 実施形態における記録再生装置の R A M の概略構成を示す模式図である。

【図 5】前記第 1 実施形態における記録再生装置の C P U の概略構成を示すブロック図である。

【図 6】前記第 1 実施形態におけるコンテンツデータの記録処理を示すフローチャートである。

【図 7】前記第 1 実施形態におけるサムネイルの表示処理を示すフローチャートである。

【図 8】前記第 1 実施形態におけるサムネイルの表示処理を示すフローチャートである。

【図 9】前記第 1 実施形態における経過日数とアルファ値との関係を示すグラフである。

【図 1 0】前記第 1 実施形態におけるコンテンツデータを再生した日時とサムネイルを出力装置に表示させる日時との関係を示す模式図である。 (A) : コンテンツデータを 2 0 0 2 年 5 月 3 1 日に再生した後、同日にサムネイルを表示させた場合の模式図である。 (B) : (A) からコンテンツデータを再生することなく 2 0 0 2 年 6 月 1 4 日にサムネイルを表示させた場合の模式図である。 (C) : (B) からコンテンツデータを再生することなく 2 0 0 3 年 6 月 1 5 日にサムネイルを表示させた場合の模式図である。

【図 1 1】前記第 1 実施形態における出力装置に表示されるサムネイルを示す模式図である。

【図 1 2】前記第 1 実施形態におけるコンテンツデータの再生処理を示すフローチャートである。

【図 1 3】第 2 , 3 実施形態に係る H P 表示システムの概略構成を示すブロック図である。

【図 1 4】前記第 2 , 3 実施形態におけるサーバ装置の記憶手段の概略構成を示す模式図である。

【図 1 5】前記第 2 実施形態におけるサーバ装置の記憶手段に記憶された H P 表示情報の概略構成を示す模式図である。

【図 1 6】前記第 2 実施形態におけるサーバ装置の処理部の概略構成を示すブロック図である。

【図 1 7】前記第 2 実施形態における端末装置のメモリに記憶された端末 H P 情報の概略構成を示す模式図である。

【図 1 8】前記第 2 実施形態における端末装置の C P U の概略構成を示すブロック図である。

【図 1 9】前記第 2 , 3 実施形態におけるアイコンの加工処理を示すフローチャートである。

【図 2 0】前記第 2, 3 実施形態におけるアクセスタイムの更新処理を示すフローチャートである。

【図 2 1】前記第 3 実施形態におけるサーバ装置の記憶手段に記憶された H P 表示情報の概略構成を示す模式図である。

【図 2 2】前記第 3 実施形態におけるサーバ装置の処理部の概略構成を示すブロック図である。

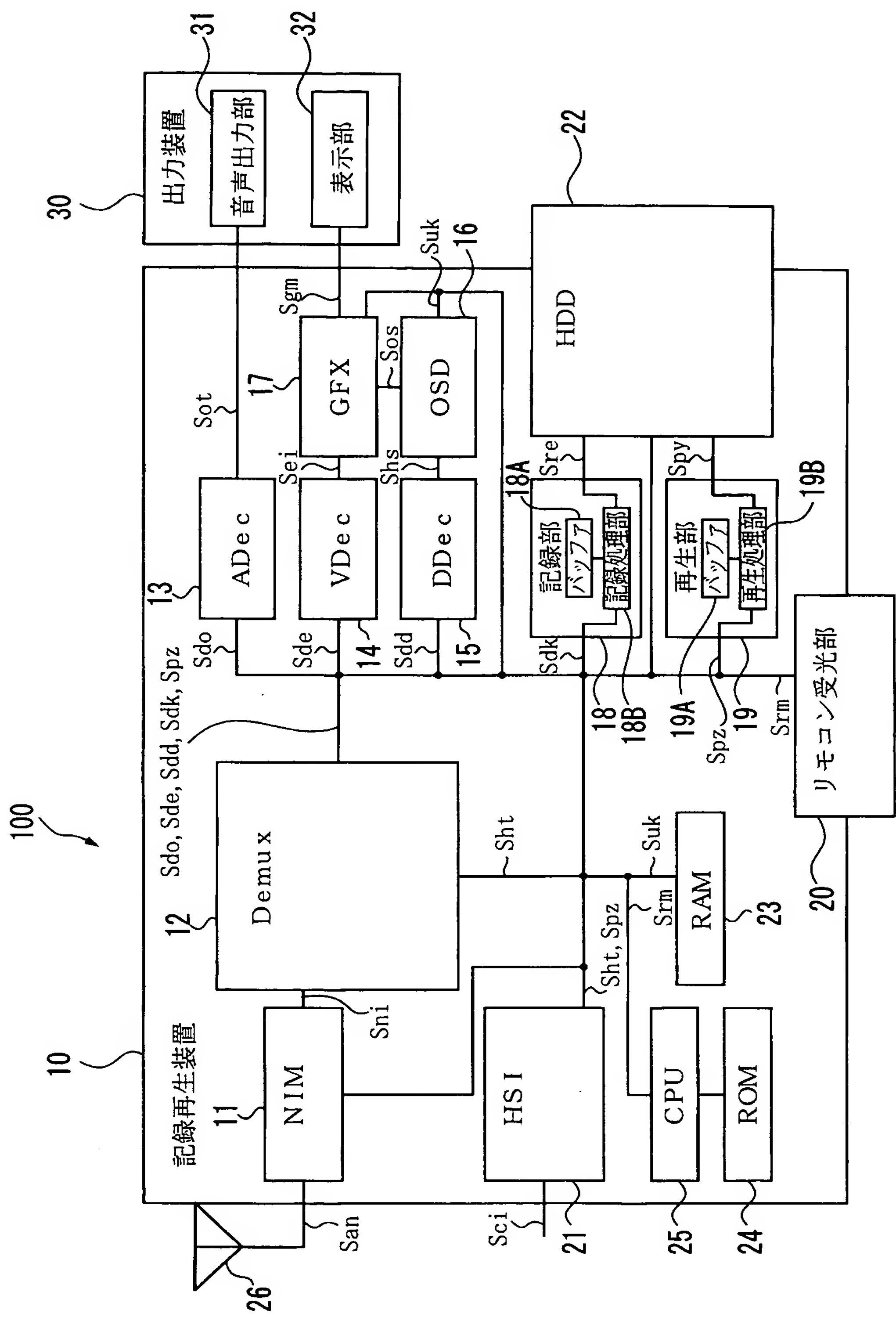
【図 2 3】前記第 3 実施形態における端末装置の C P U の概略構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

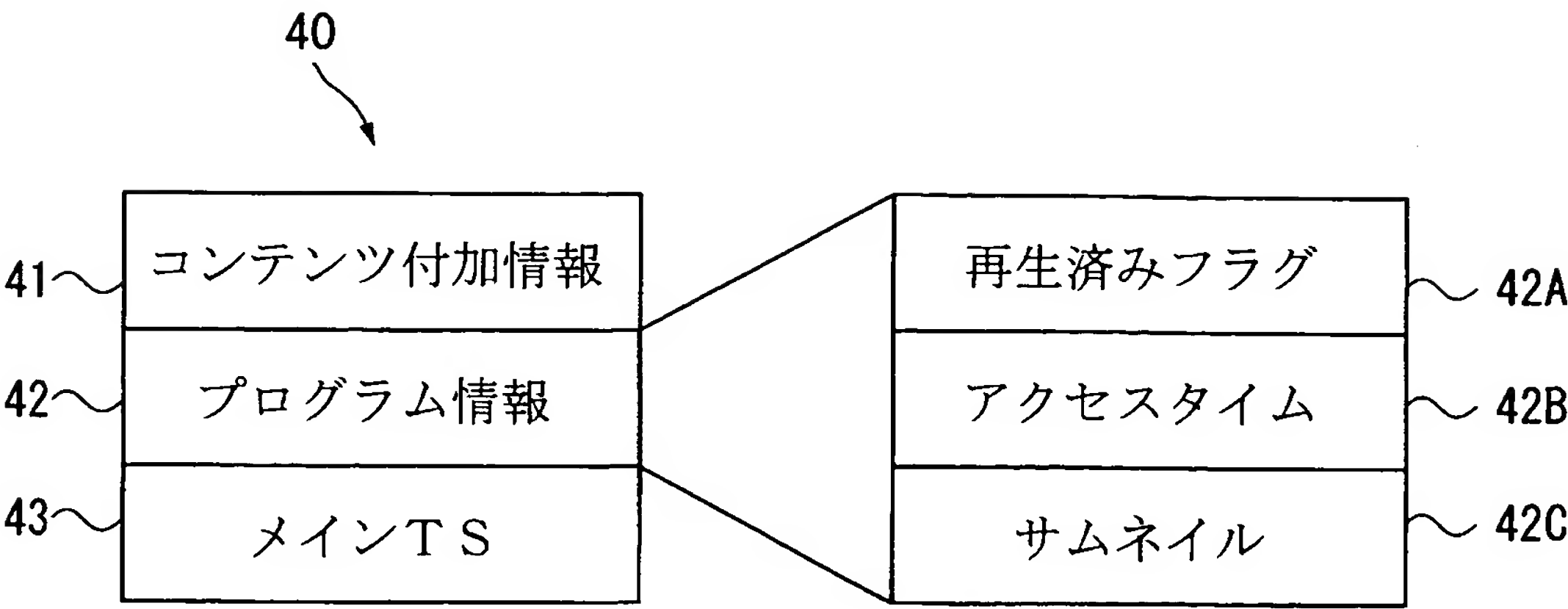
【0 2 6 4】

- 1 0 表示制御装置としての記録再生装置
- 1 7 表示形態変更手段としてのグラフィックス
- 2 5 B 再生日時記憶手段であるコンテンツ情報生成手段
- 2 5 C 表示形態変更手段としてのサムネイル加工手段
- 4 2 B, 2 5 4, 3 4 5 コンテンツデータ再生日時としてのアクセスタイム
- 5 0 i 代表静止画像としてのサムネイル画像
- 6 0 i 代表静止画像としてのアイコン画像
- 2 3 0 表示制御装置としての端末装置
- 2 3 3 表示手段としての表示部
- 2 3 6 B, 3 2 3 A 表示形態変更手段としてのアイコン加工手段
- 2 3 6 C, 3 2 3 B 再生日時記憶手段であるアクセスタイム更新手段
- 3 2 0 表示制御装置としてのサーバ装置
- 3 2 3 C 表示形態変更手段としても機能する送信制御手段
- T 表示要求日時としての操作時刻

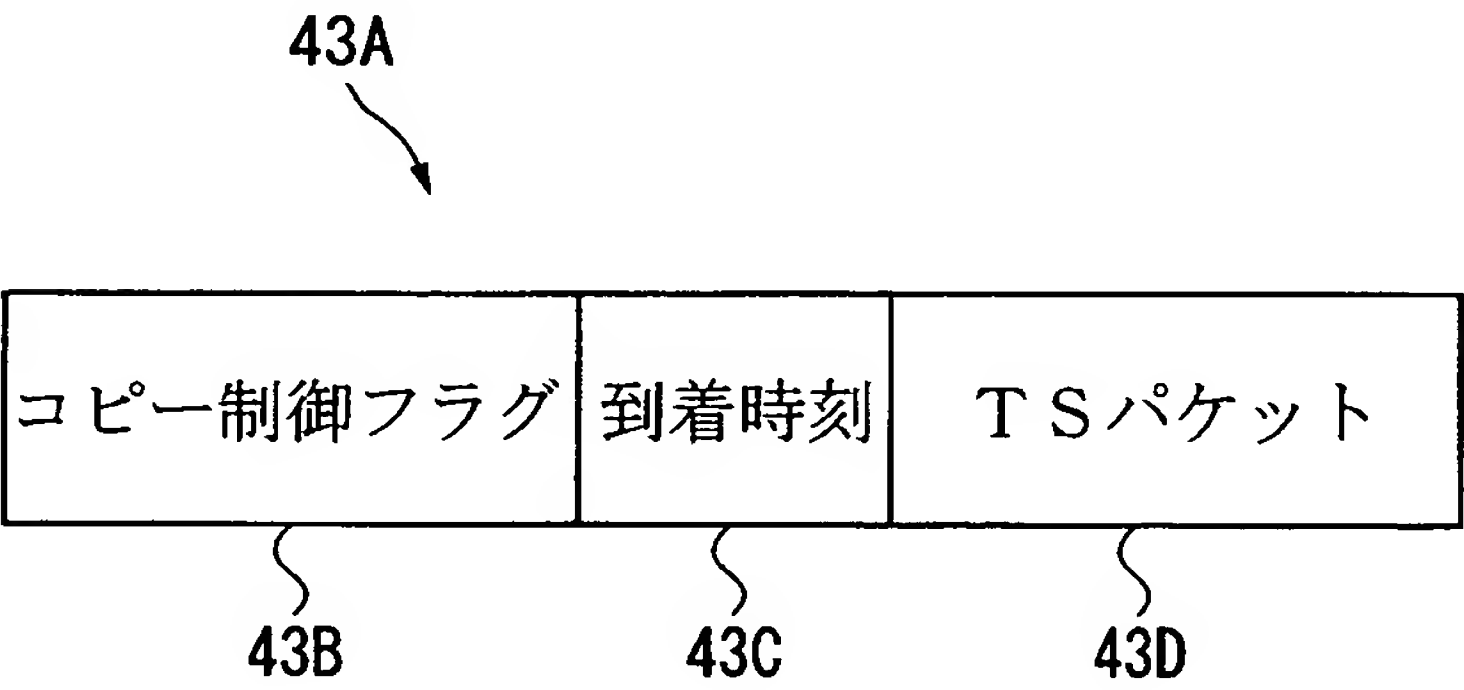
【書類名】 図面
【図 1】



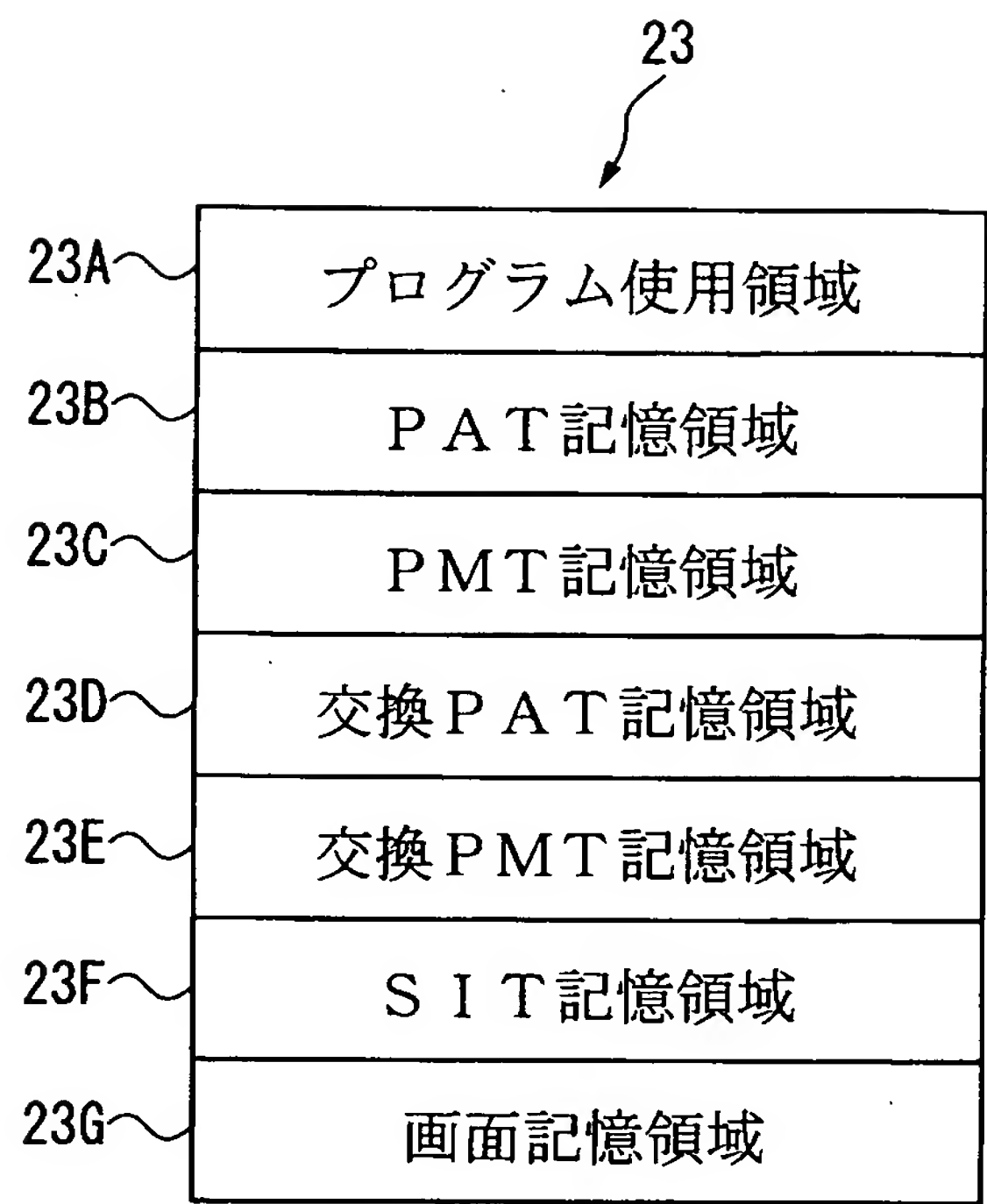
【図 2】



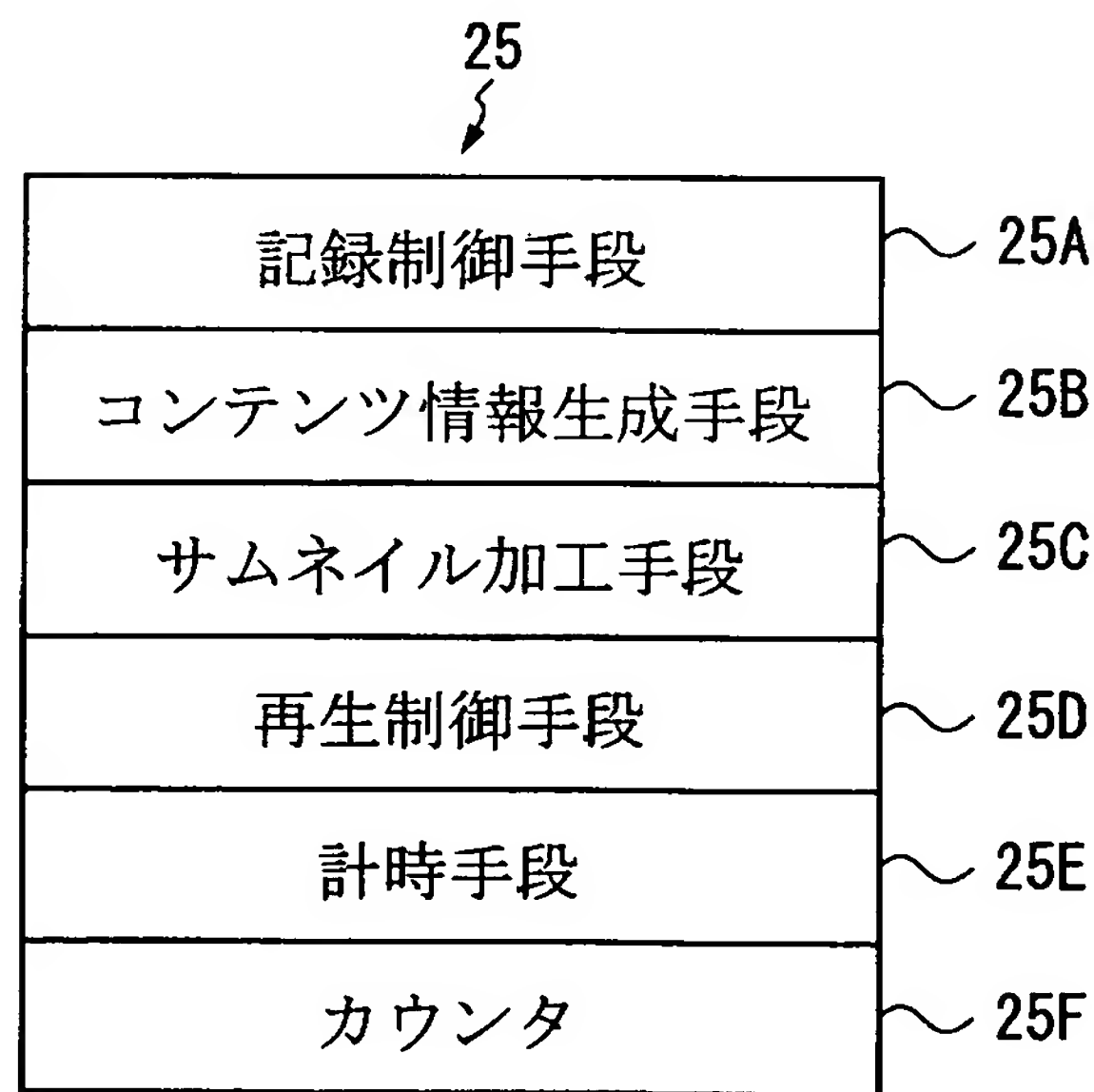
【図 3】



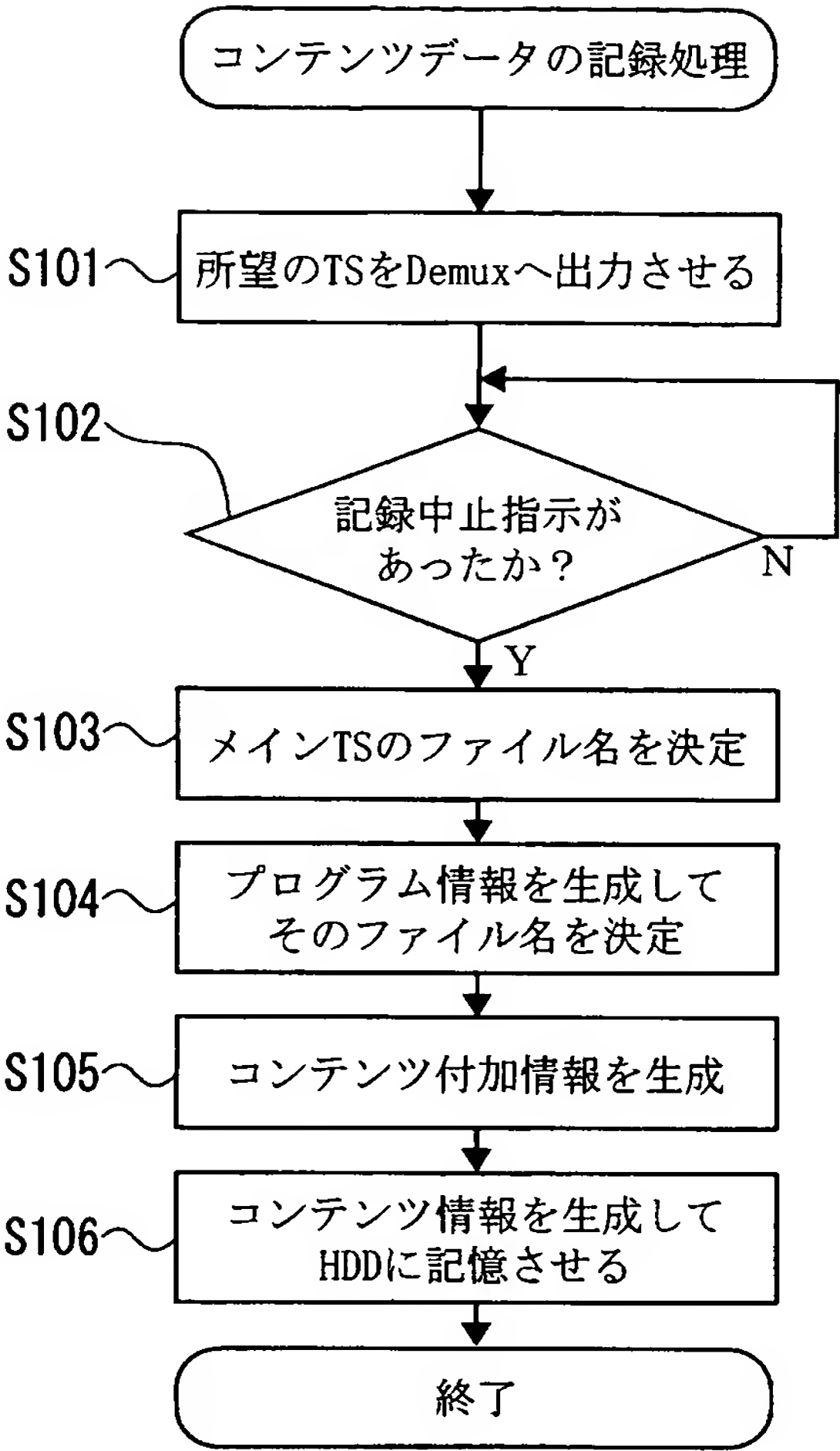
【図 4】



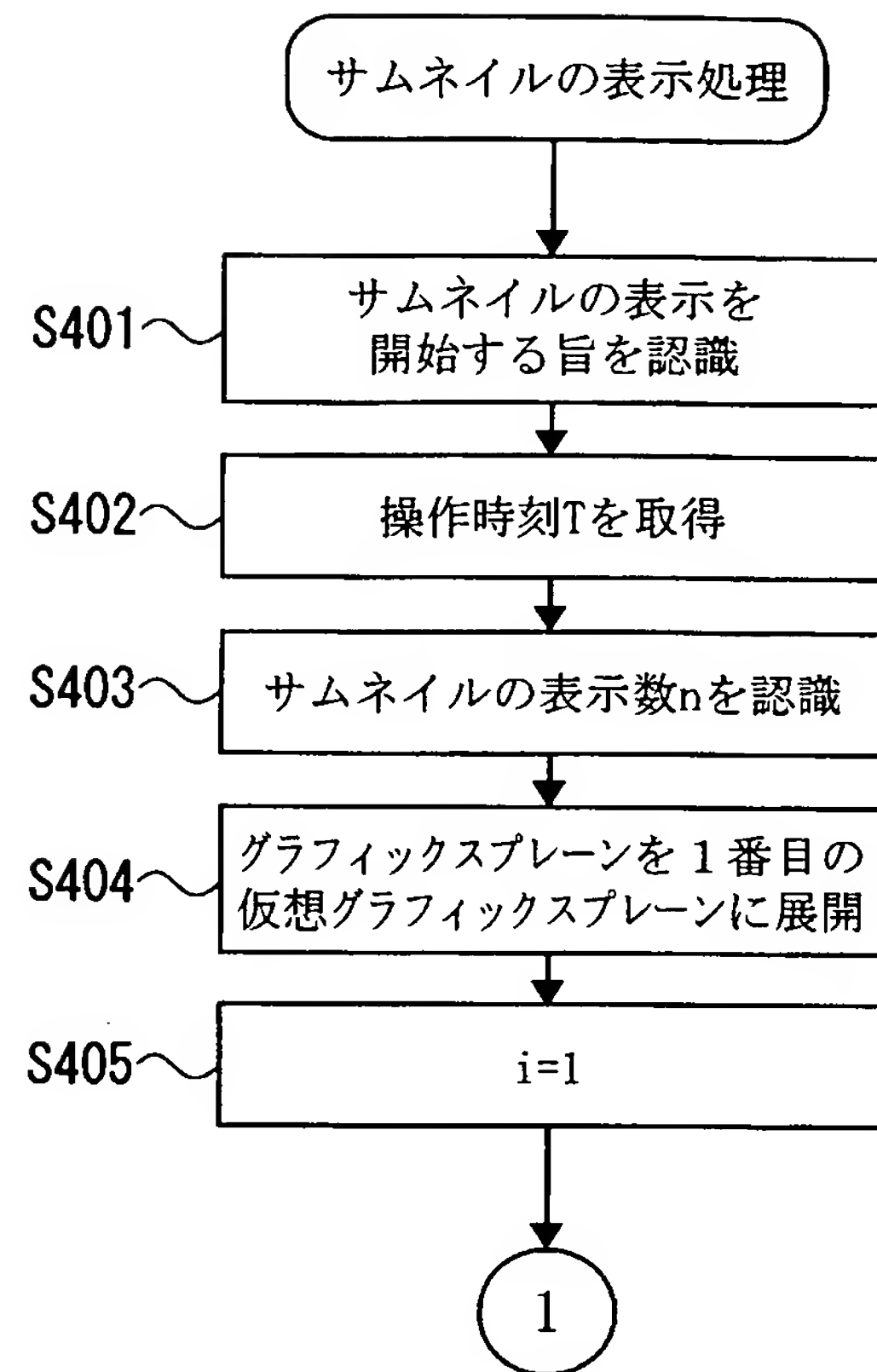
【図 5】



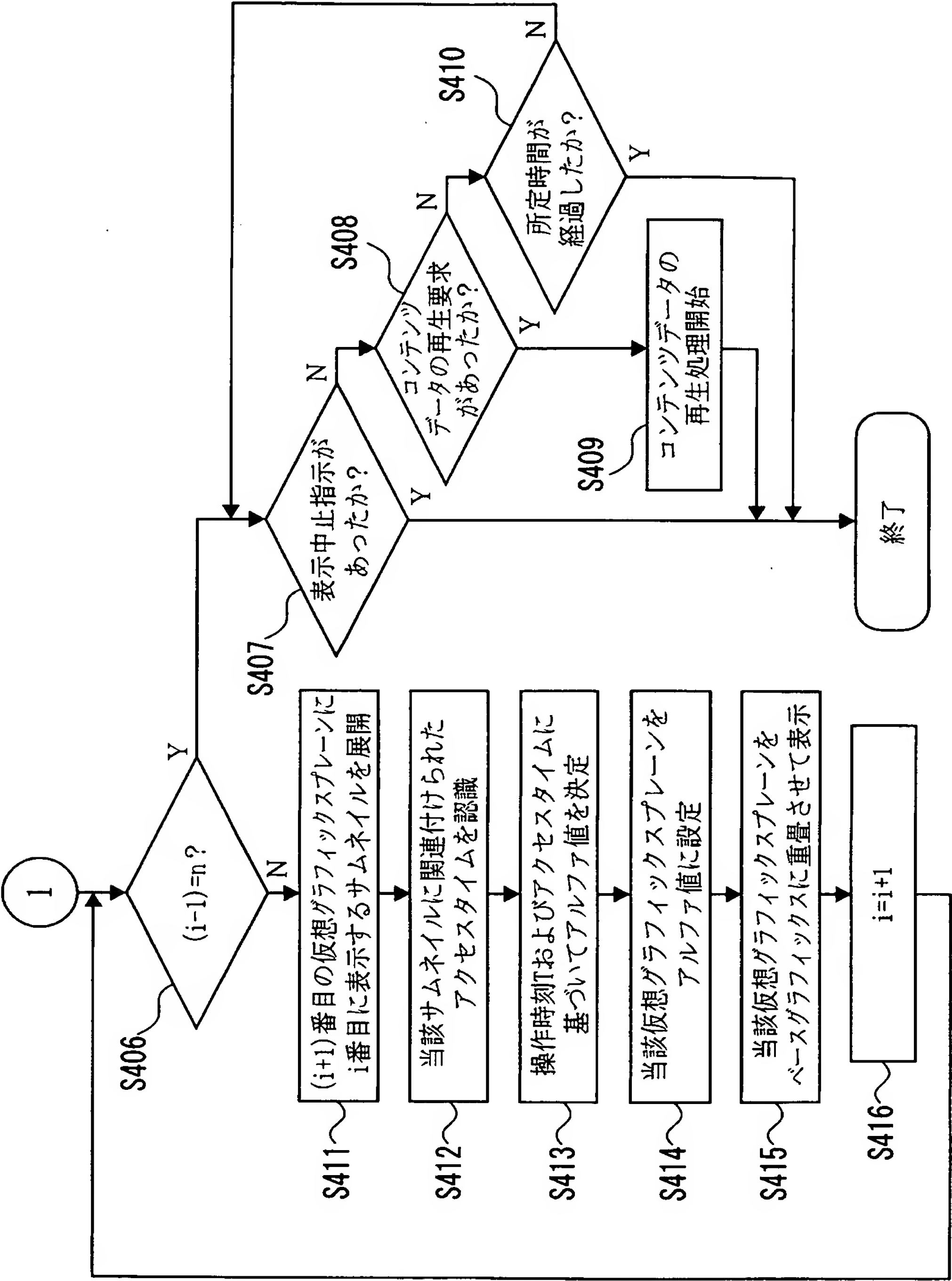
【図 6】



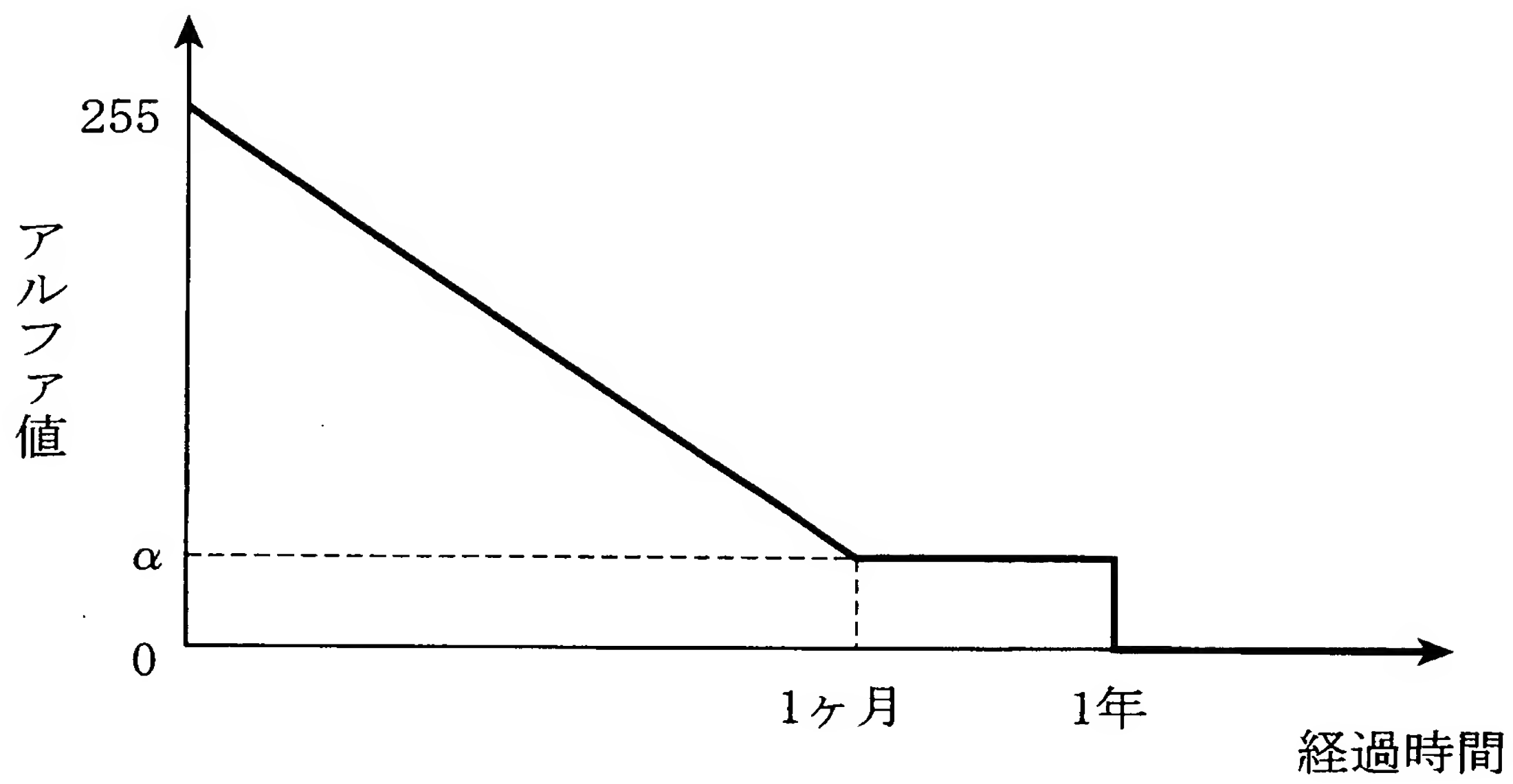
【図 7】



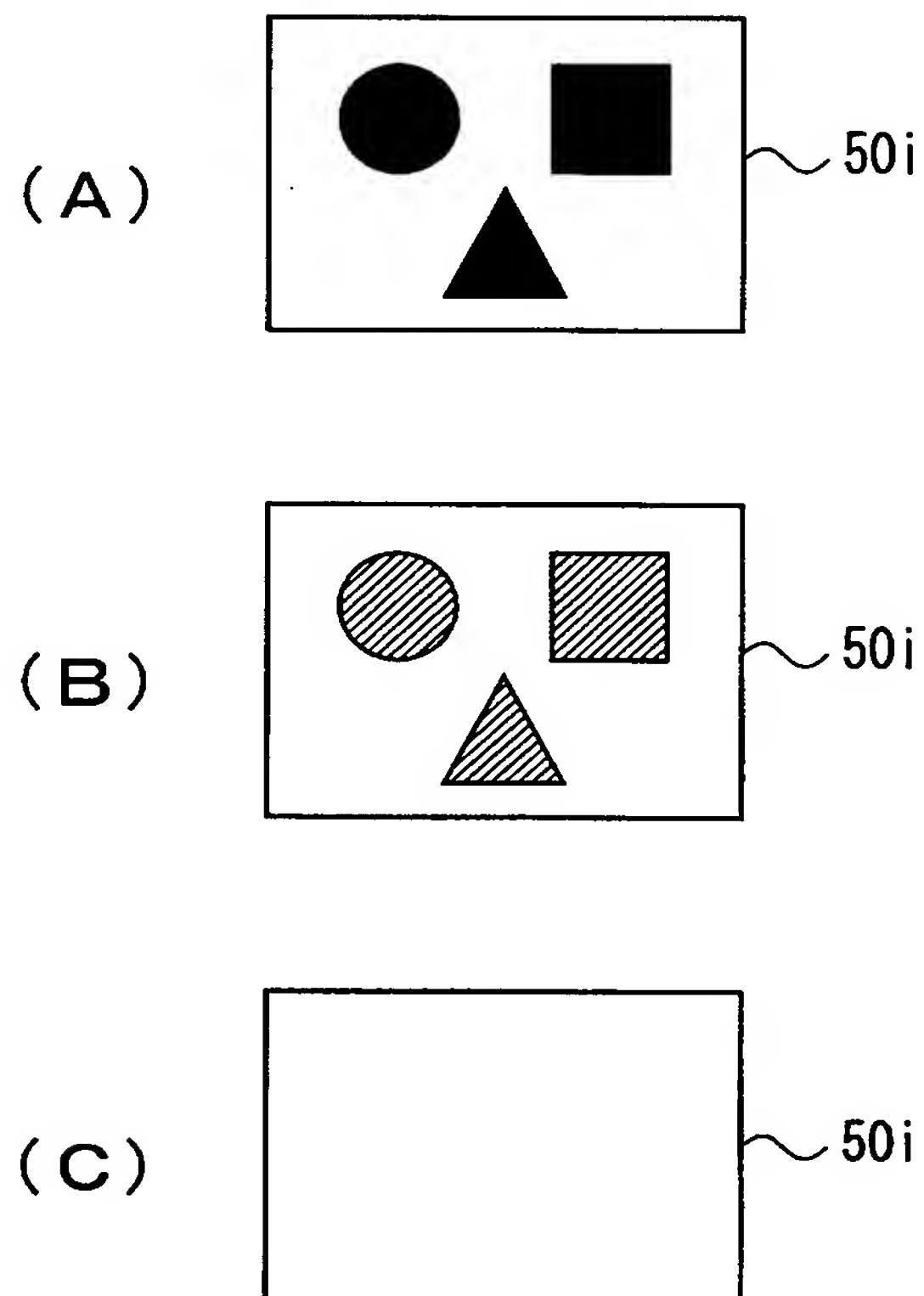
【図 8】



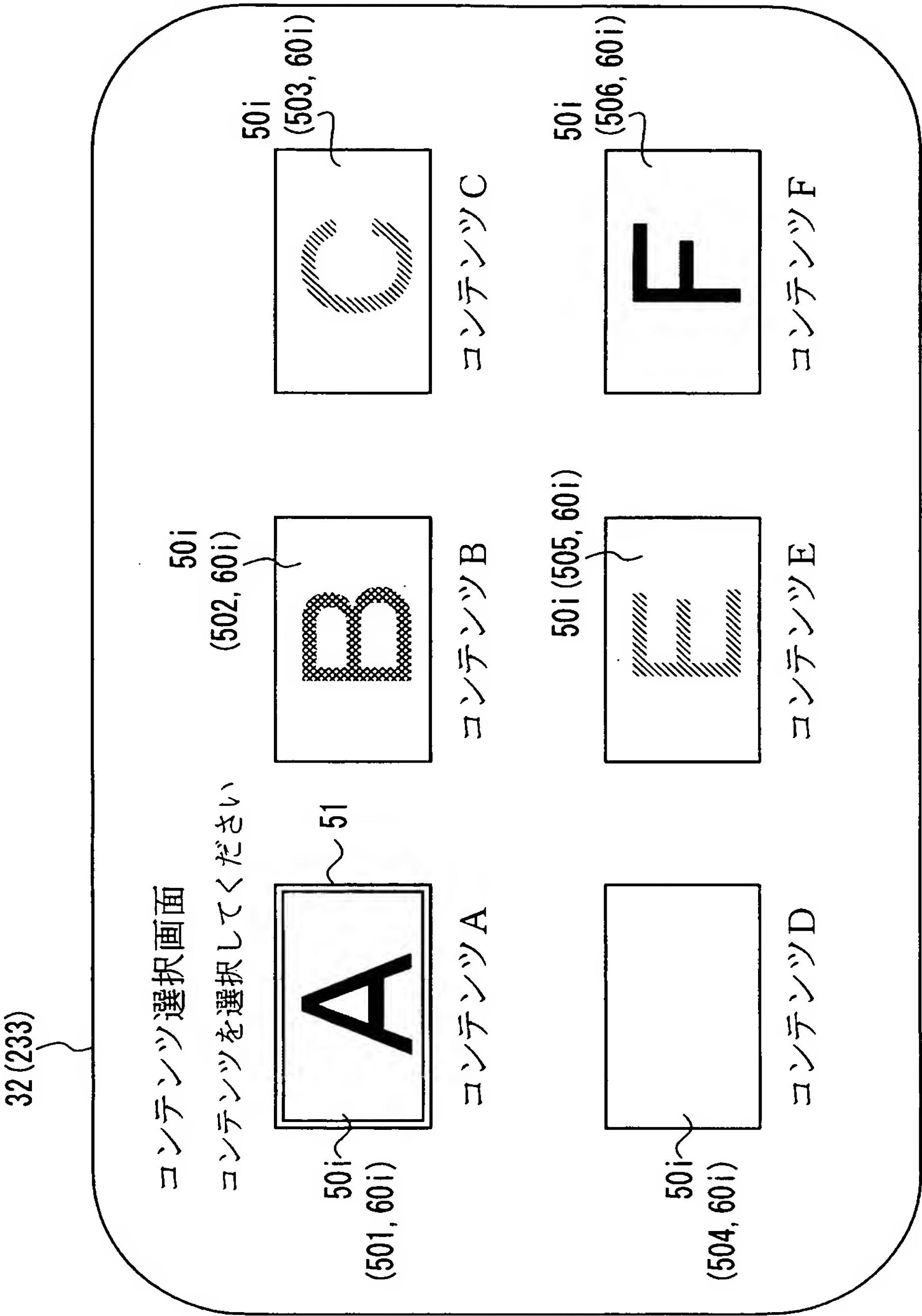
【図 9】



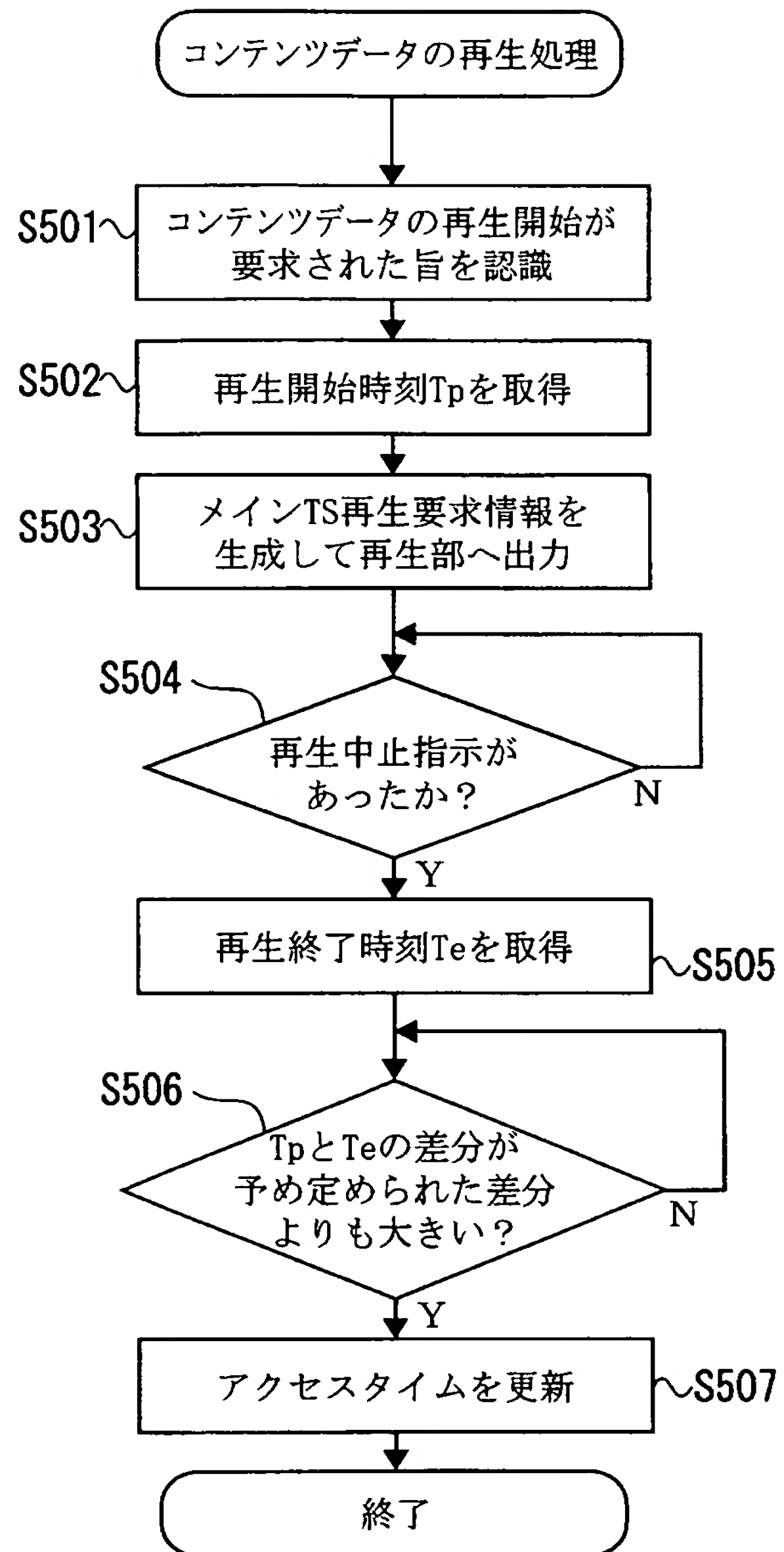
【図 10】



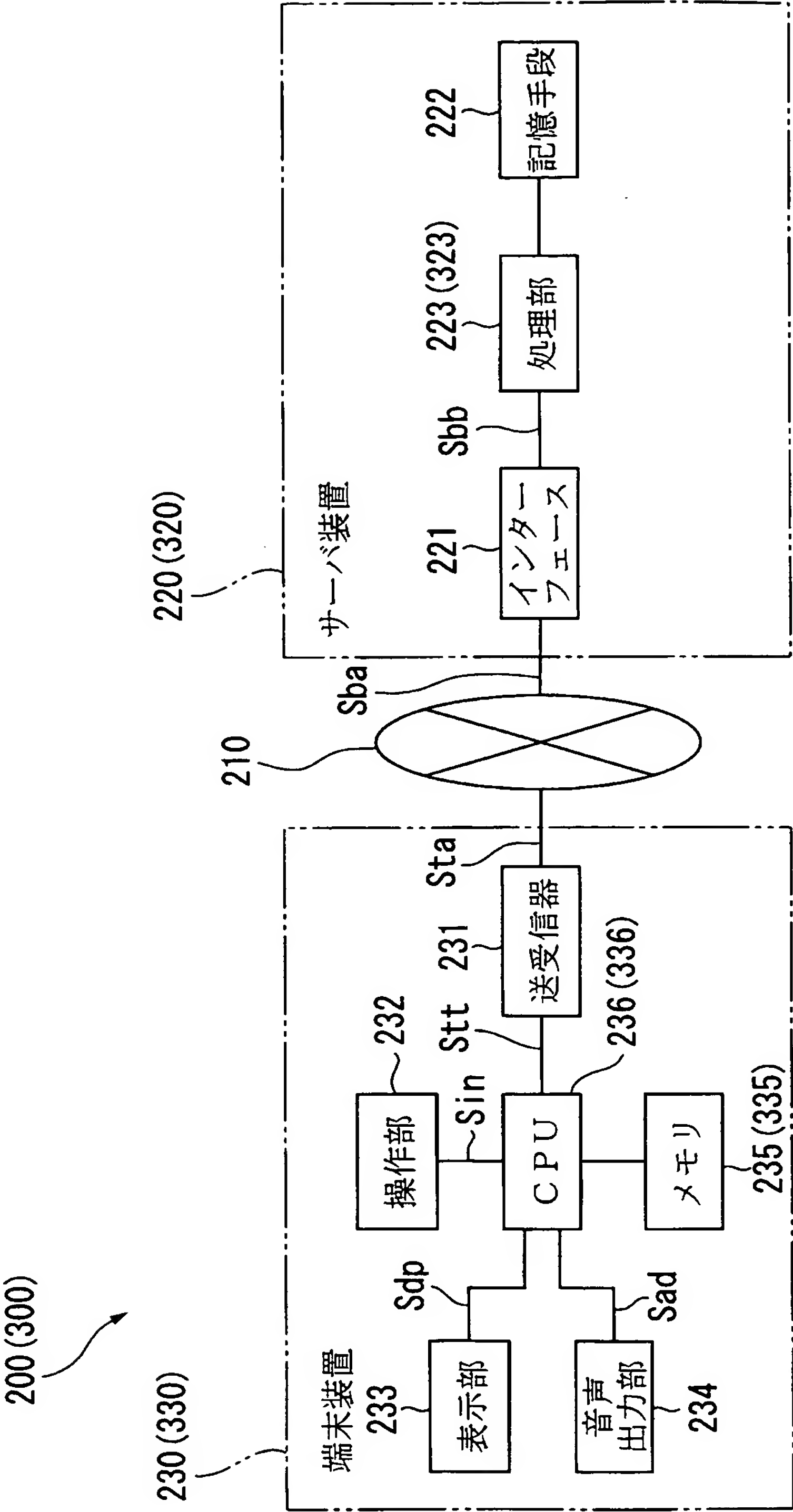
【図 1 1】



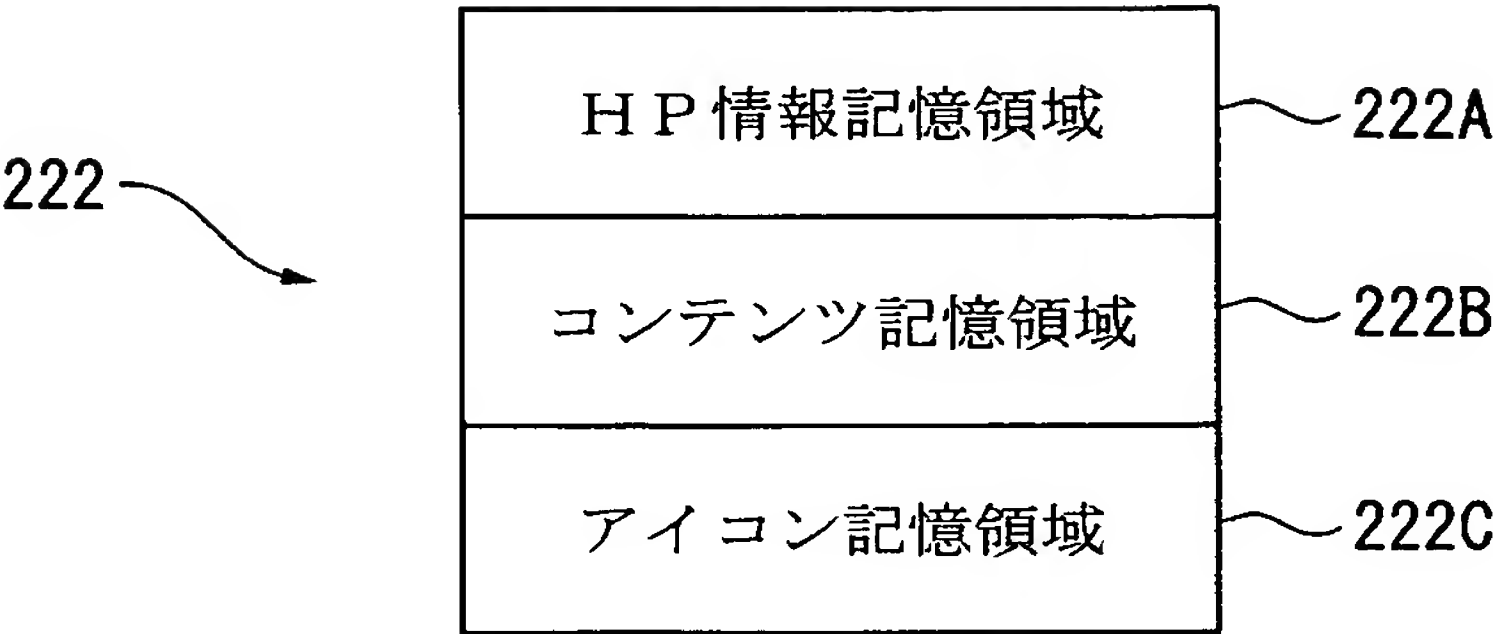
【図 1 2】



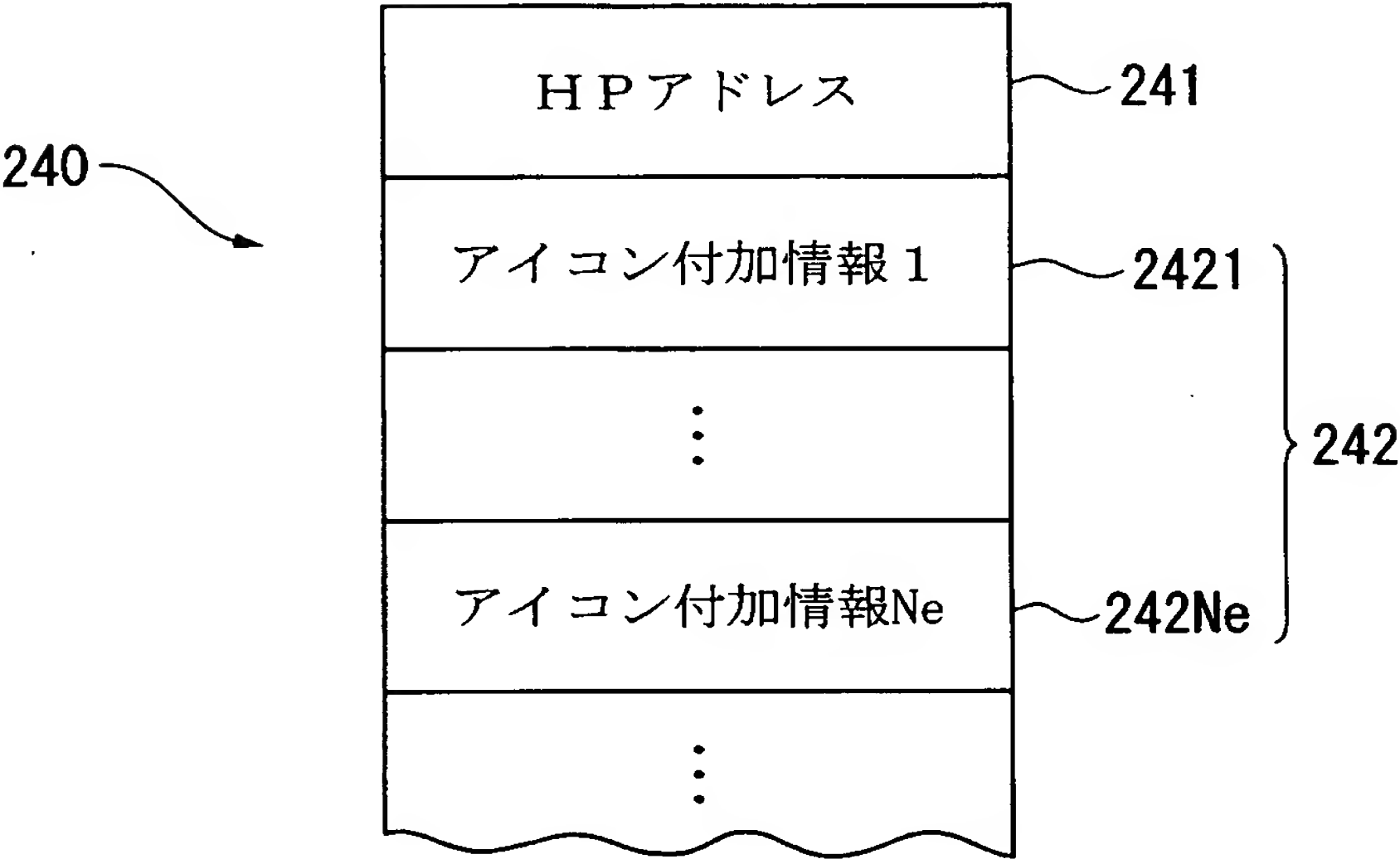
【図 1 3】



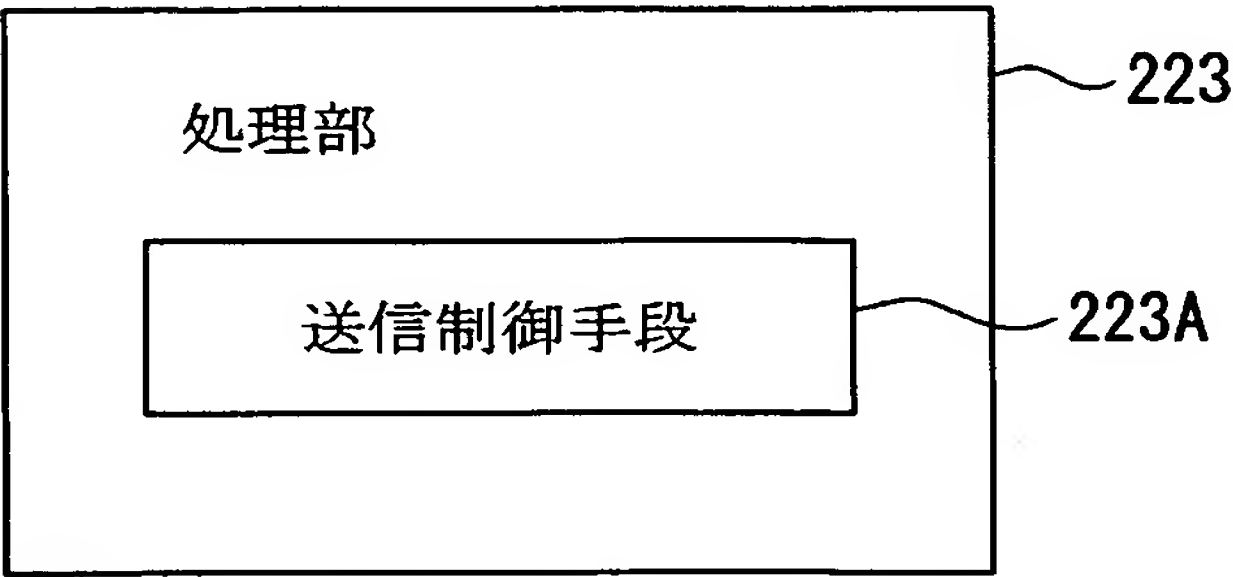
【図 1 4】



【図 1 5】



【図 1 6】

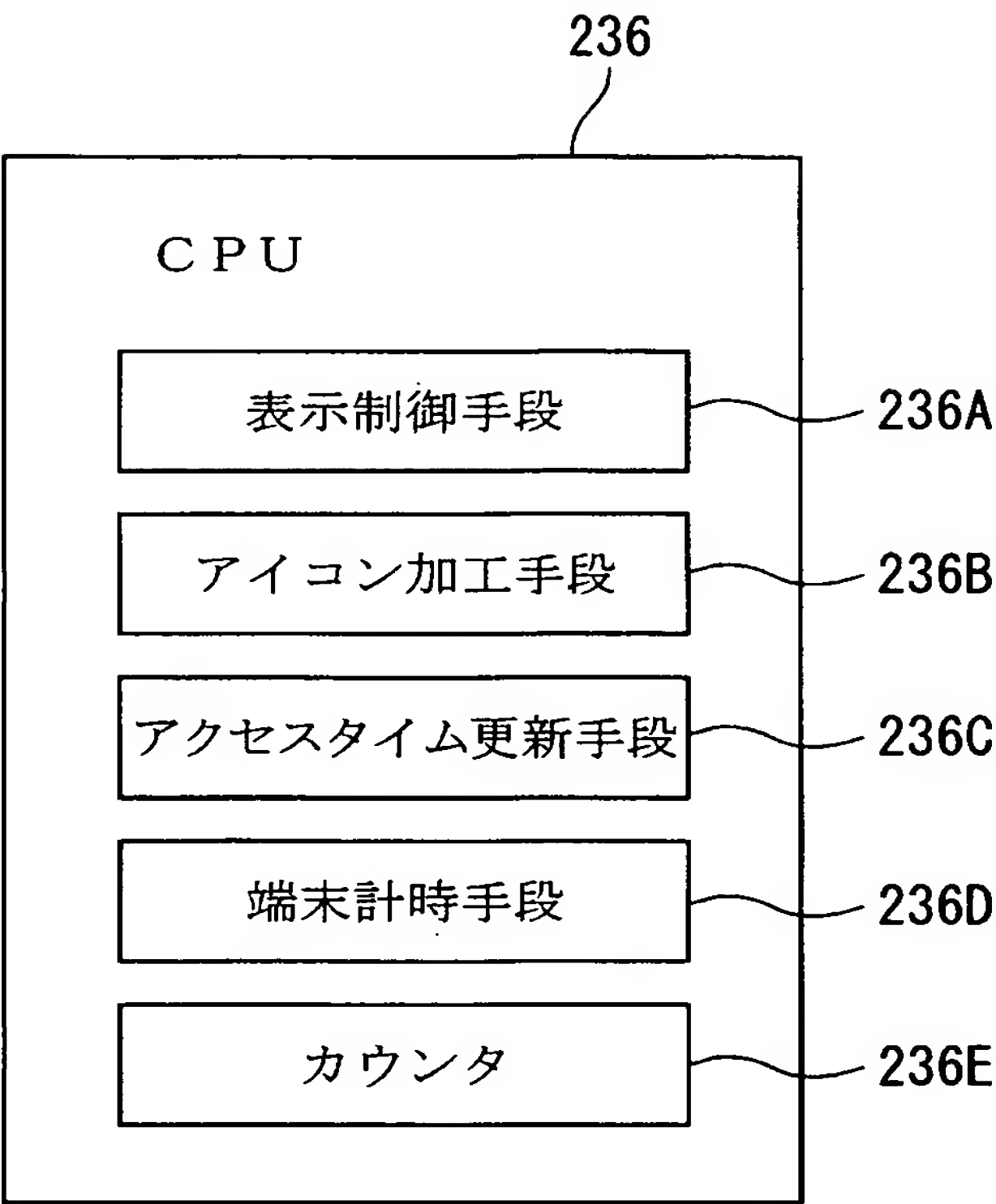


【図 1 7】

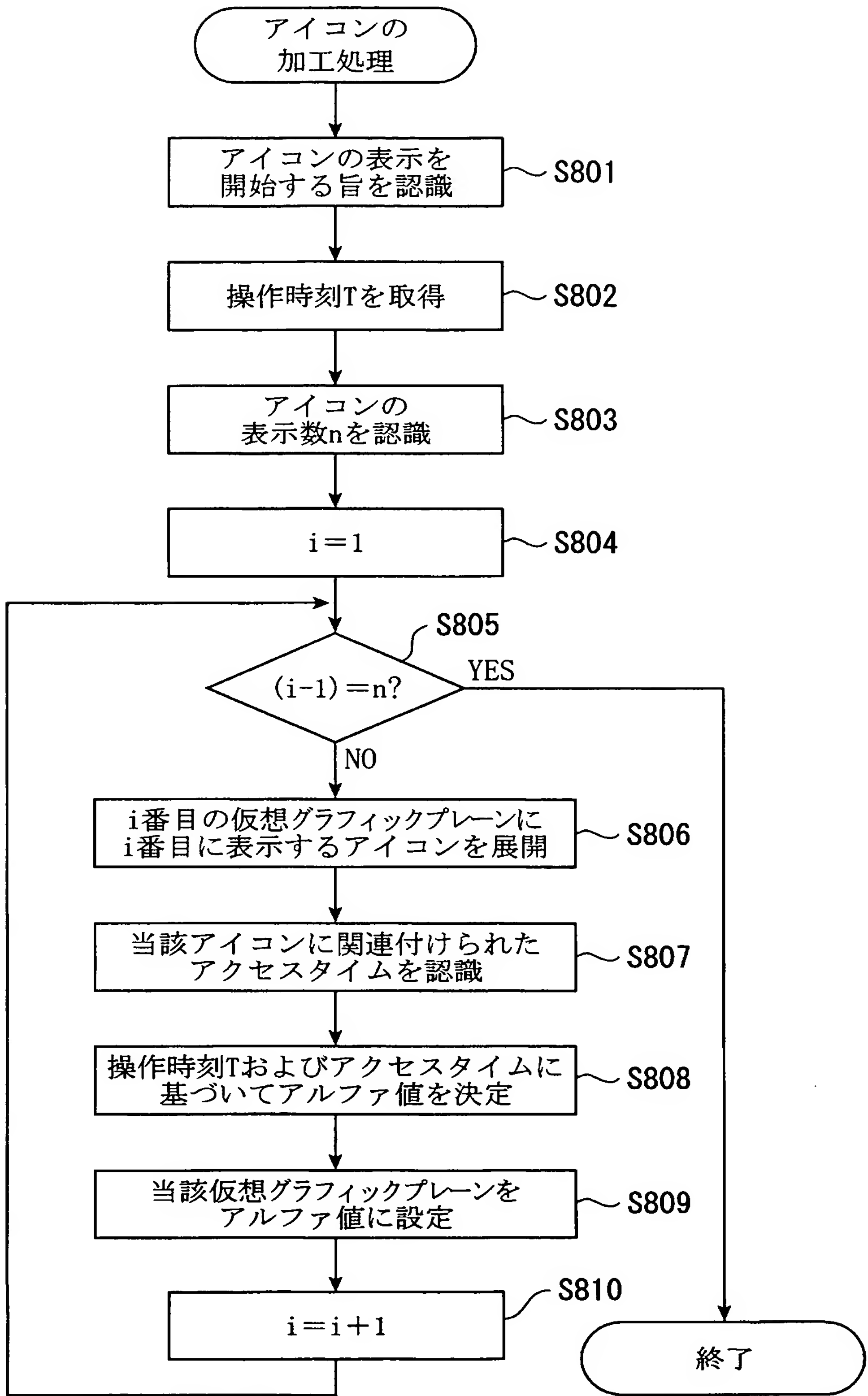
250

251	252	253	254
HPアドレス	アイコン付加情報	再生済みフラグ	アクセスタイム
http://ABC.com	de. jpg, ...	1	2003. 5. 30
http://ABC.com	fg. jpg, ...	0	2003. 3. 25
⋮	⋮	⋮	⋮
http://XYZ. co. jp	ab. jpg, ...	1	2001. 6. 21
http://XYZ. co. jp	cd. jpg, ...	1	2003. 5. 31
⋮	⋮	⋮	⋮

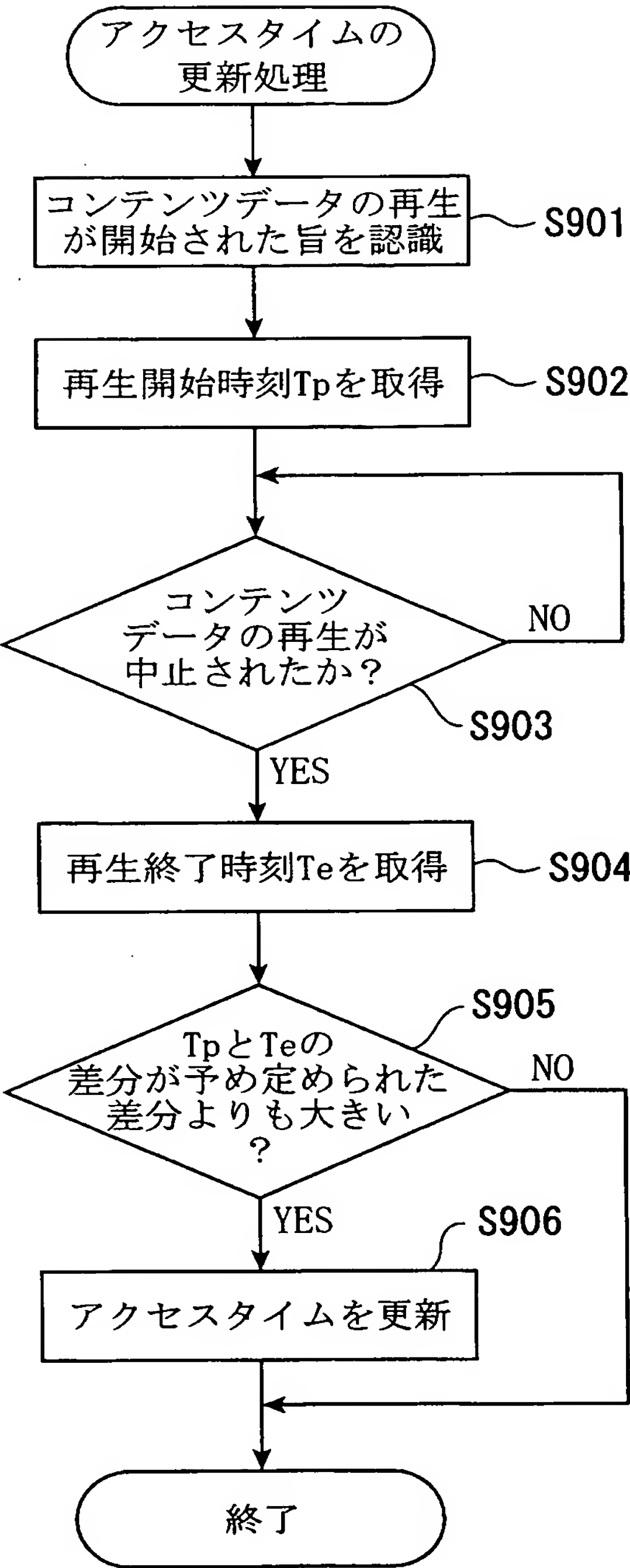
【図 1 8】



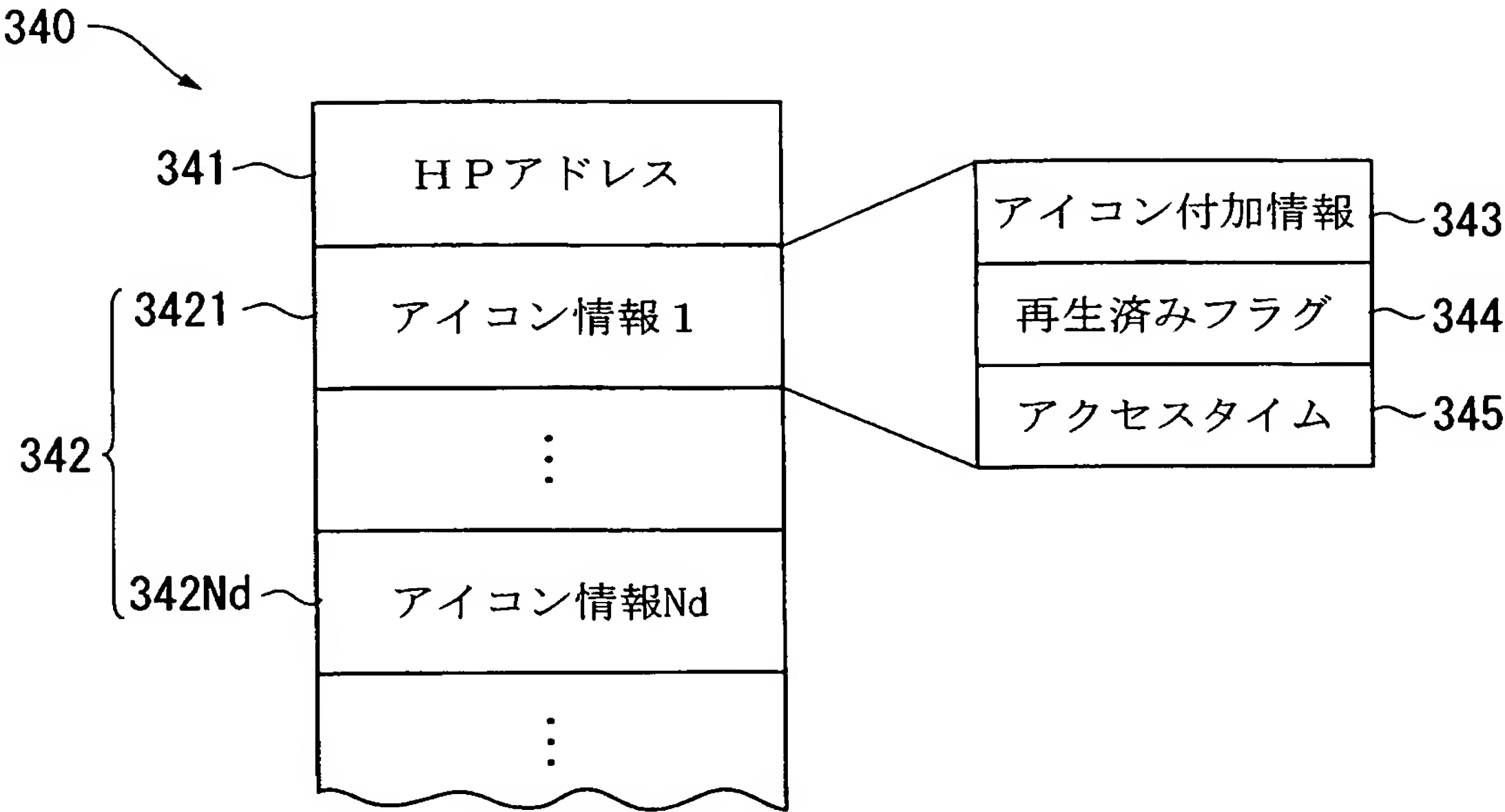
【図 19】



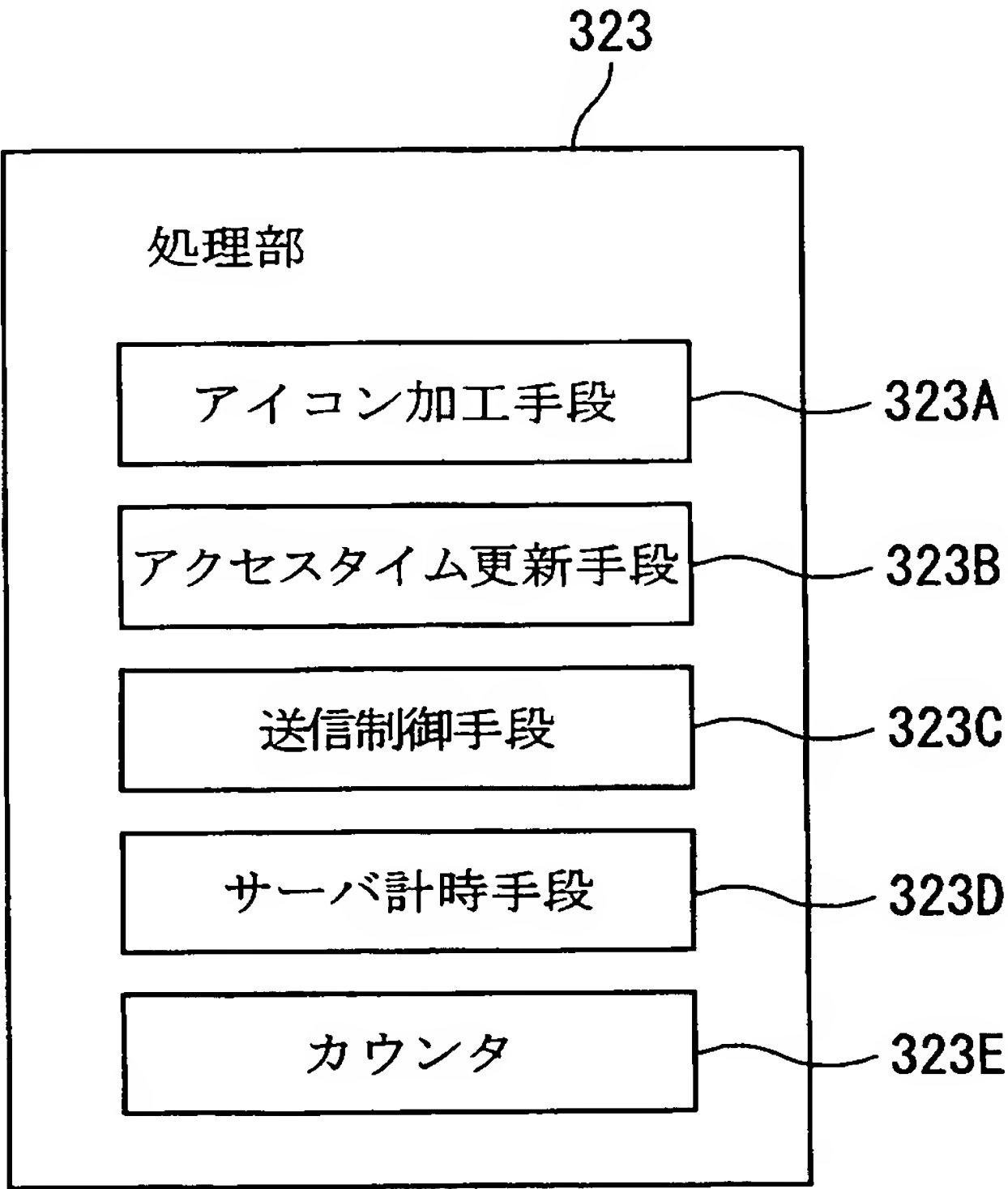
【図 2 0】



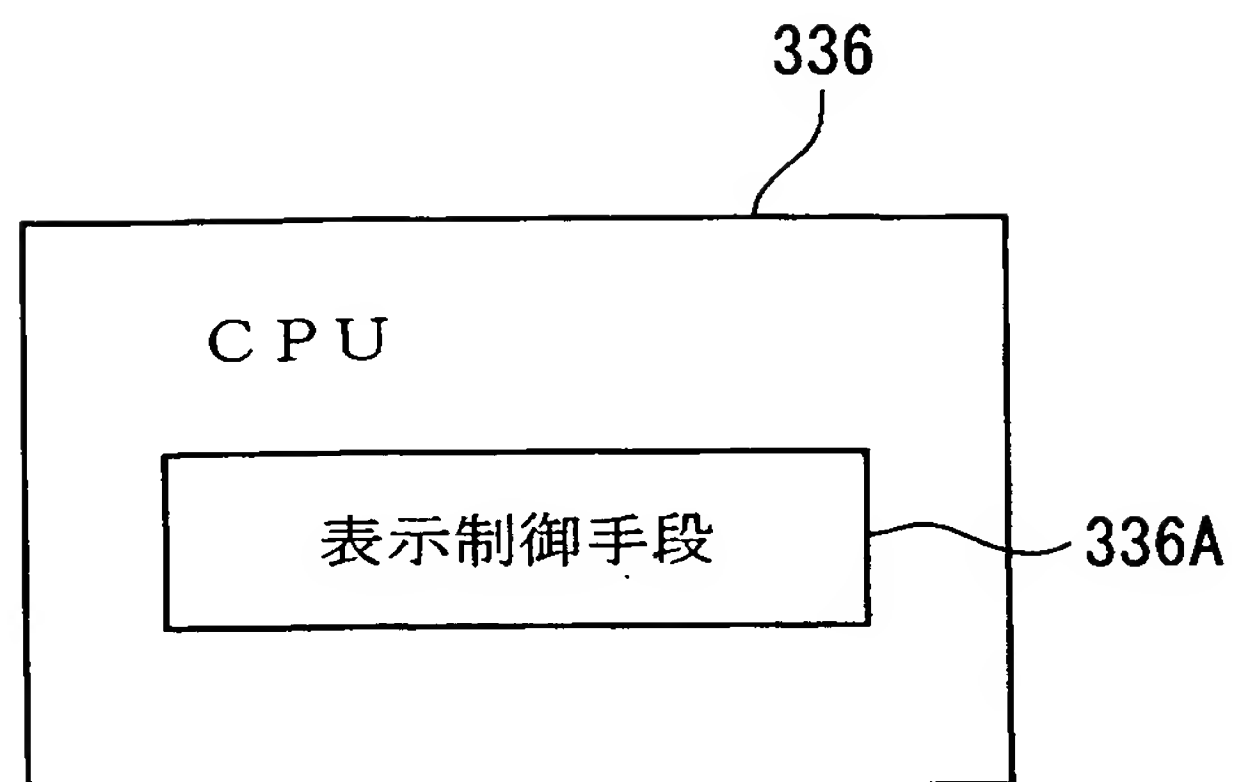
【図 2 1】



【図 2 2】



【図 2 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 データが処理されてからの経過日数を容易に認識可能な表示制御システムを提供する。

【解決手段】 コンテンツ記録再生システム 1 0 0 の記録再生装置 1 0 に、コンテンツデータの再生日時を取得するコンテンツ情報生成手段と、コンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいてコンテンツデータに関連付けられたサムネイル画像の表示形態を変更させるグラフィックスおよびサムネイル加工手段と、を備えた。このような構成により、記録再生装置 1 0 は、グラフィックスおよびサムネイル加工手段にて、コンテンツ情報生成手段にて取得したコンテンツデータの再生日時からの経過日数に基づいて、サムネイル画像の表示形態を変更させる。このため、利用者は、サムネイル画像の表示形態からコンテンツデータが最後に再生されてからの経過日数を容易に認識できる。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 3 4 2 9 1 1
受付番号	5 0 3 0 1 6 2 7 9 4 2
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0 0 9 6
作成日	平成 1 5 年 1 0 月 2 日

< 認定情報・付加情報 >
【提出日】 平成15年10月 1日

特願 2 0 0 3 - 3 4 2 9 1 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 0 1 6]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都目黒区目黒 1 丁目 4 番 1 号

氏 名

パイオニア株式会社